

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	カッポホシケン シバウコキョウダガク 学校法人 芝浦工業大学							
フリガナ大学の名称	シバウコキョウダガク 芝浦工業大学 (Shibaura Institute of Technology)							
大学本部の位置	東京都港区芝浦三丁目9番14号							
大学の目的	本学は教育基本法に基づき学校教育法の趣旨により、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工学教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的	芝浦工業大学は、現在工学部にある建築系2学科を学部として独立させ、開学以来重視してきた実践的な建築技術者教育の伝統を継承しつつ、「工学」「建築デザイン」そして「幅広い教養」の横断的融合による新たな教育を実践する。そして、広い視野で建築をデザインできる技術と次世代の様々な建築ジャンルにおいて世界で活躍できる素養を持った「建築をベースにした特色ある人材」を育成し、未来の生活空間において避けることのできない建築的課題を解決することを目的とし、豊洲キャンパスにおける都心一貫教育による「建築学部」を開設する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	開設時期及 び開設年次	所在地
	建築学部 [School of Architecture] 建築学科 [Department of Architecture]  計	年  4	人  240	年次人  —	人  960	  学士 (建築学)	年 月 第 年次  平成29年4月 第1年次	東京都江東区豊洲 三丁目7番5号
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)	<p>平成28年3月 収容定員の変更に係る学則変更認可申請中</p> <p>工学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機械工学科 [定員増] (15)</li> <li>機械機能工学科 [定員増] (15)</li> <li>材料工学科 [定員増] (15)</li> <li>応用化学科 [定員増] (15)</li> <li>電気工学科 [定員増] (15)</li> <li>通信工学科 [定員増] (15)</li> <li>電子工学科 [定員増] (15)</li> <li>土木工学科 [定員増] (15)</li> <li>情報工学科 [定員増] (15)</li> </ul> <p>システム理工学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報システム学科 [定員増] (15)</li> <li>機械制御システム学科 [定員増] (10)</li> <li>環境システム学科 [定員増] (10)</li> <li>生命科学科 [定員増] (15)</li> <li>数理科学科 [定員増] (5)</li> </ul> <p>デザイン工学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学科 [定員増] (20)</li> </ul> <p>建築学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築学科 [定員増] (240)</li> </ul> <p>工学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築学科 (廃止) (△100) ※平成29年4月学生募集停止</li> <li>建築工学科 (廃止) (△100) ※平成29年4月学生募集停止</li> </ul> <p>平成28年12月 大学院・理工学研究科専攻の設置届出予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理工学研究科 国際理工学専攻 (10)</li> </ul>							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	建築学部 建築学科		141科目	28科目	46科目	215科目	124単位			
教	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
員	新設分	建築学部 建築学科		22 (25)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	28 (31)	0 (0)	160 (89)
		計		22 (25)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	28 (31)	0 (0)	— (—)
組	既	工学部 機械工学科		8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	17 (17)
		機械機能工学科		7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	13 (13)
織	設	材料工学科		9 (9)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	12 (12)
		応用化学科		9 (10)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)
の	設	電気工学科		10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	19 (19)
		通信工学科		8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	7 (7)
概	設	電子工学科		8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		土木工学科		8 (10)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	19 (19)
要	分	情報工学科		8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	6 (6)
		共通学群		15 (15)	20 (20)	1 (1)	1 (1)	37 (37)	0 (0)	138 (138)
の	要	システム理工学部 電子情報システム学科		14 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	18 (18)
		機械制御システム学科		9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
概	要	環境システム学科		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	40 (40)
		生命科学科		8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	24 (24)
の	要	数理科学科		9 (9)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	13 (13)
		デザイン工学部 デザイン工学科		12 (12)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	82 (82)
要	分	計		154 (157)	70 (67)	3 (3)	11 (11)	238 (238)	0 (0)	438 (438)
		教育イノベーション推進センター		8 (8)	6 (6)	12 (12)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
の	要	計		162 (165)	76 (73)	15 (15)	11 (11)	264 (264)	0 (0)	— (—)
		合計		184 (190)	81 (78)	16 (16)	11 (11)	292 (295)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任	計					
	事務職員		207 (207)	226 (226)	433 (433)					
	技術職員		18 (18)	2 (2)	20 (20)					
	図書館専門職員		2 (2)	26 (26)	28 (28)					
	その他の職員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
計		230 (230)	254 (254)	484 (484)						
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	校舎敷地	125,398.64 m <sup>2</sup>	—	—	125,398.64 m <sup>2</sup>					
	運動場用地	66,516.01 m <sup>2</sup>	—	—	66,516.01 m <sup>2</sup>					
	小計	191,914.65 m <sup>2</sup>	—	—	191,914.65 m <sup>2</sup>					
	その他	10,943.55 m <sup>2</sup>	—	—	10,943.55 m <sup>2</sup>					
合計	202,858.2 m <sup>2</sup>	—	—	202,858.2 m <sup>2</sup>						

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		122,242.69㎡ (122,242.69㎡)	0.0㎡ (0.0㎡)	0.0㎡ (0.0㎡)	122,242.69㎡ (122,242.69㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	101 室	43室	294室	29室 (補助職員69人)	4室 (補助職員 -人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 建築学部 建築学科		室 数 31 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	建築学部 建築学科	193,710 [10,020] (168,171 [7,743])	497 [38] (138 [26])	9,204 [7,000] (5,319 [4,650])	836 (418)	0 (0)	0 (0)		
	計	193,710 [10,020] (168,171 [7,743])	497 [38] (138 [26])	9,204 [7,000] (5,319 [4,650])	836 (418)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積 4,410.49 ㎡	閲覧座席数 770		収 納 可 能 冊 数 254,111		大学全体		
体育館		面積 3,530.87 ㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面 サッカー場1面				大学全体		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当たり研究費等		1,119千円	1,119千円	1,119千円	1,119千円	-	-
		共同研究費等		10,800千円	10,800千円	10,800千円	10,800千円	-	-
		図書購入費	14,949千円	14,949千円	14,949千円	14,949千円	14,949千円	-	-
		設備購入費	44,510千円	44,510千円	44,510千円	44,510千円	44,510千円	-	-
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,662千円	1,382千円	1,482千円	1,482千円	-	-		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称		芝浦工業大学 (Shibaura Institute of Technology)							
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	工学部	年	人	年次 人	人		倍		東京都江東区豊洲三丁目7番5 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
	機械工学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.08	昭和24年度	
	機械機能工学科	4	100	-	400	学士 (機械機能工学)	1.09	昭和41年度	
	材料工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.06	昭和31年度	
	応用化学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.14	昭和29年度	
	電気工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.14	昭和25年度	
	通信工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.12	昭和41年度	
	電子工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.07	昭和41年度	
	土木工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.09	昭和24年度	
	建築学科	4	-	-	-	学士(工学)	1.11	昭和29年度	
	建築工学科	4	-	-	-	学士(工学)	1.16	昭和41年度	
	情報工学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.09	昭和41年度	
	システム理工学部						1.11		
	電子情報システム学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.1	平成3年度	
	機械制御システム学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.09	平成3年度	
	環境システム学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.15	平成3年度	
生命科学科	4	100	-	400	学士 (生命科学)	1.14	平成20年度		
数理科学科	4	70	-	280	学士 (数理科学)	1.04	平成21年度		

既設大学等の状況	デザイン工学部					1.14		東京都港区芝浦三丁目9番14
	デザイン工学科	4	140	—	560	1.14	平成21年度	埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
	大学院理工学研究科 修士課程					1.25		東京都江東区豊洲三丁目7番5
	電気電子情報工学専攻	2	100	—	200	0.98	昭和38年度	埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
	材料工学専攻	2	30	—	60	1.43	昭和38年度	東京都港区芝浦三丁目9番14
	応用化学専攻	2	20	—	40	1.1	昭和38年度	
	機械工学専攻	2	65	—	130	1.49	昭和51年度	
	建設工学専攻	2	90	—	180	1.21	昭和51年度	
	システム理工学専攻	2	50	—	100	1.51	平成23年度	
	博士(後期)課程					0.62		
	地域環境システム専攻	3	10	—	30	0.46	平成7年度	
	機能制御システム専攻	3	8	—	24	0.83	平成7年度	
専門職大学院 工学マネジメント研究科 専門職学位課程							東京都港区芝浦三丁目9番14	
工学マネジメント専攻	2	28	—	56	0.50	平成15年度		
附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(建築学部建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	建築デザイン基礎 1	1前	2				○		3					兼5 兼1	共同
	建築デザイン入門	1前		2			○		1						
	居住空間史	1前		2			○		2						
	力学の基礎	1前		2			○		4	1					
	デザイン史	1後		2			○							兼1	
	建築デザイン基礎2	1後	2				○		2					兼7 兼1	共同
	建築の形態と空間	1後		2			○		1						
	建築環境工学1	1後	2				○		2						オムニバス
	構造力学・演習	1後	3				○		2						
	空間建築デザイン演習 1	1後		2				○	2						共同
	都市建築デザイン演習1	1後		2				○			1			兼1	共同
	建築図のづくり	1後		2				○		1					
	建築スタジオ演習1	1後		2				○	1					兼2	共同
	住生活論	2前		2				○						兼1	
	CAD・CG演習	2前		2				○	1					兼3	共同
	都市地域計画	2前		2				○	2	1					
	建築環境工学2	2前		2				○	1					兼1 兼2	オムニバス
	材料力学・演習	2前		3				○	1						
	建築構造計画	2前		2				○	1	1					
	構造材料	2前		2				○		1				兼1	
	空間建築デザイン演習2	2前		2				○	1					兼5	共同
	建築設計計画論	2前		2				○	1						
	都市建築デザイン演習2	2前		2				○	2					兼5	共同
	建築計画 1	2前		2				○	1						
	西洋建築史	2前		2				○	1						
	建築スタジオ演習2	2前		2				○	2					兼1	共同
	プロジェクト研究1	2前		2				○	1	1					
	色彩・素材論	2後		2				○						兼1	
	建築環境心理学	2後		2				○						兼1	
	日本建築史	2後・3前		2				○	2						
	BIM演習1	2後		2				○		1				兼3	共同
	建築設備	2後		2				○	2						
	建築構造解析・演習	2後		3				○	1	1				兼1	
	仕上げ材料	2後		2				○		1				兼1	
	空間建築デザイン演習3	2後		2				○	3					兼4 兼1	共同
	建築設計論	2後		2				○	1						
	地域設計論	2後		2				○	2						
	建築史	2後		2				○	1						
	建築構法	2後		2				○	1						
	都市建築デザイン演習3	2後		2				○	1					兼5	共同
都市建築論	2後		2				○	1							
地域マネジメント	2後		2				○		1						
木造建築	2後		2				○	1							
建築スタジオ演習3	2後		2				○		1				兼2	共同	
プロジェクト研究2	2後		2				○	1					兼2		
BIM演習2	3前		2				○		1				兼4	共同	
空調システム計画	3前		2				○	2							
都市環境設備計画	3前		2				○	1							
建築振動解析	3前		2				○	1					兼1		
鉄筋コンクリート造の設計1	3前		2				○	2							

専 門 科 目	鋼構造の設計	3前	2	○			1		兼1	オムニバ ス・共同 (一部) 共同
	建築環境実験	3前	2			○	3		兼2	
	空間建築デザイン演習4	3前	2		○		4		兼4	
	近代建築と技術	3前	2	○					兼1	
	建築構法計画論	3前	2	○			1			
	建築法規	3前	2	○					兼1	
	都市住宅論	3前	2	○			1			
	建築生産	3前	2	○				1		
	建築材料施工実験	3前	2			○		1	兼1	共同
	建築構造実験	3前	2			○	2	1		共同
	都市建築デザイン演習4	3前	2		○		5		兼3	共同
	都市地域デザイン演習	3前	2		○		1	1	兼1	共同
	近代建築作家論	3前	2	○			1			
	都市デザイン論	3前	2	○			1			
	建築プロジェクトマネジメント	3前	2	○				1		
	建築構工法1	3前	2	○			1			
	建築材料構造実験	3前	2			○	2			共同
	建築スタジオ演習4	3前	2		○		1	1		
	空間情報デザイン演習	3前	2		○		1		兼1	共同
	プロジェクト研究3	3前	2	○			1		兼2	
	建築英語	3後	2	○					兼1	
	GIS演習	3後	2		○		1			
	プロジェクトゼミ	3後	2			○	22	5	1	
	建築音響計画	3後	2	○					兼1	
	給排水システム計画	3後	2	○					兼1	
	光環境計画	3後	2	○					兼1	
	基礎構造	3後	2	○					兼1	
	鉄筋コンクリート造の設計2	3後	2	○			1			
	マトリックス構造解析	3後	2	○			1			
	建築防災	3後	2	○			1			
	空間地域デザイン演習	3後	2		○		2		兼1	共同
	ランドスケープ論	3後	2	○					兼1	
	建築文化史	3後	2	○			1			
	施工計画・管理	3後	2	○					兼1	
	木造建築の設計	3後	2	○					兼1	
	建築計画2	3後	2	○			1			
	建築・都市法規	3後	2	○			1			
	都市開発マネジメント	3後	2	○					兼2	
	近代建築史	3後	2	○					兼1	
	建築経済	3後	2	○					兼1	
	建築構工法2	3後	2	○					兼1	
	空間保全再生計画	3後	2	○					兼1	
維持保全・改修	3後	2	○			1	1			
卒業研究	4通	4			○	22	5	1		
建築家職能論	4前	2	○					兼1		
都市防災計画	4前	2	○					兼1		
海外建築研修	2後	2			○	1		兼1	集中・ 共同	
国内プロジェクト1	1・2・3前	1			○		1		集中	
国内プロジェクト2	1・2・3後	1			○		1		集中	
国内プロジェクト3	1・2・3前	1			○		1		集中	
国内プロジェクト4	1・2・3後	1			○		1		集中	
インターンシップ1	3・4前	1			○		1		集中	
インターンシップ2	3・4後	1			○		1		集中	
国際プロジェクトA	1・2・3・4前	1			○		1		集中	
国際プロジェクトB	1・2・3・4後	1			○		1		集中	
韓国建築実習A	3前	2			○	2			共同・ 集中・ 隔年	

専門科目	韓国建築実習B	3前		2				○	2								共同・集中・隔年		
	フランス建築実習A	3前		2				○	1		1						共同・集中・隔年		
	フランス建築実習B	3前		2				○	1		1						共同・集中・隔年		
	イタリア建築実習A	3後		2				○	1	1					兼1	共同・集中・隔年			
	イタリア建築実習B	3後		2				○	1	1					兼1	共同・集中・隔年			
	ロシア建築実習A	3後		2				○	1						兼1	共同・集中・隔年			
	ロシア建築実習B	3後		2				○	1						兼1	共同・集中・隔年			
	芝浦工業大学通論	1前・後			2	○									兼1				
小計 (114科目)	—		13	210	2		—		22	5	1	0	0	兼88		—			
共通・教養科目	数理科目	数学基礎科目	微分積分第1	1前		2			○								兼6		
			微分積分第2	1前		2			○									兼6	
			線形代数1	1前		2			○									兼7	
			微分積分第3	1後		2			○									兼4	
			微分積分第4	1後		2			○									兼4	
			線形代数2	1後		2			○									兼6	
			確率と統計1	2前		2			○									兼3	
			微分方程式	2前		2			○									兼1	
			ベクトル解析	2前		2			○									兼1	
			フーリエ解析	2前		2			○									兼1	
			確率と統計2	2後		2			○									兼1	
			ラプラス変換	2後		2			○									兼1	
			関数論	2後		2			○									兼1	
小計 (13科目)	—		0	26	0		—		0	0	0	0	0	兼14		—			
共通・教養科目	理理科目	物理学入門	1前		2			○									兼3		
		基礎力学	1後		2			○									兼1		
		基礎力学演習	1後		2				○								兼1		
		基礎環境化学	1前・後		2			○									兼2		
		基礎電磁気学	1後		2			○									兼1		
		基礎電磁気学演習	1後		2				○								兼1		
		基礎熱統計力学	2前		2			○									兼1		
		基礎熱統計力学演習	2前		2				○								兼1		
小計 (8科目)	—		0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼6		—			
共通・教養科目	外国語科目	英語科目	Listening and Speaking I	1前		2			○								兼4		
			Reading and Writing I	1後		2			○								兼4		
			English Communication I	1後		2			○								兼5		
			TOEIC IA	2前		2			○								兼2		
			Reading IA	2前		2			○								兼1		
			Writing IA	2前		2			○								兼1		
			Presentation I	2前		2			○								兼1		
			TOEIC IB	2後		2			○								兼1		
			Reading IB	2後		2			○								兼1		
			Writing IB	2後		2			○								兼1		
			Presentation II	2後		2			○								兼1		
			TOEIC II	3前		2			○								兼1		
小計 (12科目)	—		0	24	0		—		0	0	0	0	0	兼8		—			



共通・教養科目	体育・健康科目	ゴルフ (テクニカル)	1・2・3・4前	1				○										兼1			
		ゴルフ (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4前	1					○										兼4	集中	
		ゴルフアドバンス (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4前	1					○										兼2	集中	
		フラッグフットボール (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4後	1					○										兼1		
		ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4後	1					○										兼1		
		バドミントン (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4後	1					○										兼1		
		バレーボール (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4後	1					○										兼1		
		スキー (スポーツコミュニケーション)	1・2・3・4後	1					○										兼5	集中	
		フィットネスA	3・4前	1					○										兼2		
		フィットネスB	3・4後	1					○										兼2		
	小計 (23科目)	—	0	23	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼13	—	
	理論科目	身体運動のバイオメカニクス	1・2・3・4前	2					○										兼1		
		スポーツ生理学	1・2・3・4後	2					○										兼1		
		スポーツ健康学	3・4前・後	2					○										兼1		
		ヘルスリテラシー &スポーツコミュニケーション	1・2・3・4前	2					○										兼2		
		ヘルスコンディショニング演習	1・2・3・4後	2					○										兼1		
		エクササイズ演習 (基礎)	3・4前	2					○										兼1		
		エクササイズ演習 (応用)	3・4後	2					○										兼1		
	小計 (7科目)	—	0	14	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼5	—	
	合計 (215科目)		—	13	389	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼163	—
	学位又は称号		学士 (建築学)			学位又は学科の分野				工学関係											
	卒業要件及び履修方法									授業期間等											
	1. 専門科目群から必修科目13単位を含み72単位以上 2. 共通・教養科目群から下記を含み32単位以上 ①数理基礎科目から8単位以上 ②外国語科目から8単位以上 ③人文社会・情報系教養科目から12単位以上 3. 1、2に加え、全科目群から20単位以上 総単位数124単位以上 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))									1学年の学期区分				2学期							
1学期の授業期間										15週											
1時限の授業時間										90分											

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科 (学位の種類及び分野の変更に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部建築学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	建築デザイン基礎1	本演習では、建築を学ぶ上で不可欠な製図の描き方、読み方の基礎を習得する。建築は様々な立体や空間が組み合わされてきており、はじめに、これらを平面上に正確に描く方法を習得する。また、立体を平面に写し取るいろいろな図法を学び、代表的な建築図面である平面図や断面図、立面図、透視図の描き方を名建築のトレースを通じて学ぶ。さらに、平面に描かれた線や面から立体的な空間が想像できることもきわめて大切な技能の一つであり、実際の建築を訪れてスケッチを描いたり、図面に描かれた情報から立体物である建築模型を製作したりすることで、図面を読み解く能力を身につける。	共同
	建築デザイン入門	専門科目への導入として、建築分野の幅広さ（歴史研究から工学実験まで、あるいは制作活動から調査活動まで、あるいは空間設計から都市計画まで）を理解すると同時に、建築学全般に関わる基礎的知識を身につけ、それぞれの専門科目がどのような社会貢献につながるのか（どのような職業へつながるのか）を理解する。	
	居住空間史	住宅は建築のなかでも人間の生活・人間の生き方・家族のありかたなどに直接かかわる重要な存在である。わずか百数十年の間に、わが国の住文化は驚くべき変貌をとげた。豊かな住文化を構築するために、わたしたちは伝統的住文化の中から、何を失い、新たに何を獲得したのか、あるいは一貫して変わらないものは何なのか、を考える必要がある。本講義では、先史時代から現代にいたるまでの住宅の歴史を概観するとともに、住宅を単独の建築物としてとらえるだけでなく、人間は古くから集住してきたことに注目して、都市、集落という広がりのある空間の歴史にも目をむけて考察する。	
	力学の基礎	建築構造の世界は裾野が広く、奥も深い。大学では「構造力学」「構造解析」「材料力学」「建築振動」「鉄筋コンクリート構造」「鉄骨構造」「基礎構造」等の項目を順次に学習することになるが、本授業では、その導入として、建築構造の役割・位置付けについての理解を深めるとともに、それを修得するために必要とされる基礎的な知識を身につけることを目的とする。そこで、建築構造の概念をより感覚的に把握できるよう、基礎知識や方法論についての講義とともに、建物模型の実験等の実習を行う。	
	デザイン史	18世紀後半から起こった西洋と日本におけるデザインの分野の形成は、時代背景や流行を社会的なムーブメントとして社会の一側面を持つ。これらの変遷を具体的な事例やデザイナーなどを通して学ぶことで、現在におけるデザインの源流を明らかにする。また、ユニバーサルデザインのようなキーワードについても考察し、今後のデザインの在り方を考える教養を習得する。	
建築デザイン基礎2	建築の設計は、意匠、構造、設備が分業化され、また、実際につくる（施工）するのは別の組織で、それが専門職種毎に細かく分業化されているのが特徴であり、これら多くの組織間の意思疎通は図面によりなされるのが基本である。よって、共通言語とも言える図面のルールや表現方法を正しく理解していることは重要である。本演習は、住宅規模の建築を題材に、基本となるプランと立面から始め、断面や構造を計画し、それらを適切に表現するための製図法の基本を学ぶことを目的としたものである。	共同	

専門科目	建築の形態と空間	建築における形態と空間の関係を様々な視点から分析し、考え、応用する方法について学ぶことを目的とする。自然の形態の持つ合理性や人間が歴史的に創りあげてきた形態と空間を観察し、その構成原理を発見することで本質的な建築デザインの手法とは何かを考える。建築の形と空間の関係についてビジュアル化したイラストと対応した写真により理解を深めることが出来る。授業は視覚的に理解しやすい様に、スライド、VTRなどを使用し、具体的な実例を示しながら進める。初学者のための建築デザインの入門となる授業である。	
	建築環境工学1	建築環境を良好に保つには自然エネルギーを用いるパッシブな手法と、人工的なエネルギーに頼るアクティブな手法があるが、いずれも計画・設計を論理的に行うには各因子の物理・化学的知識が必要である。本授業ではそれらの因子の内、熱および空気について環境形成メカニズムを学ぶ。 (15 秋元孝之/8回) 熱について (6 西村直也/7回) 空気について	オムバス
	構造力学・演習	建物の構造設計では、固定荷重、積載荷重、風荷重、地震荷重等の種々の荷重を建物に作用させ各部材の応力を求め、これから部材断面に生じる応力やひずみを計算する。本講義では、このような構造設計の前提となる構造解析技術の初歩を学ぶ。具体的には、最も単純な構造形式である、静定はり、静定ラーメン、トラス構造等の静定構造物を対象に各部材に作用する反力及び応力を計算する方法を学ぶ。また、講義で学んだ各種計算方法に習熟し計算能力を身に付けることを目的に演習を実施する。	
	空間建築デザイン演習 1	製図では建築や空間を正しく簡潔に平面上に描くことが求められる一方で、図面の情報を簡素化したり、抽象化したりすることにより、設計の意図をより伝え易くする技法もまた重要である。本演習では建築表現方法のうち、見せるため、意図を伝えるためのプレゼンテーション表現に焦点をあて、その技能の習得をめざす。プレゼンテーション表現には、平面図や断面図、アクソメやパースへの着彩や陰影表現、コンピュータグラフィックスや模型による表現など様々なツールがあり、これらを自由に使いこなし、また、表現内容に応じてツールを使い分けられるようになることを目標とする。	共同
	都市建築デザイン演習1	総合芸術としての建築では、工学と美学を高い次元で融合する必要がある。この授業は、このような観点に立ち、意匠系分野を目指すときに役立つ表現方法、考え方を複数の課題を通して習得する。各種図面表現や模型、写真等からなる作品の制作で豊かな表現をめざし、また、建築物を考察・観察する上での造形的アプローチを醸成してほしい。	共同
	建築ものづくり	建築を「いかにつくるか」に関する基礎知識を修得する。前半は地業から内装・設備に至る各種工事の概要や用語を学習し、建物を構成する材料やその施工について初歩的な知識を身に付ける。後半は建築産業がどのように成立・発展してきたのかを、住宅と非住宅の別に学習した上で、住宅産業についてはストック問題や品確法について、非住宅産業については総合建設業を中心とした施工組織、施工計画と管理、およびその意義について概説する。	
	建築スタジオ演習1	建築設計を主体としたデザイン演習を行う上で、アイデアスケッチを描くことや、模型を作ることは、基礎的な表現方法として重要な要素である。加えて様々な環境や人の行為は建築デザインにおいてますます重要性を増している。この演習では建築分野における造形・製図の基礎的なスキルと考え方を理解するとともに、環境の調査分析や人の行為との関連性を学び、また演習を通じて各自のアイデアを表現し、他人に伝える能力を習得する。	共同

専 門 科 目	住生活論	住宅を舞台にして暮らしていくなかで、個人や家族はさまざまな局面を迎える。この講義では、家族のライフサイクルに基づいてそうした局面を微細にとらえながら、住宅のありうべき様態をひろく学ぶことを目的とする。具体的には、現代の多様な家族像に対応する住まい方や居室の計画方法、乳幼児のための空間計画、子ども室の考え方と計画方法、高齢者に配慮した居室計画などを、ユニバーサルデザインの最新事例を踏まえながら、かつ実例をもとにして学んでゆく。また、住宅単体に限らず、地域社会や都市において、乳幼児、子ども、高齢者に配慮した空間の計画方法を実例を通して学ぶ。	
	CAD・CG演習	CAD・CGは、建設業界では欠くことのできない建築表現ツールであり、学生時代から慣れ親しむ必要がある。本講義ではCAD・CGの入門編として、初心者でも対応可能な基礎的な操作方法から高学年になっても有用なモデリング、簡易なレンダリングまでを対象とし、その技術を習得する。使用するアプリケーションソフトは、3次元CADであるAutodesk Revitであり、その機能を知り、道具としてのCADの能力を正確に理解し、またCAD・CGでできることとできないこと、今後学ぶべきことを正確に把握することも必要である。本講義はPC実習室において、教員の実技を参照しながら進められる。	共同
	都市地域計画	第一次世界大戦前後の工業化の進展、戦後の高度経済成長を経て、都市は人口を吸収し、世界に例のない大都市圏を出現させた。近代都市計画は物質的な豊かさ、便利さ、快適さを実現したものの、地域に息づいてきた大切な生活空間と文化を数多く破壊してきた面を持つ。本授業では都市の成り立ちや人間生活との相互関係を理解したうえで、近代都市計画の思想や成果を振り返りながら、土地利用計画、都市再開発事業といった、都市や地域を計画するための基礎的な制度設計や計画技術を習得する。そのうえで、大きく変わりつつある現代都市や地域の実像を様々な角度から評価し、地域に暮らす市民の立場から構想する市民参加の手法を含む、都市計画理論の近年の動向について学ぶ。	
	建築環境工学2	建築環境を良好に保つには自然エネルギーを用いるパッシブな手法と、人工的なエネルギーに頼るアクティブな手法があるが、いずれも計画・設計を論理的に行うには各因子の物理・化学的知識が必要である。本授業ではそれらの因子の内、音および光・色彩について環境形成メカニズムを学ぶ。  (2 古屋浩／8回) 音について (14 村上公哉／7回) 光について	オムニバス
	材料力学・演習	建築構造物の設計で最も大切なことは、安全性の確保であり、地震荷重、積載荷重などの外力に対し、建物の骨組を構成する柱やはり等の部材が、大きな応力（曲げる応力、伸縮させる応力、切断する応力など）を受け破壊が生じないことを確認する必要がある。本講義は、このような検討の基本となる骨組を構成する柱やはり等の部材が、応力を受けた場合に、それらの応力が断面内で、どのように抵抗され、伝達されるかを説明し、部材の強さと変形について述べる。演習では材料力学の講義で学んだ理論の実際的な応用力を身につけると共に、講義で割愛した理論の説明を行う。従って、講義で説明した内容に沿った演習問題を出題し、具体的に解くことを行う。	

専 門 科 目	建築構造計画	建築物はそれを利用する人々の安全及び財産を守らなければならない。とりわけ地震・台風・津波など、あらゆる自然の脅威にさらされる我が国においては、その構造をいかに計画するか、は建築物の方向性を決定しうる非常に重要な意味を持っている。構造計画とは、設計プロセスにおける初期段階であり、ここで決定された方針が建築物の構造性能をほぼ決定するといっても過言ではない。空間と構造の合致した優れた構造計画を行うためには、荷重・材料・構造システム・法規・施工性・経済性など関連する広範な知識に立脚した豊かな発想や確かな先見性が設計者には求められる。本講義では構造計画の考え方や検討を進める際に必要な様々な知識を、実例を交えながら解説する。	
	構造材料	建築を構成する材料には、安全性、居住性、耐久性、美観及び経済性など、用途や部位の違いによって様々な性能が要求される。建築材料は、意匠設計、構造設計、設備設計及び生産設計と深い関わりがあり、材料の選定に当たっては、各種材料の特性を知った上で、建築物の種類、用途及び部位に適合する性能をもつよう心掛ける必要がある。本講義では、建築材料の中でも構造材料として用いられる、コンクリート、鋼材および木材を対象として、その基本的な特性、品質、規格、形状等について習得する。	
	空間建築デザイン演習2	本講義は建築をつくる目的と方法を理解し、豊かな空間と環境を提案する力を養う一連の建築設計演習の導入科目であり、住宅の設計に取り組む。与えられる家族構成などの設計条件、周辺環境を含む敷地条件を読み解きながら、豊かな生活環境を創造し、住宅建築として提案する。空間デザインのみならず、それを支える構造や構法、環境をも考慮した総合的な視点で設計を行うこと、設計意図を的確な方法で図面に表現することが求められる。15週で三つの課題に取り組むが、いずれも小グループに分かれ、教員との議論とエスキースを通じて設計をすすめ、図面としてまとめる。	共同
	建築設計計画論	生活環境とは、建築の広さや高さ、かたち、仕上げ、開口部、構造といった空間的側面と音や熱、光、空気といった環境的側面が相交わりながら形成される。本講義では、豊かな生活環境をつくるために建築設計の各段階で何を考え、一つの建築としてどのようにまとめあげるのかを学ぶ。講義前半では建築の中でもっとも身近な存在である住宅建築について、周辺環境の読み取り、配置、平面、断面、開口部、仕上げ等の計画と設計手法を解説する。講義後半では、公共施設の中から学校建築を取り上げその計画と設計手法について解説する。	
	都市建築デザイン演習2	設計課題の演習（手描き）。1年次後期「都市建築デザイン演習1」にて習得した造形力・デザイン力を、具体的な建築設計に適用するため、複数の設計課題を行う。設計対象は、非住宅系・S造・延500～800m <sup>2</sup> クラスの施設とし、1年次「建築デザイン基礎1」「同基礎2」の計画対象（住宅系・木造系・延100～300m <sup>2</sup> クラス）からの連続性を保ち、学生の取り組みやすさに配慮する。学生は毎回20名程度のグループに分かれて教員1名の個別指導を受け、建築系学科における固有の技能（図面化能力・模型化能力・空間把握力）のスキルアップを行う。	共同

専 門 科 目	建築計画 1	近代の社会的要請により生まれた建築計画学の基礎的な手法を修得するとともに、建築計画の応用的考え方や今後の課題について理解することを目的とする。授業では、はじめに、歴史時代から近現代へと至る過程でどのような計画手法がみられたのかを整理しながら、計画学の全体を俯瞰する。つぎに、単位空間の考え方、人体寸法など、空間を組織する基礎となる知識を習得する。さらに、戸建住宅、集合住宅、学校、美術館など、ビルディングタイプごとの計画方法を具体例を通して学ぶ。さらに、近年の省資源、地球環境への配慮等を踏まえた新しい計画手法について学ぶ。	
	西洋建築史	ヨーロッパを主対象とし、その建築の流れを時代順に理解、習得する。様式、構法上の用語を覚え、その空間を追体験する。図面や模型を通して専門的に究め、建築家となるべき素養をつちかう。授業内容はヨーロッパ古典古代（ギリシャ・ローマ）とその前提としてのオリエント専制国家の都市・建築から開始し、中世建築（ロマネスク・ゴシック）からルネサンス以降、19世紀末までを対象とする。主としてヨーロッパ建築の講義であるが、中近東やインドなどとの比較も随時行う。	
	建築スタジオ演習2	設計課題の演習（手描き）。1年次後期「建築スタジオ演習1」にて習得した造形力・デザイン力・編集力を、具体的な建築設計に適用するため、複数の設計課題を行う。設計対象は、非住宅系・S造・延500～800m <sup>2</sup> クラスの施設とし、1年次「建築デザイン基礎1」「同基礎2」の計画対象（住宅系・木造系・延100～300m <sup>2</sup> クラス）からの連続性を保つ。学生は毎回15名程度のグループに分かれて教員1名の指導を受け、少人数制のマンツーマン指導を受ける。建築系学科における固有の技能（図面化能力・模型化能力・空間把握力）の確実なスキルアップを行う。	共同
	プロジェクト研究1	本講義のテーマは「大惨事（震災や洪水や崖滑り、テロや戦争等）による街や家屋の破壊と、そこからの再生・復興の試み」である。学生たちは、現在進行中のさまざまな事例をとおして街や暮らしの再生プロセスを学び、先端的な知識を習得する。また各回の講義を通じて、次学期の「国内プロジェクト」科目や「建築スタジオ演習」科目のための予備学習も行う。	
	色彩・素材論	デザインの重要な要素である色について、科学的に理解するとともに、色に対する感性面での理解を深めることを目的とする。色はかたちや素材と共にプロダクトから建築、環境に至るまで私たちの生活、文化の一部であり、色を抜きにしてデザインを表現することはできない。本講義では、色彩心理、色彩調和、色彩計画についての基礎を学ぶとともに、実際のプロダクト、建築、環境等の事例から色が果たすコミュニケーション機能について考える。	
	建築環境心理学	建築環境とその環境を利用する人々の関係について学ぶことを通して、より豊かで、人々の生活の質を高めるような建築環境のデザイン力の獲得を目指す。人と環境の関係は、一方的なものではなく、常にやり取りが行われていること、両者をバラバラに切り離して捉えられるものではなく、「環境と人を共に捉えていく」ことの意味とそのための調査手法及び技術を学ぶ。授業では、環境理解に有用な心理学の知識についての体系的な学習と、簡単な演習プログラムを用いた多様な方法論の実践的な理解の場を設ける。	

専門科目	日本建築史	将来、なんらかの形で建築にかかわって行く者にとって、自国の建築の歴史に通じておくことは重要なことである。工学の諸学問領域において、建築学が古くから歴史を重視してきた意味を十分認識する必要がある。本講義では、古代より近代にいたる日本の建築空間の史的展開過程を現存遺構中心に概説する。各時代の代表的な建築、特徴的な建築について、その空間構成・形式・技法・機能などを講述し、古建築の見どころ、おもしろさを伝えたい。また、建築を「もの」としてのみとらえることを越えて、人間の文化的行為をささえる「場」として建築をとらえ、建築空間と人間のいとなみとの相互関係を考察する。	
	BIM演習1	世界的な潮流になりつつあるBIM (Building Information Modeling) の概念を理解する。コンピュータの中に建物を建設するBIMは建築生産に関わる技術者にとって必要不可欠な知識・技能となりつつある。本授業では、BIMソフトウェアとして世界的に広く利用されているオートデスク社: Revitの操作を通じ、オブジェクトベースの建築モデルの構築方法を習得する。演習を基本とするが、適宜講義を行い、実務におけるBIMの活用事例や、生産設計の概要を理解する。	共同
	建築設備	建築物は建築意匠と構造、設備とが融合しその要求機能を満たしている。その中でも建築設備はエネルギーや水、空気といった動的なものを継続的に供給・排出しながら建物の機能を支える役割を果たす。本講義では建築設備の位置づけからその考え方、各種システムの特徴および利点・欠点について学び、更に建築計画と建築設備の融合性について学ぶ。	
	建築構造解析・演習	建築構造物の設計では、地震や風、積載などの外力や自重に対し、建物の骨組を構成する柱やはり等の部材が、大きな力を受け破壊が生じないことを確認する必要がある。また、同時に、それら部材及び骨組全体の変形を建物の使用性等の観点から、許容範囲内に納めなければならない。本授業では、前段となる「建築構造力学・演習」の内容を受け、特に一般の建築物に多く用いられる不静定構造物を対象として、建築物に外力が作用した場合の骨組を構成する部材の応力と変形の解析手法を示す。建築物の挙動を把握して、安全で合理的な設計を行うことで、構造安全性を検証することの必要性を学ぶ。	
	仕上げ材料	建築物に使用されている材料は多種多様であり、優れた建築、豊かな空間を創出するためには、これらの材料の諸性質について理解を深めておくことが肝要である。特に、仕上げ材料については、使用される部位や用途によって要求性能が異なり、意匠性や熱的性質、音響特性など機能にあわせた性能のほか、交換容易性やリサイクル性などが求められる場合もある。本講義では、仕上げ材料について、その分類、特徴・性質、使い方、維持保全の方法などについて学習し、適切な材料の選択とそれらを長く使っていくための体系や実践方法を習得する。	
	空間建築デザイン演習3	本講義では、小学校と集合住宅という二つの建築設計に取り組む。前半の小学校では、地域環境を支える重要な公益施設としてのあり方と児童がはじめて本格的な集団生活を送る教育施設のあり方の双方を探り、計画地にふさわしい小学校の提案を行う。後半の集合住宅では、かつての「量」を求められた時代から「質」を問われる時代への転換期を向かえた今日の社会情勢の中で、集合住宅がどう変容していくべきかを探り、新しい豊かさをもった集合住宅の提案を行う。両課題ともに実在の敷地であり、現地を訪れ、周辺環境を調べ、計画に反映させることが求められる。小グループでのエスキースを通じて設計をすすめ、図面としてまとめる。	共同

専門科目	建築設計論	前半は住居集合体を設計するにあたって承知しておくべき現状の課題や、設計の手掛かりや形態化の過程及びそれに対する建築計画研究にもとづく設計上の知識を様々な設計事例に含まれている提案を紹介しながら、具体的な居住空間の設計事例に則して留意すべき点について論ずる。後半は建築を設計するという立場から、主に産業革命から始まった近代建築を通して、時代の意志、技術とデザインの関係について学ぶ。モダニズムデザインと日本の関係を読み解くことで、これからの設計のあるべき姿について考える。具体的な映像を使い図像の読み方、プランニングの意味についても考察を行う。	
	地域設計論	まちづくりの時代、更に縮減社会の到来によって、都市や建築をめぐる設計の状況は大きく変化している。この時代に特に求められているのは、新たな建設や開発ではなく、現在あるストックのリノベーションやコンバージョンによる活用である。また、空間的な設計だけではなく、地域特性を踏まえて、営みや活動、マネジメントの仕組みまでも設計し、まちとして機能させることである。更に、地域・都市のクライアントでありユーザーであり運営者である市民や様々な主体と連携して設計しなければならない。このような設計手法について、方法論、プロセス、具体的な手法・作業を学ぶ。理解を促進するために、目指すべき地域・都市・地区の空間像と社会像の参考事例を数多く紹介する。	
	建築史	本講義の主要な対象は西欧の建築である。諸外国の建築の歴史と文化を学ぶ目的は二つある。第一に、民族・信仰・文化・歴史を異にする各国の建築そのものを学ぶことにより、相互理解の端緒とすること。第二に、自国の建築文化を相対化し、自分たちがよって立つ建築をより深く理解すること、である。歴史を学ぶことは、あくまでも今日的課題であり、それは我々が当面しているさまざまな問題を解明するための有力な糸口となりうる。講義においては、建築空間の発生と発展の史的過程を概説し、建築の全体構成、形式、技法の変遷などを講述するとともに、とくに建築と社会、建築と宗教の關係に着目して考察する。	
	建築構法	建築物の構成やしくみを、総合的視点から広い知識で理解するため、建物に要求される条件と、それを満足する構法の間を整理し、現在の多様な構法と実用的な設計方法を体系的に講義する。建築構法の原理的考え方を述べ、「要求性能と構法」の観点に沿って各種の構法について具体的に解説する。建築学の様々な分野の勉強、建築設計など実務に必要なものとなる、各種構法の構成原理、構成方法について、基本的な知識と設計手法を学修する。	
	都市建築デザイン演習3	設計課題の演習（手描き）。2年次前期「都市建築デザイン演習2」にて習得した能力を、より複雑な建築設計に適用するため、複数の設計課題を行う。設計対象は、非住宅系・RC造・延1000～1600m <sup>2</sup> クラスの施設とし、前期の設計対象（非住宅系・S造・延500～800m <sup>2</sup> クラス）からの連続性を保つ。学生は毎回20名程度のグループに分かれて教員1名の指導を受け、建築系学科における固有の技能（図面化能力・模型化能力・空間把握力・図式化能力）のスキルアップを行う。	共同
	都市建築論	都市はどうあるべきなのか、建築が都市とどう関わっていくべきなのか。建築は都市を構成する要素であって、都市と建築は決して切り離して考えるべきではない。この講義では都市を理解するにあたって、歴史的な観点から西欧の都市の形成過程や、フランスを中心としたヨーロッパにおける都市の現状を事例を通して検証していく。	

専 門 科 目	地域マネジメント	近年、都市住民の新たなライフスタイルの希求がクローズアップされている。若年世代は都心部への人口回帰を牽引し、都市との関わりを強めているし、グローバル化の中で高まる国際的な人口の流動は、インナーシティにイミグレーションによる新しいコミュニティを形成しはじめている。また、「デュアルライフ」「セカンドライフ」といった言葉に代表されるような、新しい都市と農村との関係、人間と場所との関係が育ちつつある。本講義では、大きく変わりつつある現代都市や農村の実像を様々な角度から評価する。そのうえで、学際的な広がりを持つ都市計画の全体像と、建築に立脚した専門家としての職能を理解し、望ましい都市像へと近づけてゆくための多様な主体によるマネジメントの方法論について学習する。	
	木造建築	木造建築は、建築の基本である。本授業の目的は、大きくは2つあり、1つ目は、生物材料・自然素材である木について、森林の生態と保全、木の種類と基本性質から資源・建築用材としての樹木の利用と再生、用材としての木材の性質と加工技術、技術に関する歴史、昨今の流通システムまでを理解すること、2つ目は、木造建築の架構と様式について、構成部材の名称、建物をつくる手順、建物を構成する各部の構法、部材の納まりについて理解することである。	
	建築スタジオ演習3	設計課題の演習（手描き）。2年次前期「建築スタジオ演習2」にて習得した能力を、より複雑な建築設計に適用するため、複数の設計課題を行う。設計対象は、非住宅系・RC造・延1000～1600m <sup>2</sup> クラスの施設とし、前期の設計対象（非住宅系・S造・延500～800m <sup>2</sup> クラス）から発展させる。学生は毎回15名程度のグループに分かれて教員1名の指導を受け、構想段階からスタディ段階や最終案のプレゼン化まで、少人数制のマンツーマン指導を受ける。建築系学科における固有の技能（図面化能力・模型化能力・空間把握力・図式化能力）のスキルアップを行う。	共同
	プロジェクト研究2	本講義のテーマは「環境破壊（公害や汚染）による暮らしや仕事の破壊と、それを克服する生態系再生・エネルギーシフトの試み」である。学生たちは、現在進行中のさまざまな事例をとおして街や暮らしの再生プロセスを学び、先端的な知識を習得する。また各回の講義を通じて、次学期の「国内プロジェクト」科目や「海外プロジェクト」科目、「建築スタジオ演習」科目のための予備学習も行う。	
	BIM演習2	BIMの重要な考え方である、時間軸とコストを関連付けた5D-BIMの基礎的な概念を理解する。また、実務で利用する鉄骨造の意匠図と構造図を読み、部材・部品を組み上げたBIMモデルの構築と、デザイン演習などで扱った自身の設計作品のBIMモデル化を通じ、BIMを建築生産プロセスの各業務で利用するための知識と技術を身に付ける。演習を基本とするが、適宜講義を実施し、建築生産の重要な業務のひとつであるファシリティマネジメントでBIMを活用する知識や可能性を学ぶ。	共同
	空調システム計画	本講義では、空調システムの合理的な計画・設計手法を学ぶ。各種システムの特徴、利点・欠点を把握する。また熱や空気の流れの知識、空気汚染や除去に関する知識がシステムの計画には必要である。更にダクト内の空気の流れや圧力損失などについて学び、より優れた空調システムの提案ができるようになることを目的とする。	

専門科目	都市環境設備計画	建築はそれ単体のみでは機能するものではなく、都市や街との繋がりの中で機能できる。そのため建築環境計画や設備計画において、都市や街の環境や設備との関係性を理解しながら建築を計画・設計できることが重要とある。そこで本講義では建築を含む街を対象とした環境設備計画の手法について学ぶとともに、それが建築の省エネ・省CO2化や環境保全にどのように寄与するかを学習する。	
	建築振動解析	地震国である我国で建物を設計する場合には、耐震設計が重要な技術となる。複雑に揺れの特性が変化する地震動に対する建物の応答と被害を理解するためには、振動解析の知識が必要不可欠である。近年数多く建設されるようになった免震構造・制振構造の建物や、超高層建物等の重要な建物の設計には、振動解析理論に基づき建物の揺れを直接計算する「地震応答解析」が用いられている。振動解析に関する必要な知識は極めて広範にわたるが、本講義ではその入門となる基礎的な事項を学習する。	
	鉄筋コンクリート造の設計1	鉄筋コンクリート（RC）構造は、我が国で最も普及した構造形式の一つで、ほぼ全ての建物の全体または一部に使用されており、建築構造の特性や設計手法を理解するために適した学習対象である。名称のとおり、鉄筋とコンクリートという異種の材料を一体化させて外力に抵抗することで建物の安全性を確保するため、外力に対する抵抗メカニズムが木構造や鋼構造の場合とは異なっており、設計する際に注意点やユニークなポイントがある。本授業では、建物の代表的な構成要素である柱やはりを中心として、力に抵抗するメカニズムを示し、基本的な設計法について学習する。	
	鋼構造の設計	鋼構造は小規模な戸建住宅から、超高層建築、そしてスポーツ施設などの大空間建築まであらゆる建築に用いられる構造形式である。それは鋼構造に用いられる鋼材が、他の構造材料に比して強度や靱性、加工性や品質の安定性などの優れた材料特性を有するためである。しかしその反面、高強度ゆえ過小部材断面による剛性不足が引き起こす座屈や振動障害、過大変形による仕上げ材の剥離などの問題がしばしば発生する。また様々な形状の部材を組み合わせて全体架構を構成するため、部材相互の接合部や仕上げとの納まりの設計に注意を要する構造である。本講義では鋼材の生産過程、材料特性から、各部材の設計法、耐震設計の流れまでを、実例を交えながら学ぶ。	
	建築環境実験	<p>建築環境の要素は常に変化し、またいずれも眼に見えないものでもある。本実験は建築環境の5大要素の内、音・光・空気・熱を対象に、各種の計測機器にて測定し、各環境要素を定量的に把握・評価する方法を習得する事を目的とする。併せて、科学技術レポートの纏め方を学ぶ事を目的とする。</p> <p>(2 古屋浩／3回) 音について  (6 西村直也／3回) 空気について  (14 村上公哉／3回) 光について  (15 秋元孝之／3回) 熱について  (2 古屋浩・6 西村直也・14 村上公哉・15 秋元孝之／3回) レポートのまとめ方等。</p>	オムニバス・共同(一部)
	空間建築デザイン演習4	前半の課題では「地域の公共複合施設（図書館機能を主体とする）」を設計対象とする。地域性（敷地や場所が有する個有の特徴等）を踏まえて、また施設に求められる公共性（公開性、利用、福祉等）について調査・分析、考察を行い、設計の前提となるプログラムを各自の検討作業により、明快にする。後半の課題では「光と対話する現代美術館」を設計する。この課題は上野駅、上野公園から不忍池まで含めた一帯を敷地範囲とし、計画する美術館とその周囲のランドスケープを考えるだけでなく上野公園、不忍池全体を考えた提案とする。	共同

専門科目	近代建築と技術	近代という時代の大きな契機となった「技術」は、建築表現に何をもたらしてきたのか。「技術」の特質でもある「専門性」と、その課題について分析していく。ケネス・フランプトンによる著作「テクニク・カルチャー」を論の起点とするが、本書の視点にとどまらず、現代日本において建築をとりまく状況と問題までを概観する。	
	建築構法計画論	「建築構法計画」は、各部構法の領域だけでなく、より広範に建築の企画・設計から維持保全までを含み、建築構造学や環境工学、あるいは材料施工学など、様々な分野の成果をベースとして成立する専門分野である。近年重要性を増している、地球環境問題、我が国の人口減少や少子化、高齢化問題、地方創生、市町村合併の問題と、都市や建築がどのように関係しているか、具体的な実例を紹介しながら講義を展開する。建築計画に関する諸理論や設計手法などについて、国内外の最新事例を通して学び、実社会で応用可能な知識と技法を修得する。	
	建築法規	社会において建築物は設計段階から建設まで様々な建築法規の規定を受けており、建築法規は建築技術者が身につけるべき重要な知識である。本講義では建築法規の基本となる建築基準法を中心に学習し、法規の目的・内容について理解を深める。定期試験や問題演習では1級建築士試験と同等の難易度をもつ法規問題を出題し、理解力を確認する。建築法規の科目は建築士試験の受験資格を得るための学歴要件上の指定科目とされているため、卒業後に建築士の資格取得を目指す学生については必須の科目である。	
	都市住宅論	わが国の都市居住の空間や住宅市街地の環境は、安全で経済的に恵まれ、優れた技術をもった社会に見合ったものであると言えるだろうか。都市住宅の問題は、学際的であると同時に様々な専門分野に関わる総合的な検討課題である。講義では、住宅を経済・社会の動きの中で捉えて考える。都市居住の歴史や住宅・住宅地の計画手法を確認しながら、住宅政策の時代による変化と欧米・アジア諸国との比較、公共・民間による住宅・住宅地計画事例の空間構成と事業的側面、住宅マーケットの現状と将来展望について居住空間がもつ社会的役割とともに解説する。	
	建築生産	建築生産技術は、建物の高層化や大型化、複合化、IT技術の進歩などによって日々進歩している。一方で、最も基礎的な技術の集合であり、伝統的な技術も重視される。また、建物を作るだけでなく、維持管理や解体技術まで考える必要がある。本講義では、建築生産に関わる概況について、最近の知見や市場の分析結果などを通じて学習する。また、品質管理、工程管理、安全管理などの施工管理上必要となる基礎的知識、各種工事における基礎的な事項、品質管理上の要点などについて理解し、施工計画立案のための基礎的知識を学習する。	
	建築材料施工実験	建築材料や施工に関する技術は、座学による知識のみでは、実際の材料の詳細や現象を理解することは困難であり、自ら計画、施工し、その評価を行うことによって実体験を伴った知識として身につく。本授業では、コンクリート工事および外装工事に関連する材料および施工技術を取り上げ、構成材料の試験、材料の設計、製造、施工、評価と一連の流れを自ら行うことによって、実現象を伴う知識として身につける。また、データの収集・整理、考察などのレポート作成を通して、研究報告をまとめるための基礎技術を習得する。	共同

専 門 科 目	建築構造実験	<p>本講義では以下の実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鉄筋コンクリートはりの実験</li> <li>2. 鉄骨はりの実験</li> <li>3. 木造はりの実験</li> <li>4. 模型振動実験</li> </ol> <p>鉄筋コンクリート梁および鉄骨梁の部材実験では、実際に荷重をかけて構造部材の力学的挙動、部材内部の力の流れの把握、および破壊の様子などを計測・観察する。振動実験では、振動理論を理解すると共に、各種模型の振動現象を観察・分析を行う。これらの実験では、実験の目的を考え、実験装置の検討をおこない、その結果を判断する基礎知識、計測のための機械器具の取扱い方等を修得する。以上を通して、理論と実際の現象との比較から理論の正しさと同時に限界を知り、その問題点の検討や、今後考えてゆくべきことなどを学ぶ。合わせて、報告書の纏め方を学ぶ機会でもある。</p>	共同
	都市建築デザイン演習4	<p>設計課題の演習（手描き）。2年後期「都市建築デザイン演習3」にて習得した能力を、より高度な都市建築に適用するため、複数の設計課題を行う。設計対象は、公共系・RC造・延3000～5000m<sup>2</sup>クラスの施設とし、2年次の設計対象（非住宅系・RC造・延1000～1600m<sup>2</sup>クラス）からの連続性を保つ。学生は毎回20名程度のグループに分かれて教員1名の指導を受け、建築系学科における固有の技能（図面化能力・模型化能力・空間把握力・図式化能力）のスキルアップを行う。また課題提出時には最終講評会を入念に行い、設計倫理の伝達も行う。</p>	共同
	都市地域デザイン演習	<p>時代や社会に応じて多様に変化する現代都市のあり様を、フィールドワークを通して具体的に観察しながら、課題や可能性を自ら発見し、都市に対して空間的にアプローチする。それらの作業を通じて社会を構想していくための創造力、提案力を養うことを目標とする。作業はチームによる協働作業とし、お互いの得手不得手を理解したうえで、自らの得意分野を伸ばしながら、主体的な集団創作によって成果を高めていくプロセスを習得する。</p>	共同
	近代建築作家論	<p>過去の著名な建築作品を、あくまで設計者目線で理解するための授業。建築家による設計作業とはどういうものであり、何を重視して設計されたのかを、事例をとおして理解する。毎週1人の建築家について代表作品の解説を聞きながら、設計時点でどんな考え方にに基づき、どんな決定が下され、どんな想定外の効果を持ったのか、等を理解する。講義対象となる建築家8名は、近代建築期（1950～90年代前半）に活躍した作家とし、国内に見学可能な作品を残している作家とする。</p>	
	都市デザイン論	<p>本講義は古今東西の都市とその空間形成を振り返ることにより都市デザインの理論と実践を体系的に理解することを目的とする。都市は人々が集まり暮らす生活の場であり、多くの主体が活動する社会経済の基盤であり、長い時間の中で様々な事物が蓄積した歴史文化であり、自然に対し恩恵を受けながら影響を及ぼす地球環境の一部でもある。本講義はこのような多元多様な状態を都市の本質と捉え、用・強・美をバランスよく備える都市空間を実現する技術として都市デザインを論じる。景観や都市形態に関する総論、建築・土木・造園など関連領域の技術論、都市開発・まちづくり・景観保全など実践論というように都市デザインの諸相を講義する。</p>	

専門科目	建築プロジェクトマネジメント	建築産業のグローバル化が進む中で、プロジェクトマネジメントの共通言語として、その国際標準である「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド」(A Guide to the Project Management Body of Knowledge: PMBOK)の理解が重要となりつつある。本授業ではPMBOKの概要と、PMBOKをベースとした建築に特化したプロジェクトマネジメントの手法を学習し、建築技術者に求められる素養を身に付ける。	
	建築構工法1	構工法とは、設計の立場で建物の構成を考える構法とものづくりの立場でその実現方法を考える工法を一元化した言葉である。設計にもものづくりの観点を加え早期にディテールまで検討することは、技術が高度化した現代、そして未来のスタンダードであり、それを先取りした考え方を身につけるのが本授業の目的である。具体的には、構造特性や材料の特質、ものづくりの方法論が建築のディテールにどのように表れるかに始まり、建築の用途や特質、かたちと構工法の間接関係を理解できるようにする。	
	建築材料構造実験	建築材料学および建築構造学に関する各種の実験、測定などの実習を通じて、建築の工学的側面の基礎知識を理解し身につけるための体験講座である。実習に際して、事前に実験目的、方法、報告書の取りまとめ方などに関する講義を行ない、事後にグループディスカッションや実験レポートの提出を課す。本授業は以下の4つに大別される。 1) 木造の材料実験と部材実験 2) 鋼材の材料実験 3) コンクリートの材料実験 4) 鉄筋コンクリートの部材実験	共同
	建築スタジオ演習4	設計課題の演習(手描き+CAD)。前期「建築スタジオ演習3」にて習得した能力を、より高度な建築設計に適用するため、複数の設計課題を行う。設計対象は、非住宅系・RC造・延3000~5000m <sup>2</sup> クラスの施設とし、2年次後期の設計対象(非住宅系・RC造・延1000~1600m <sup>2</sup> クラス)から発展させる。学生は、教員の個別指導によるマンツーマン指導に近い形で演習を行い、構想段階からスタディ段階や最終案のプレゼン化まで、個別の作業課題に取り組む。建築系学科における固有の技能(図面化能力・模型化能力・空間把握力・図式化能力)の高度なスキルアップをはかる。	
	空間情報デザイン演習	空間デザインの過程では、人、物、環境に関わる様々な情報を編集しながら、空間を創造し、構造、環境の質を解明していくことが求められる。演習では、3Dモデリングの応用とともに形態操作のルールやアルゴリズムを用いた空間のパラメトリックなデザイン手法と空間表現を学ぶ。ツールは、モデリングとレンダリングの応用(3dsMax+mental ray)、ビジュアルプログラミング(Processing)、グラフィカルなアルゴリズムエディターによる空間モデリング(Rhinoceros+Grasshopper)を扱う。また、学習の過程で、空間を記述する情報の適切な選択、加工の技術と各ツールのデータ形式、ツール間のデータ変換の方法を学び、建築から都市スケールまで連続する空間情報のハンドリング技法を修得する。	共同
	プロジェクト研究3	本講義のテーマは「21世紀の政治経済体制(グローバル化・メガシティ化・移民化・貧困化)による街や暮らしの変化と、その衝撃を緩和するための街や建物の役割」である。学生たちは、現在進行中のさまざまな事例をとおして街や暮らしの再生プロセスを学び、先端的な知識を習得する。また各回の講義を通じて、次学期の「海外プロジェクト」科目や「建築スタジオ演習」科目のための予備学習も行う。	

専 門 科 目	建築英語	本授業は、単に英語で会話をするだけでなく、様々なテーマについて議論する能力を養成し、建築プログラミング理論やコミュニティ等の計画や設計に重要な要素について考えられるようになることを目的としている。各回の授業では、指定されたトピックに従いプレゼンテーションを行い、その後のグループディスカッションにより理解を深め、プレゼンテーション能力の向上を目指す。授業内での会話・ディスカッションは原則として英語に限るが、基本的には視覚的な素材を扱うため、英語に自信のない学生も歓迎する。	
	GIS演習	地域計画・都市計画やそれらの環境計画では、建築単体だけでなく広域エリア内の様々な計画に係わる情報を扱う。地理情報システム（GIS）は、空間及び空間の属性データをコンピュータ上で扱えるツールである。空間情報には、国や各自治体が整備する行政区域、建物現況データ、昼夜間人口などがある。本授業では、地理情報システムの原理を理解し、それをを用いて空間情報を扱えるとともに分析するための基礎技術を身につける。そして、その演習として、地域や都市に係わる情報を実際に分析し、地域や都市の特性を比較する。	
	プロジェクトゼミ	本科目では学生それぞれの目指す方向にふさわしい教員の指導のもと、少人数で密度の高い学習を行う。履修者は歴史系、計画系、都市計画系、環境系、構造系、生産系の各教員のゼミナールに分かれる。ゼミナールの内容と形態は指導教員の方針により異なるが、建築に関わる調査、実習、実験、研究を中心に活動する。また、総括として全体発表会にて各ゼミナールの活動報告を行う。この科目は、4年次の卒業研究のプレゼミナールではなく、どの系、どの教員のゼミに所属していたかによって、卒業研究で配属される研究室が決定するものではない。	
	建築音響計画	本講義では、「音環境」の設計手法について学ぶ。コンサートホール、劇場などの各種建築空間において、快適な室内音響効果を実現するための条件とは何かという観点から、建築と音場・聴覚の関係、音環境に使用する音響物理指標、それらの予測に基づく音環境の計画・設計法について、それらの実施例や技術動向のトピックを交えながら学ぶ事を目的とする。	
	給排水システム計画	本講義では、給排水システムの計画・設計手法を学ぶ。各種システムの特徴や利点、欠点を把握する。また水の流れの物理的原理、配管内での流量と圧力の関係や各種衛生設備の特徴を学ぶ。更にポンプやバルブ類の計算の際の取り扱い、揚水および加圧給水、自然流下水の流れについて学び、計画・設計時における給排水システムの設計手順と合理的な計画法を学習する。	
	光環境計画	光を物理的に捉えると特定の波長をも持つ電磁波であるが、建築環境的には人間が光や色彩をどう感じるかの問題であるため、人間の目の構造や心理に関する理解が不可欠である。またこの事に起因して、様々な固有の単位が存在する。本講義では光の特性を把握し、どのように光環境の計画・設計を行うかに関して学ぶ。合わせて色彩についても特徴や使い方などについて学ぶ。	

専 門 科 目	基礎構造	<p>本講義では建物や都市を支える基礎構造を理解することで、将来の展開の礎とする。まず、人々の生活の場を支えている地盤、および、縁の下の力持ちとして建物を支えている基礎構造について、それらの役割と重要性を認識する。次に、土および地盤の組成や物理的な特性を理解して、それに対応する基礎構造の形式を把握する。その後、各種の基礎構造について、物理的・力学的な基本性状を学び、地盤との関係性を含めて基本的な設計方法の目的や手法を把握する。</p>	
	鉄筋コンクリート造の設計2	<p>建物を設計するうえで、安全性は必要条件である。この安全性を確保する重要な部分である構造設計は、構造計画と構造計算からなる。本講においては、鉄筋コンクリート構造について許容応力度等に基づく構造設計法について基礎的な設計過程を習得するとともに、演習課題を通して具体的な計算手順を体得させることを目標とする。1層2スパンの1フレームの鉄筋コンクリート造建物の許容応力度等計算手順を説明すると共に、計算例を用いて具体的に講義し、演習を行う。具体的には、平面計画、骨組、荷重、1次設計、2次設計についての基本概念を修得し、各構造部材の断面計算法を修得する。部材応力の計算ではたわみ角法、固定法、D値法について修得する。</p>	
	マトリックス構造解析	<p>計算機の普及によってマトリックス法による構造解析が実務で用いられている。現実にあるような、ある程度複雑な構造物でも取り扱える能力を修得することが必要である。従って、講義では理論の説明を行い、プログラムを実際に使用して問題を解く演習を行う。種々の骨組の力学特性の把握ができ、構造計画の基本事項が修得できるようになる。構造設計では、弾性力学に基礎を置く、許容応力度設計法が基本であるが、大地震に対して、構造骨組に対してある程度の塑性変形を許容し、そのエネルギー吸収によって地震エネルギーに抵抗する設計も必要になる。本講では部材および骨組の終局強度計算方法を弾性理論あるいは塑性理論に基づいて述べる。</p>	
	建築防災	<p>災害大国と言われる我国で建築関係の業務に携わる技術者には、建築防災に関する知識を身に付けることが求められている。本科目は建築防災を考える上で最も重要な分野である地震防災に焦点を当て、幅広く横断的な知識を身に付けることを目的とする。前半では過去の被害事例とその教訓を学ぶことから始め、国による広域被害予測、地震の発生メカニズムと設計用地震動等の全般的な事項について学ぶ。後半では各論として、建物被害判定と耐震補強、免震・制振構造、超高層建物、液状化現象とその対策等に関して学ぶ。</p>	
	空間地域デザイン演習	<p>建築や都市を計画する人間には、具体的に空間をデザインする能力のみならず、「現場」である都市や地域を観察し、埋もれている「地域資源」を発見する作業と、クライアントでありユーザーである「市民」から意見を聞き、「現場」の実状を的確に把握することが求められる。この演習では、都市の文脈を解説し、実状を把握する作業を行う。そして、現代都市に対する様々な問題意識を背景に、学内では希薄になりがちな「現場」と「市民」から学ぶ体験を通じて、都市や建築のデザインの方法・技術を具体的かつ実践的に学ぶことを目的とする。</p>	共同

専 門 科 目	ランドスケープ論	ランドスケープは、地域の風景や環境の調和を図り、美しい屋外環境を創造するだけでなく、荒廃した土地や自然環境を本来の健全な状態へと導く役割を担っている。また、都市の微気象の改善や防災機能を高めるなどの今日的な課題解決に向けて重要な役割が求められる。具体的な領域としては、環境の基盤となるグリーンインフラストラクチャーの形成、都市景観の形成、身近な生活環境の形成、生物多様性の保全、自然環境の保護と利用、自立可能な地域づくり、地域コミュニティの形成などである。これらの領域におけるランドスケープの基礎的知識、計画設計の手法とプロセス、それらを支える技術、緑地を通じたマネジメントと地域コミュニティの形成手法について事例を通じて学び、理解する。	
	建築文化史	歴史的建築にかかわるいくつかのテーマをとりあげ、テーマごとに講述する。建築空間を構築するにあたって、人々は何を考え、何を意図し、どのような方法をとっていたのかを考える。日本文化の特色としてあげられる、外来文化の受容と変容の問題、折衷の問題などを建築の面から考察し、今日的課題でもある、伝統的な建造物・町並の保存・修理・活用・復元の問題にも目をむける。	
	施工計画・管理	建築施工においては、設計図書に表現された設計者の意図を理解し、関係諸法規などを遵守して、発注者の要求に沿った良質な建物を、安全に、適切なコストで、契約工期内に造り上げることが目標となる。本講義では、建築施工における施工計画および施工管理について、実務的な立場から、敷地の調査・確認、各種手続き、地業工事、基礎工事、躯体工事、仕上げ工事等の各種工事における品質管理、工程管理、コスト管理等の管理項目、品質管理組織とその役割等について理解し、それらの実践的な管理方法を学習する。	
	木造建築の設計	我が国は豊かな森林資源に恵まれ、木で建築を作り続けてきた長い歴史があり、木造建築の意匠・構造・工法はその時間の経過のなかで洗練されたものとして継承されてきた。明治以降、近代化の名のもとに西洋から導入された技術は、日本の木造の世界に新たな展開を生み出してきた。これまでの職人の経験にのみ依存する建築から、技術を科学的に可視化できる建築へと変えてきた。そして、木造建築の技術は、住生活の変容に合わせてその適用を変化させてきた。本講義では、意匠・構法・生産、構造などの面から、木造建築を多角的、包括的にテーマを設定し日本の木造建築を捉えていく。	
	建築計画2	戦後かかげた社会的な目標の多くがすでに達成された近年、社会が建築計画に要請することも多様化、変化してきており、とくにグローバリゼーションによる居住の質の均一化に対応することは重要な課題となっている。この授業では、こうした背景にもとづき、最近の建築計画の動向を踏まえ、なおかつグローバル社会に対応するべく広く異文化とされる社会における人と建築の多様な関係を参照しながら、住まいやその集合のありうべき道筋を計画学的に探ることを目的とする。実際の授業では、世界の多様な気候や文化に対応した居住文化の容態を学び、なおかつ集合の様態や集合の要件などを現代的な側面から探る。	

専門科目	建築・都市法規	建築や都市を実際の市街地の中で企画・開発・実現するにあたっては、建築基準法・都市計画法等、社会的ルールとしての法律を理解することと、それを守ることが必要となる。本授業を通じて、建築関連法の思想および体系を理解するとともに、建築基準法および施行令、また都市計画法といった建築関連法規を順守した計画・設計を学ぶ。さらに建築・都市に関する将来の技術者として、技術・知識の向上を図ることに加え、技術者倫理を理解することにより、実社会において倫理的に正しい行動ができるようになることを目的とする。	
	都市開発マネジメント	近年の大都市都心部における開発は、都市機能の更新という物理的視点だけではなく、都市生活の魅力の向上を目指した文化的視点も重要な要素となってきた。特に、これまでの（不動産）開発が単体・単一用途の建築物を創ることに重点が置かれていたことに比して、近年は複数・複合用途の大規模開発が多く実現されている。また、大規模複合開発となることにより、建物竣工後の管理・マネジメントが高率的運営・資産価値の維持のために重要である。本講義では、都市開発の企画・計画・事業管理及び完成後のマネジメントまでを学んでいく。	
	近代建築史	20世紀の欧米を中心とする近代建築の歴史を概観した後、戦後日本のモダニズム建築が如何に形成されてきたかを考察する。前半は19世紀のヨーロッパにおける産業革命・技術革新から、世紀末のアーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォーを経て、さまざまな近代建築運動がおこり、20世紀に国際様式が成立する過程を追う。かつ近代建築の巨匠について、作品分析をおこなう。後半は日本において、欧米の建築様式を受け入れ、独自のスタイルを生み出しつつ、モダニズム建築を確立していく過程を学ぶ。	
	建築経済	建築プロジェクト全般における経済的、経営的側面について理解し、コストマネジメントに必要な各種手法を身につける。授業は大きく3つ：建築の積算と見積手法、長期修繕計画とLCC算定手法、コストデータの活用手法、に区分できる。建築生産だけではなく建築ストックのマネジメントにも対応できるよう、新築と維持管理との関連性を重視して講義を行う。	
	建築構工法2	建築の設計で必要とされる各部位のディテール構成において、現代の建築におけるディテールやセオリーについて背景・根拠・技術面等を踏まえた基本的な考え方を学習して、設計にフィードバックできるスケール感を理解し、建築の設計およびものづくりに関わる者が体得しておくべき基礎的スキルと知識の習得を目指す。授業の中では、講義のみならず、簡単なトレース・スケッチ演習を行いながら、ディテールの図表現を体感しながら理解することを重視する。	
	空間保全再生計画	これからの建築・都市空間の設計においては、白紙からの設計、あるいはスクラップアンドビルド開発から脱却し、すでに何かがある状態から、そこに「加える」設計が重要となってくる。また、環境負荷低減という観点、即地的な文脈をふまえた質の高い生活空間を実現するためにも、建築・都市空間の保全再生が重要となる。地域における歴史的な建築物や町並み保全から、都市再生・コンバージョンといった都市部における取組などを通して、成熟型社会においてストックを活かした生活空間の創造を学ぶ。	

専門科目	維持保全・改修	建築物の維持保全および改修は、循環型社会の実現に向けて重要性が増している課題である。維持保全については、主に材料的な観点から、建築物の劣化や損傷とその対応策について理解することが目的である。授業では、維持保全計画の考え方、点検・調査・診断の方法、補修材料や工法などについて、それらの手法と具体例を学習する。改修については、構造的な観点からの意義を理解し、方法論を把握することが授業の目的である。そこで、既存建築物の構造性能評価法として耐震診断を取り上げ、その趣旨と手法を紹介し、その後、耐震改修の意義と手法および具体例を学習する。	
	卒業研究	卒業研究では、学部での学習の総括として、自らテーマを設定し、それにふさわしい教員の指導のもとで一年をかけて研究を進め、その成果を卒業論文もしくは卒業設計にまとめる。これまでに修得した専門的知見と今日の社会状況に照らし合わせてテーマを見つけること、研究の目的と方法を構想、計画し、それに基づいた調査と分析を遂行すること、成果を論理的にまとめ発表すること等、多面的、総合的な能力が求められる。そのため卒業研究の履修にあたっては、単位修得に関わる着手条件がある。研究の進め方は、テーマや教員の指導内容により様々であるが、中間報告、最終報告、本論及び梗概の提出については、学科が定める方法で行う。	
	建築家職能論	建築家と建築士の意味の違いを理解した後に、日本と欧米における建築家や建築教育の違いを、自身の海外経験も含めて解説する。そして近代建築を軸にポストモダニズムやその後の多様な建築思想を歴史的に捉えると共に、建築家の職能の広がりについて事例を挙げて説明する。パラダイムシフトの中で、参加のデザインの重要性と共に、そのスキルを解説する。良質な建築や美しいまちづくりを目指した英国のCABEを材料に日本の制度における展開の可能性について言及する。震災以後における建築家の活動やストック活用という今日的状況についての解説を行う。授業ではこれらを写真を元に説明すると共に、質疑とディスカッションによる双方向の授業形態の中で意味を深める。	
	都市防災計画	災害は物的な損害を与えることにとどまらず、現代社会に多大な影響を及ぼす都市災害となりうる。災害の複合化や多様化、広範な分野へ影響が波及することなどが都市災害の特徴であり、ますます複雑化する傾向にある。安心・安全で質の高い生活空間を生み出すために、防災・安全計画は欠かせない。本授業では、建築安全工学・火災工学・地震工学・都市防災学・犯罪学等の知見を踏まえつつ、建築内部から建築単体、さらには都市を含みながら、安心・安全や事故・被害の予防・軽減をいかに実現していくか、その方策を習得する。	
	海外建築研修	世界史に残る海外の高名な建築や都市を実際に訪れ、現地に行かなければわからないことを学び取る。事前調査はグループで入念に行い、現地においても調査やスケッチを行い、教員による専門的な講義を聞く。帰国後はその学習成果を発表し、調査報告書の刊行を行う。建築を学ぶ上で重要な建築から都市までを体験し、専門知識の習得の基礎とする。	集中・共同

専門科目	国内プロジェクト1	一連の国内プロジェクトは、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業であり、さまざまな課題に順次、取り組むことで、建築の各種スキルや構想力を段階的に養うことを目的とする。国内プロジェクト1は、国内の著名な建築物、街並み、都市から複数の対象を選び、それらを多様な観点から調べ、その特徴を理解し、報告書にまとめる。また、報告書作成までの一連の過程で、さまざまなスケッチをおこない、3次元空間のとらえ方を習得する。とくに、建築物や街並み、都市空間をパースやアイソメトリック図法、アクソメトリック図法で描く方法を習得し、さらに着色や陰影を描きこむことで、表現方法の基礎を身につけることを目的とする。	集中
	国内プロジェクト2	一連の国内プロジェクトは、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業であり、さまざまな課題に順次、取り組むことで、建築の各種スキルや構想力を段階的に養うことを目的とする。国内プロジェクト2は、国内プロジェクト1に続いて、国内の著名な建築物、街並み、都市を多様な観点から調べ、その特徴を理解し、報告書にまとめる。また、報告書作成までの一連の過程で、写真の撮影や簡単な実測を行い、写真機の使い方や実測の仕方を身につける。写真については、適切な撮影条件、気候や状況に応じた適切な撮影方法を習得する。実測については、配置図や簡単な平面図を作成する過程で、実測道具の使い方や実測の手順を習得する。	集中
	国内プロジェクト3	一連の国内プロジェクトは、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業であり、さまざまな課題に順次、取り組むことで、建築の各種スキルや構想力を段階的に養うことを目的とする。国内プロジェクト3は、国内プロジェクト2に続いて、国内の著名な建築物、街並み、都市を多様な観点から調べ、その特徴を理解し、ある程度詳細な実測図やスケッチ、写真の作成と合わせて、報告書にまとめる。実測については、配置図、平面図に加え、断面図や各部詳細図を描き、対象となる建築物や街並みのより深い理解を目指す。	集中
	国内プロジェクト4	一連の国内プロジェクトは、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業であり、さまざまな課題に順次、取り組むことで、建築の各種スキルや構想力を段階的に養うことを目的とする。国内プロジェクト4は、国内プロジェクト3までの蓄積の上に、高度なプレゼンテーションを行うことを目指す。対象とするのは国内の著名な建築物、街並み、都市であり、それらを多様な観点から調べ、その特徴を理解し、また、詳細な実測図やスケッチ、写真を用いながら報告書にまとめる。さらに、その報告書に沿って、プレゼンテーションファイルを作成し、対象とした建築物や街並みについて発表し、批評を受ける。発表については、発表用ソフトのさまざまな機能を理解し、他者が理解しやすいファイルを作成する。	集中
	インターンシップ1	実社会における様々な建築生産現場で実際に労働体験をすることを通じて、現実の建築生産行為の一端に触れ、学生の今後の学習の方向性と進路について考える機会を提供すること、ならびに社会人としてのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。実習の時期は春季・夏季の長期休暇であり、原則として10日間の実働を行う必要がある。評価については実習先からのインターンシップ評価表、学生が日々の実習について記録するインターンシップ実習ノート、インターンシップ後に自らの学びについて記載するインターンシップ報告書の3点を総合的に評価し単位を認定する。なお、初回インターンシップ参加者は「インターンシップ2」を受講することはできない。	集中

専門科目	インターンシップ2	<p>実社会における様々な建築生産現場で実際に労働体験をすることを通じて、現実の建築生産行為の一端に触れ、学生のその後の学習の方向性と進路について考える機会を提供すること、ならびに社会人としてのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。実習の時期は春季・夏季の長期休暇であり、原則として10日間の実働を行う必要がある。評価については実習先からのインターンシップ評価表、学生が日々の実習について記録するインターンシップ実習ノート、インターンシップ後に自らの学びについて記載するインターンシップ報告書の3点を総合的に評価し単位を認定する。「インターンシップ1」で単位認定された者のみが「インターンシップ2」を受講することができる。なお、「インターンシップ1」において単位認定されたものと同様の実習は「インターンシップ2」の単位認定対象としない。</p>	集中
	国際プロジェクトA	<p>国際プロジェクトAおよび国際プロジェクトBは、国際的な感覚を養うことを目的とし、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業である。国際プロジェクトA（学生送り出し）では、海外の大学で学ぶ外国人建築系大学生と協働する国際建築ワークショップを海外にて行う。日本とは異なる文化を理解しながら相互に適切なコミュニケーションを図り、建築における構想力、および調査、設計、発表に関する各種スキルを養うことを目的とする。</p>	集中
	国際プロジェクトB	<p>国際プロジェクトAおよび国際プロジェクトBは、国際的な感覚を養うことを目的とし、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業である。国際プロジェクトB（学生受け入れ）では、海外の大学で学ぶ外国人建築系大学生と協働する国際建築ワークショップを日本国内にて行う。日本とは異なる文化を理解しながら相互に適切なコミュニケーションを図り、建築における構想力、および調査、設計、発表に関する各種スキルを養うことを目的とする。</p>	集中
	韓国建築実習A	<p>芝浦工業大学との提携校であるソウル・漢陽建築大学との交換授業・ワークショップ(受け入れ)。4～5週間程度の集中講義形式で行われる。また、トライアングル・プログラムとして、パリ・ベルヴィル国立建築大学も参加する授業である。異なる国の学生とのワークショップにより、相互理解を深めるとともに、国際的視野にたった建築設計の方法を習得する。また、英語によるプレゼンテーション能力向上も図る。</p>	共同・ 集中・隔年
	韓国建築実習B	<p>芝浦工業大学との提携校であるソウル・漢陽建築大学との交換授業・ワークショップ(送り出し)。4～5週間程度の集中講義形式で行われる。また、トライアングル・プログラムとして、パリ・ベルヴィル国立建築大学も参加する授業である。異なる国の学生とのワークショップにより、相互理解を深めるとともに、国際的視野にたった建築設計の方法を習得する。また、英語によるプレゼンテーション能力向上も図る。</p>	共同・ 集中・隔年
	フランス建築実習A	<p>芝浦工業大学と提携校にあるフランス・ベルヴィル国立建築大学との交換授業、ワークショップ(受け入れ)。本授業は4～5週間程度の集中講義形式で行われる。また、トライアングル・プログラムとして、ソウル・漢陽建築大学も参加する授業である。異なる国の学生とのワークショップにより、相互理解を深めるとともに、国際的視野にたった建築設計の方法を習得する。また、英語によるプレゼンテーション能力向上も図る。</p>	共同・ 集中・隔年

専 門 科 目	フランス建築実習B	芝浦工業大学と提携校にあるフランス・ベルヴィル国立建築大学との交換授業、ワークショップ（送り出し）。4～5週間程度の集中講義形式で行われる。また、トライアングル・プログラムとして、ソウル・漢陽建築大学も参加する授業である。異なる国の学生とのワークショップにより、相互理解を深めるとともに、国際的視野にたった建築設計の方法を習得する。また、英語によるプレゼンテーション能力向上も図る。	共同・ 集中・隔年
	イタリア建築実習A	海外校との交換授業（イタリア・ラクイラ大学を予定）を利用して、英語での建築の実習を集中授業で実施する（受け入れ）。設計、見学、多種レクチャーを英語で体験し、外国語による建築の理解を促進させる。対象となる都市の歴史的分析、主要建造物の空間理解、設計事務所の視察、新たな設計（デザインおよび構造）指針の構築をめざす。英会話能力について試験を課し、合格者のみに受講資格を与える。日本人学生（約10人）はラクイラ大学の学生と合流し、設計課題をおこなう。	共同・ 集中・隔年
	イタリア建築実習B	海外校との交換授業（イタリア・ラクイラ大学を予定）を利用して、英語での建築の実習を集中授業で実施する（送り出し）。設計、見学、多種レクチャーを英語で体験し、外国語による建築の理解を促進させる。対象となる都市の歴史的分析、主要建造物の空間理解、設計事務所の視察、新たな設計（デザインおよび構造）指針の構築をめざす。英会話能力について試験を課し、合格者のみに受講資格を与える。日本人学生（約10人）はラクイラ大学の学生と合流し、設計課題をおこなう。	共同・ 集中・隔年
	ロシア建築実習A	モスクワ建築大学（MARHI）との交流授業（受け入れ）。ロシア建築実習aにおいてはロシアの首都圏（モスクワ）のもつ地域課題にグループで取り組む。グループは両大学の学生を組み合わせ、また院2年生から学部3年生までを組み合わせる。それぞれのグループ単位でフィールドワークを含めた作業を行なう。期間は四週間程度の集中授業となる。複数担当教員（MARHIおよびSIT）による設計演習。	共同・ 集中・隔年
	ロシア建築実習B	モスクワ建築大学（MARHI）との交流授業（送り出し）。ロシア建築実習aにおいてはロシアの首都圏（モスクワ）のもつ地域課題にグループで取り組む。グループは両大学の学生を組み合わせ、また院2年生から学部3年生までを組み合わせる。それぞれのグループ単位でフィールドワークを含めた作業を行なう。期間は四週間程度の集中授業となる。複数担当教員（MARHIおよびSIT）による設計演習。	共同・ 集中・隔年
	芝浦工業大学通論	大学の執行幹部（学長、各学部長・研究科長）による教学理念やビジョン、社会と工学との関わり、大学の現状と未来を聞くとともに、本学の歴史を批判的に振り返る。その後、OBによる社会からみた本学の姿や学生に対するアドバイスなどを受けながら、大学やそこに在籍する自分自身を本音で見直す機会とする。	

共通・教養科目 数理基礎科目 数学科目	微分積分第1	微分積分第1は解析学の導入部分であるだけでなく、大学における多くの数学系科目の基礎になるものである。解析学は自然科学や工学に現れる現象を数式によって記述し、それらの現象の解明に寄与する数学の大きな柱となる一分野である。本科目では、1変数の微分積分における基礎的な事項を扱う。具体的には、主要な関数についての極限、連続性、微分可能性、導関数、L'Hospitalの定理、不定形の極限、平均値の定理、積分の概念、原始関数と不定積分、定積分、簡単な微分方程式が主な内容である。	
	微分積分第2	微分積分第2では、微分積分第1に引き続き、1変数の微分積分を扱い、これらの知識を深化、発展させていく。具体的には、導関数（高階も含む）、ライプニッツの定理、テーラー展開、マクローリン展開とその応用、定積分における置換積分・部分積分、有理関数、超越関数、無理関数の定積分、求積問題、広義積分といった事項を主に扱う。これらの事項は、数理専門科目にある微分積分第3、4、確率と統計、関数論、微分方程式、ベクトル解析等の解析系科目のみならず、専門の教科においても使われ得る重要な概念である。	
	線形代数1	線形代数は数学の基礎に位置づけられ、大学で学んでいく様々な科目の理解にも不可欠である。線形代数1では、行列、行列式、ベクトル空間の基本事項を扱う。最初に行列とは何かについての基礎事項を学び、次に連立一次方程式の理解と解法に行列が有効であるかを体験する。連立一次方程式と線形代数の関連が前半の山場であり、掃き出し計算に習熟していく。行列式の定義や性質について。計算手法とともに学ぶ。終盤ではベクトル空間、ベクトルの一次独立性などの事項を学ぶ。	
	微分積分第3	微分積分第1、2では、独立変数が1個の関数に関する微分積分について扱うが、自然科学や工学に現れる現象を数式で記述する際、変数を2個以上必要とする場合が多くある。この講義では、関数のグラフがイメージしやすい2変数関数の微分積分の概念の基礎的な部分を学修する。1変数関数の微分・積分を基本として、2変数関数の微分・積分の新たな定義やそれらに関連する性質の本質的な意味を学ぶ。具体的には、2変数関数のグラフと極限、偏微分の計算、重積分の意味とその性質、累次積分や変数変換を用いた2重積分の計算を扱う。	
	微分積分第4	微分積分第4では、独立変数が複数個の関数に関する微分積分について扱い、微分積分第3で学習した内容を深化、発展させていく。具体的には、2変数でのテーラーの定理、求積問題、接平面の方程式、2変数関数の極値問題、陰関数とその意味、条件付極値問題、広義2重積分など、関数のグラフがイメージしやすい2変数関数の微分積分を学ぶとともに、これらの知識をもとにして、3重積分、体積、曲面積、重積分の応用をも学修する。	
	線形代数2	本授業では最初に数ベクトル空間の基本性質について振り返る。その後、行列を写像としてみた時の性質、内積と固有値問題について学ぶ。具体的には線形写像の像、核と呼ばれる部分空間、線形写像の行列表現、基底の変換について理解した後に、行列の固有値・固有空間・対角化を学ぶ。さらに数ベクトル空間における内積の定義、ベクトルの長さという概念の導入、シュミットの正規直交化法、直交行列、実対称行列の直交行列による対角化を学ぶ。また、対角化の応用として、2次形式の標準形なども学ぶ。	

共通・教養科目 数理科目 数理基礎科目	確率と統計1	<p>本授業では、標本から得られる数量的データから、そのデータの由来する母集団の特性に関する情報を取り出すための初等的な統計的手法とその理論について学ぶ。具体的には、統計学に関する知識として、代表値、散布度、相関係数、回帰直線といったデータの整理に関することを学び、確率の基本概念と代表的な確率分布（二項分布・ポワソン分布・正規分布等）を学ぶ。さらに、母集団と標本の考え方や基本定理を学び、一標本における大標本時の平均や割合の推定を学ぶ。大学1・2年の数学的知識を導入しながら講義するが、演習も多くとり入れる。</p>	
	微分方程式	<p>微分方程式の授業では、ニュートンの運動方程式を例に用いて、1階の微分方程式の定式化について学び、その後で1階の微分方程式の解法について学ぶ。高階線形微分方程式の例としてはキルヒホッフの法則を用い、電気回路の式を導き、その後、階数低減法により1階に変形することで解けるようにする。さらに、微分方程式の解がベクトル空間を構成することを理解し、1次独立な解を求める必要があることを学ぶ。線形代数で微分方程式は連立微分方程式に変形することで、線形代数で学んだ固有値、固有ベクトルの問題に帰着できることを学ぶ。最後に、変数係数高階線形微分方程式を級数を用いて解くことを学ぶことで、微分方程式の授業を完成させる。</p>	
	ベクトル解析	<p>さまざまな自然現象、電磁気学、力学、流体力学などはすべて「場」という視点で扱うことができる。「場」を数学的に記述し、解析することを本授業で学ぶ。微分積分2では偏微分、全微分、重積分の考え方を学んだが、本授業ではさらに進んで「勾配」「発散」「回転(渦度)」などの微分演算が導入される。座標変換に関する微分演算の変換則の理解が重要になる。さらに、線積分、面積分、体積分の基本事項を学び、有用なガウスの定理、ストークスの定理も概観する。</p>	
	フーリエ解析	<p>19世紀の初め、フランスのFourierは熱伝導方程式の解の構成に画期的な方法、すなわち関数は三角関数の無限和で表されると主張し、解を構成した。これ以降、フーリエ解析は数学面では実解析学の発展に貢献し、物理学・工学では自然現象を解析し解釈する強力な手段となった。周期関数を正規直交系（三角関数など）で展開したものがフーリエ級数であり、微分方程式の求解や解析の手法を提供する。一般の関数にフーリエ級数を拡張したものがフーリエ変換である。講義では、数学としての厳密性にも留意し、応用を念頭においた現象解析と計算ツールとしてのフーリエ解析の理論・考え方・応用をバランス良く講義する。</p>	
	確率と統計2	<p>確率と統計1では一標本における大標本時の平均・割合の推定を扱うが、本授業では小標本時の平均の推定から学ぶ。その際には、必要な確率分布（t-分布）や概念・定理を学ぶ。続いて推定と表裏をなす検定を学ぶ。具体的には、2種類の過誤や平均値・平均値の差・比率の検定を学ぶ。さらに、多次元確率分布について学び、二標本における初歩的な推定・検定を学ぶ。最後に回帰分析、分散分析の初歩を学ぶ。</p>	
	ラプラス変換	<p>本講義では、ラプラス変換の基本法則・定理・公式等の無味乾燥な羅列に終始するのではなく、将来の応用への広い展望を持つために、基礎と応用の調和ある解説を行う。時には、厳密な条件や証明よりも、先ずその意味や使い方に習熟することも大切である。また、デルタ関数を通じて超関数理論の一端に触れる。信号解析ではラプラス変換を離散化したz変換が重要で、線形差分方程式を代数的に解くのに用いられる。本講義では、応用の対象によって分類せず、常（偏）微分方程式、積分方程式、差分方程式というように応用の手法によって分類して講義する。</p>	

共通・教養科目 数理基礎科目 理科学科目	数学科目	関数論	<p>本授業では複素関数論の入門を行う。微分積分1,2では実数を変数とする関数を扱うが、本授業では変数を複素数の範囲にまで広げた複素関数を考察する。複素数は数学上の(虚しい)想像の産物ではなく、自然現象、例えば波などを記述するのに不可欠な言語である。また指数関数、三角関数、対数関数などの関数も複素関数として扱うことで実数の世界では見えなかった本性を顕す。複素関数の微分可能性(正則性)はコーシー・リーマン方程式で特徴づけられ、コーシーの積分定理、べき級数展開可能性など強力な結果を導く。</p>	
		物理学入門	<p>大学で学ぶべき最低限の物理知識を提供すること、そして更に進んで物理を学ぶときに必要な基礎学力をつけることを目的とする。力学と電磁気学の双方の分野からテーマを厳選し、「狭く深く」取り扱うことで、物理学の基礎がしっかりとみにつくことを目指す。2コマ連続の講義+演習形式として、問題演習の時間を多くとり、学生にしっかりと頭を使ってもらおう。また、アクティブラーニング、教え合い学習、繰り返し学習などで、学習効果を高める。</p>	講義30時間 演習30時間
		基礎力学	<p>物理学は自然現象を数学を道具として解明して行く学問である。このプロセスに必要なのは「論理的な思考・推論」と「それを可能とする技量」であり、これらを習得することが物理学を学ぶ主たる目的である。本講義は、物理学の基礎であるニュートン力学について学ぶ。運動方程式を微分方程式として解く。建築系の応用としても重要な単振動、減衰振動も取り上げる。後半は、角運動量とトルク、剛体の釣り合いと運動にまで適用範囲を広げ発展させていく。</p>	
		基礎力学演習	<p>講義科目である「基礎力学」に対応する演習科目である。講義で取り扱う内容についての具体的な演習問題を解く。講義内容の理解を深め、実際の問題解決に必要な計算技術の習得を行うために毎回レポート課題を課す。対応する講義と同一担当者による連続開講となっており、講義とセットで履修することが望ましい。</p>	
		基礎環境化学	<p>本授業では、建築系の材料としての化学を学ぶための基礎を学習する。どのような工業製品も、形のあるものにするためには素材が必要である。その素材を作り出すのが「化学」である。また、深刻な環境問題を抱えている現代社会においては、地球環境に負荷がかからないよう、物質と人間、自然環境の関わり方を考え直す必要に迫られている。そこに力を発揮するのも「化学」である。「化学」は「工学」の重要な基礎の一つであり、化学を学ぶことは理論的な素材の性質を理解するだけでは無く、自然環境と生物との共生という意味からも多くのことを学ぶことができるであろう。</p>	
		基礎電磁気学	<p>本講義では電気現象の基本的な知識や考え方を学ぶ。前半では電気現象にフォーカスし、静電気、定常電流を扱う。ガウスの法則を使い電場を求め、さらに電位を求める方法を習得する。後半は、電気と磁気が密接に関連した現象であることを学ぶ。ビオ-サバールの法則やアンペールの法則で電流から磁場を求める手法を学ぶ。また、電磁誘導とその応用である交流回路についてまなぶ。最後に、マクスウェル方程式により電磁気現象が統一的に説明されることを理解する。</p>	

共通・教養科目	理科科目	基礎電磁気学演習	本演習では電気現象の基本的な知識や考え方を学ぶ。前半では電気現象にフォーカスし、静電気、定常電流を扱う。ガウスの法則を使い電場を求め、さらに電位を求める方法を習得する。後半は、電気と磁気が密接に関連した現象であることを学ぶ。ビオ-サバルの法則やアンペールの法則で電流から磁場を求める手法を学ぶ。また、電磁誘導とその応用である交流回路についてまなぶ。最後に、マクスウェル方程式により電磁気現象が統一的に説明されることを理解する。毎回、具体的な演習問題を解き、レポート提出を求める。		
		基礎熱統計力学	熱統計力学は近年、エネルギー問題、環境問題から材料物性・生命・社会科学まで応用の裾野を広げている。その一端をここでは学ぶ。将来いかなる分野に進もうとも、エンジニアとして熱の基本的な考え方は理解しておく必要がある。講義の内容は、まず、温度や熱という我々が日常的に使っている熱の概念を正確に理解することから始める。そして、熱力学法則から様々な熱現象が理解できることを学ぶ。後半の統計力学では、ミクロな情報から統計処理によって、マクロ現象を理解する手法を学ぶ。		
		基礎熱統計力学演習	熱統計力学は、近年、エネルギー問題、環境問題から材料物性・生命・社会科学まで応用の裾野を広げている。その一端をここでは学ぶ。将来いかなる分野に進もうとも、エンジニアとして熱の基本的な考え方は理解しておく必要がある。講義の内容は、まず、温度や熱という我々が日常的に使っている熱の概念を正確に理解することから始める。そして、熱力学法則から様々な熱現象が理解できることを学ぶ。後半の統計力学では、ミクロな情報から統計処理によって、マクロ現象を理解する手法を学ぶ。毎回、演習問題を解き、レポートを課す。		
	外国語科目	英語科目	Listening and Speaking I	本授業は、英語でのコミュニケーション力を伸ばすことを目的とする。日常的なトピックについて話すことを通じて、各話題に適切な語彙や文法の知識を向上させつつ、流暢に話す力を強化する。クラスでは様々なリスニング練習やペアワークやグループワークを中心としたスピーキング練習を行う。TOEICテストのリスニング練習問題が宿題として課せられる。日常的な場面においてある程度正確に、そして、自分の考えを述べることを目指し、クラスは基本的に英語で進められる。	
			Reading and Writing I	本授業は、リーディングとライティングのスキルを伸ばすことを目的とする。様々な内容の文章を読むことにより、文章の要点や詳細を日本語に訳すことなく読み取る力を伸ばす。またリーディングを通じて、文法を使いこなす力を向上させ、語彙力も強化する。リーディングの内容について、グループやペアワークによるディスカッションを行う。短いライティングの課題提出が数回課せられる。ライティング練習を通してパラグラフライティングの基礎を身につける。	
		English Communication I	本授業は、英語でコミュニケーションをする力を伸ばすことを目的とする。世界における様々な問題を題材に、CDの音声を聞いたり、DVDを見たりし、異なる聴き方（内容の推測、全体の内容把握、特定の情報の聞き取りなど）の練習を通じリスニング力をつけると同時に、聞いた内容について話すことを通じて、情報や考えを英語で伝える力と自信をつける。また、トピックごとに表現、文法、適切な語彙を学ぶ。毎回リスニングの宿題が課せられる。		

TOEIC IA	<p>本授業は、TOEICテストの得点を伸ばすことを目的とする。リスニングセクション・リーディングセクションの問題を数多くこなすことを通し、頻出単語や文法を習得すると同時に、テストを受ける際のコツも学ぶ。期末テスト以外に中間テストもしくは小テストを複数回行う。クラスでの練習の積み重ねがTOEICのスコアアップにつながるの地道な予習・復習が望まれる。</p>	
Reading IA	<p>本授業では、比較的難易度の高い英語長文を正確にかつ困難なく読み、内容を理解する力をつけることを目指す。科学や建築など専攻分野に関連した内容の教材を用い、日本語訳に頼ることなく長文の意味が理解できるようにする。スキミングやスキミング、要旨理解といった速読のコツや方策のみならず、正確に読む精読の練習も行う。また、読んだ内容について分析、考察、要約し、またディスカッションを行うことにより、使える語彙力の強化も図る。</p>	
Writing IA	<p>本授業では、英文パラグラフを構成する仕方や短いエッセーの取り組み方を学ぶ。日英の表現形式や表現の違いに慣れる。自分の考えを簡潔で自然な英語でパラグラフにまとめるライティング練習を行う。毎週、異なるトピックでそれにふさわしい表現や形式を用いまとまりのある英文（パラグラフ）を書くことが課せられる。クラス内ではペアワークやグループワークを通し、自分の書いた内容について発表しあい表現力を磨く。期末レポートとして長めのエッセー課題が出される。</p>	
Presentation I	<p>本授業では英語による一般的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。効果的なプレゼンテーションをするための、アイコンタクト・姿勢・ジェスチャー・声の使い方などの基本的なテクニックと、わかりやすいプレゼンテーションを組み立てるための基本的な内容構成方法を、プレゼンテーションの練習を重ねながら身に付けていく。また、Information/Layout/Demonstrationといった異なるタイプのプレゼンテーションについても、ビデオ教材等を使いながら学んでいく。</p>	
TOEIC IB	<p>本授業は、TOEICテストの得点を伸ばすことを目的とする。リスニングセクション・リーディングセクションの問題を数多くこなすことを通し、頻出単語や文法を習得すると同時に、テストを受ける際のコツも学ぶ。期末テスト以外に中間テストもしくは小テストを複数回行う。クラスでの練習の積み重ねがTOEICのスコアアップにつながるの地道な予習・復習が望まれる。</p>	

外国語科目	英語科目	Reading IB	本授業では、比較的難易度の高い英語長文を正確にかつ困難なく読み、内容を理解する力をつけることを目指す。科学や建築など専攻分野に関連した内容の教材を用い、日本語訳に頼ることなく長文の意味が理解できるようにする。スキミングやスキミング、要旨理解といった速読のコツや方策のみならず、正確に読む精読の練習も行う。また、読んだ内容について分析、考察、要約し、またディスカッションを行うことにより、使える語彙力の強化も図る。	
		Writing IB	本授業では、英文パラグラフを構成する仕方や短いエッセーの取り組み方を学ぶ。日英の表現形式や表現の違いに慣れる。自分の考えを簡潔で自然な英語でパラグラフにまとめるライティング練習を行う。毎週、異なるトピックでそれにふさわしい表現や形式を用いまとまりのある英文（パラグラフ）を書くことが課せられる。クラス内ではペアワークやグループワークを通し、自分の書いた内容について発表しあい表現力を磨く。期末レポートとして長めのエッセー課題が出される。	
		Presentation II	本授業では学問や研究の場で求められる英語によるプレゼンテーションのしかたを学ぶ。プレゼンテーションの構成やプレゼンテーションにふさわしい姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、などのプレゼンテーション技法を学び、実践練習を積む。図表やフローチャート、データを用いて説明する練習も行う。コース終了時までには、パワーポイントなどのソフトを用い自分の専攻分野の内容を題材にグループ発表や、個人発表ができることを目標とする。	
		TOEIC II	本授業は、TOEICテストの得点を伸ばすことを目的とする。リスニングセクション・リーディングセクションの問題を数多くこなすことを通し、頻出単語や文法を習得すると同時に、テストを受ける際のコツも学ぶ。期末テスト以外に中間テストもしくは小テストを複数回行う。クラスでの練習の積み重ねがTOEICのスコアアップにつながるので地道な予習・復習が望まれる。受講者は500点前後のスコアを保持していることが望ましい。	
人文社会・情報系教養科目	応用経済学	この授業は、受講生が経済学における定量的分析手法を習得し、それを活用して現実経済を分析する能力を身につけることを目標とする。また、公共投資など政府の経済政策がもたらす経済効果の分析に有効なツールとなる産業連関分析やマクロ経済モデル分析も紹介し、それらを活用した問題演習などを行う。最終的には、こうした分析手法を現実の経済分析に適用し、受講生各自が関心を抱く経済現象を解明することに取り組んでもらう。そこでは、自分自身で必要となるデータを収集するなど、主体的な取り組みが必要となる。		
	情報アクセシビリティ論	情報コミュニケーションが大きな意味を持つ現代社会では、情報を得たり、情報を発したりするうえで、全ての人が公平でなければならない。しかし、現実には、技術的な問題や社会的な問題がそれを阻んでいる。そうした問題意識から、近年、世界中の地域・国々でこの問題に対する取り組みがなされている。授業では、社会の公平性や不平等と情報の問題について、障害者疑似体験やフィールドワーク、事例研究を通して議論し、学生諸君に考えてもらうことを眼目とする。また、この問題を、様々な工学分野で直接・間接にかかわってくるであろう極めてグローバルかつ今日的な問題として、学生諸君が自ら気づき、考えるきっかけを提供する。		

人文社会・情報系教養科目 共通・教養科目	映像メディア論	伝統的な映像メディアに加え、近年では「YouTube」などの映像メディアからも、私たちは情報の多くを得ており、生活、行動、意識、仕事などはそれらから大きな影響を受けている。一方で、コンピュータ技術をはじめとする情報技術の発達は、映像の扱いを容易にし、真実であるかどうかを見抜くことが困難な映像を目にすることが以前と比べて多くなってきている。これまで以上に、映像メディアとの「上手なつきあい方」を身に付けることが不可欠になってきた。授業では、映像メディアの特性、歴史などを概観し、また、メディアの操作といった観点で映像メディアを考える。授業は講義と実習で構成し、頻繁に映像を視聴する。	
	情報時代の地域・都市	都市や地域のありようは時代とともに大きく変化する。今日、われわれが生活する社会は情報社会と呼ばれるが、そこでは情報の果たす役割や情報に関する人々の行動が以前の社会に比べて著しく増大している。その結果、地域戦略やまちづくりのなかで情報やコミュニケーションの問題が大きな比重を占めるようになってきている。本講義はそうした認識のもと、具体的な事例を通して「情報」を「地域の問題」や「地域社会の問題」と関連させ、地域と情報のかかわりを様々な視点からとらえ、理解することを主眼とする。	
	生産と消費の環境論	これからの社会人、特に技術者は、生産(製品・サービス)と消費(ライフスタイル)という人間活動が環境に及ぼす影響を総合的に評価し、改善へとつなげる認識が求められる。また、世界的にも「持続可能な生産と消費」という概念が注目を浴びている。そこで本講義では、この生産と消費の環境影響や持続可能性を評価する手法として、マテリアルフロー分析、ライフサイクルアセスメント(LCA)、フットプリント(CFP, WFP, EFP)、環境効率など、様々な手法の理論的背景や実際の適用例を学習する。	
	地域環境マネジメント	人間活動による地域や地球環境への負荷が重要な課題として認識されるようになった今日、その活動の場である地域での人間活動の環境への影響を把握し、解決の道筋を見いだしていくことは重要な課題である。本講義では、こうした地域をベースとしたインフラの整備や廃棄物処理などの人間活動による総合的な環境影響の評価や解決策を検討するための、ライフサイクル思考などの評価・マネジメント手法の理論的学習、実際の適用例を学ぶとともに、具体的な例について実践する。	
	環境学入門	環境は想像する以上の複雑さと規模とをもっているため、環境を扱う学問領域は多岐にわたり、問題へのアプローチの仕方も様々である。そうした環境に関する学問的アプローチは、一般的に「環境学」と総称される。本講義は、そうした「環境学」の入門であり、特定の環境問題やアプローチに特化するのではなく、認知科学、倫理学、経済学、社会学、心理学、政治学など人文社会科学からの環境への様々な学問的アプローチを広く浅く取り上げ、その基本的な考え方を学ぶものである。	
	環境経済学	維持可能な社会(sustainable society)の経済的基礎を分析し、それを実現するための経済理論と各主体の行動様式および公共政策のあり方を解明することを目的とした学問領域である。環境経済学の入門的な講義を行う。具体的には、環境経済学の一般的なテキストブックで扱われる主要な理論について解説していく。さらに、環境経済学は環境問題の解決を目指した学問であることを踏まえ、いくつかの具体的な問題に対し、既存の理論はどのような意義と限界を有するのかについても、併せて検討していく。	

人文社会・情報系 教養科目 共通・教養科目	人間社会と環境問題	人間は、環境を利用・改変しながら自らの生活を発展させてきた。しかしながら、環境の回復機能を超える過度な利用・改変によって、様々な環境問題が生じている。環境問題は様々なレベルで生じており、その要因は複雑に絡み合っている。そこで、本講義では、これまでに人間社会が直面した環境問題の構造を理解したうえで、現在の人間社会が直面する環境問題（気候変動、資源・廃棄物問題）への取り組みに当たっての基本原則を学ぶとともに、具体的な対策技術や方法等を系統的に学ぶ。	
	地域と環境	人間は地表の生物として自然に適応し、自然環境を利用しながら発展してきた。人間は自然環境のシステムの中で人間環境システムを形成し、時には自然環境の制約を受け、時には自然環境を改変しながら、居住空間の拡大、資源の開発、生産の増大といった活動を続けてきた。一方で、行き過ぎた自然環境の利用・改変は、様々な環境問題をもたらしている。本講義では、自然環境と地域社会との関わりについて、世界や日本の事例を踏まえつつ、考えていきたい。	
	福祉と技術	“福祉”とは「幸い、しあわせ」のことであり、一人一人のしあわせを追求するために、考え方、仕組み、法律、施策、教育、技術など多くの面からの取り組みがなされている。授業ではその中の「技術」を中心に、障害のある人や高齢の人のための福祉の技術（支援技術）や関連する仕組みがどのような状態にあるか、どうあるべきかをいろいろな事例などから探る。またこれらを踏まえて、すべての技術者の持つべき福祉への共感マインドについて考える。 (35 中村広幸／8回) 全体総括・福祉概論・支援技術・法制度・規格・国際的な状況 (159 吉本浩二／4回) 聴覚・聴覚に関する支援技術・当事者を交えてのディスカッション (160 河野純大／3回) 視覚・視覚に関する支援技術・疑似体験 (161 任龍在／4回) 肢体障害・肢体障害に関する支援技術・疑似体験・当事者を交えてのディスカッション	オムニバス
	アジア文化論	本講義では、アジアの社会・文化・歴史に関する基礎的な知識を習得させ、見識を深めるとともに、アジア世界の一員としての認識・自覚をもたせることを目的とする。授業では、具体的なアジアとのかかわりについて、まず戦後の政府開発援助を取り上げ、それがどのような意義をもってきたのか、を学ぶ。また、欧米社会とは異なるアジアの特性を、地理、農業の営み、水資源利用、アジアの環境問題を通して考える。最後に、技術がアジアでもつ可能性について考える。	
	ジェンダー論	家族に関する基礎的な理解と現代の家族をめぐる諸現象を概観し、ジェンダーの視点から、家族と社会のつながりを理解する。個人的領域と考えていた家族の問題を社会的な視点からみることができるようになるとともに、グローバルな視点から家族を考えることができるようになることを目指す。また、これまで自分の中に形成されてきたジェンダー観を再考する。	

人文社会・情報系教養科目 共通・教養科目	哲学	「技術者の倫理」「生命倫理」「科学技術倫理学」など、応用倫理学系科目の授業では、学習内容の土台にある哲学的な意味は扱われていない。そこで、この科目では、実際に哲学者の書いた文章を読みながら、哲学的思考のエッセンスを学習する。哲学の基本的な考え方を学ぶことにより、応用倫理学系科目で学んだ内容に含まれている深い哲学的意味を知ることによって、一層それらの科目の理解が深まるに違いない。	
	倫理学	「技術者の倫理」「生命倫理」「科学技術倫理学」など、応用倫理学系科目の授業の中では、時間的にも内容的にもその根底にある倫理的な考え方は扱われていない。この科目では、倫理的思考のエッセンスを学習する。倫理学の基本的学説を理解することにより、応用倫理学系科目で学んだ内容に含まれる深い意味が理解できるようになるに違いない。	
	技術者の倫理	今日、科学技術は、人間が生きていくのに必要不可欠なものである。人間生活は、科学技術のもたらす利益と危害に支配されている、と言っても過言ではない。したがって、科学技術に携わる技術者の責任はきわめて重い。技術者の倫理とは、単に技術者自身が社会で失敗しないための心得ではない。技術を用いることにより豊かな社会を創造して人類の幸福に貢献する一方で、公衆や環境への危害を最小限に食い止めるために、専門家としての技術者に何をすることができるのかについて理性的に考えることこそが、技術者倫理の本当の目的である。	
	科学技術倫理学	「技術者の倫理」の授業では、技術者が職務を遂行する過程で直面する様々な倫理問題について学習するが、本授業では、技術そのものがかかえるより根本的な問題について検討する。科学技術と人間それぞれの本質を哲学的に掘り下げて理解することにより、今日科学技術が人間社会や自然にもたらす倫理問題の根本的原因とその解決の方向性について考察する。	
	生命倫理	科学技術の飛躍的な進歩に伴い、今日では、医学や生物学の分野において、様々な形で生命への人為的介入が可能となってきた。しかし同時に、技術的に可能であるからといって、それをそのまま実行することが、果たして人間に許されるのだろうか？ 私達は、人間の本来のあり方についてももう一度反省し、人間の行為の善悪について、理に合った仕方でも問いただすことが求められている。そのためには、自己の一面的な価値観を自覚し、世の中の多様な価値観を理解することから始めなければならない。	
	現代史	20世紀半ば以降の歴史を学ぶことは、我々の生きるこの時代を理解することにつながる。しかしながら、そうした現代の歴史は、高校までで十分に扱われているとはいえない。この講義は、20世紀半ばから今日に至るまでの日本社会とそれを巻き巻く国際関係の変化を学び、今日の日本が抱える様々な問題の歴史的位置づけについて考える。	
	芸術学	美しいものに感動する気持ち、またその感動を表現したいと思う気持ちはおそらく誰にでも経験があるのではないかと。しかし、芸術学は、制作に直接関わるものではなく、美の経験や芸術の理念を客観的・論理的に考察する学問である。ましてや感覚だけで語られうるものでもない。ここでは美的体験と芸術作品との関連性を取りあげ、芸術学の基本的問題に対する理解を深めることを目指す。とくに、芸術作品がその時々の政治・社会と密接に結びついていること、人々の様々な意識を反映していることを考えてもらいたい。	

人文社会・情報系教養科目 共通・教養科目	文化人類学	私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバル化が進む現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。	
	比較文化論	国際化が進む社会において、私たちは多様な文化的背景を持つ人々と共存・協働していく必要がある。しかし、その一方で自文化の独自性を世界にアピールする必要もある。本講義では、はじめに「異文化・他者をまなざす」という行為そのものを検証した上で、〈宗教・自然・テクノロジー〉をキーワードにして〈日本及び東アジア文化圏〉と〈西洋（キリスト教）文化圏〉の比較を行い、自分たちの文化の独自性と魅力を考えてい。写真、映画、動画などを利用した実感的な講義を行う。	
	文学論	日本の近代都市、特に1930年代の都市を舞台にした文学テクニクを用いて、建築物・施設や交通機関、街頭などの物理的な空間のなかで、具体的にひとがどのようにふるまい、生きていたのか、文学作品から読み解いていく。都市は、巨大化するとともに、多様なメディアが重層するなかで、いっそうその全容がわかりにくくなっていく。そもそも私たちが、巨大な都市の全貌など認識することなどできるのだろうか。都市とは何なのかを、「街頭」で繰り広げられる人間模様が多様化し、消費中心の大都会の生活が具体化しはじめた1930年代の近代都市の生活を描写した文学作品を通して多面的に検討したい。	
	日本国憲法	日本国憲法を概観し、立憲主義、基本原理ならびに統治機構および基本的人権の保障について講義する。憲法は、国民の人権を保障するために、統治機構という民主政治の仕組みを定めている。このような憲法の意義、国家と国民との関係および現代社会における憲法に関する諸問題について、学生が自らの法的に思考することができるよう授業を展開し、(将来的な)政治参画の意思を育成する。難解と捉えられがちな日本国憲法に関する内容を、身近な例や時事問題を通して、具体的に理解してもらえよう工夫する。	
	知的財産法	知的財産法は、知的(技術的または文化的)創作活動とその成果を保護する法分野である。科学技術の進展、産業の発展および取引態様の変化に伴い、その重要性は近年ますます高まっている。本授業は、大学、企業および社会において知的創作活動に携わる学生が、知的財産法の全体像を学ぶことを目的とする。具体的には、法律で保障される権利、実際に問題となった重要な判例およびそれに伴う法改正等について理解を促し、学生が自ら考えることによって、得た知識を活用してもらおう。授業では、特許法および著作権法を中心として扱う。	
	法学入門	我々の毎日の生活は、意識するにせよ、しないにせよ、法律をはじめとする社会の規範によって、その秩序が保たれている。社会において活動していく上では、これらの法規範(ルール)を認識しておくことが必要となる。授業では、日常生活に関わりの深い法律、および時事問題において機能している法律等を扱う。社会で発生する諸問題について、学生が自らの法的に思考する力を養成する。フィールドワークとして、裁判の傍聴等を行う予定である。	

人文社会・情報系教養科目 共通・教養科目	民法	民法は、市民社会の法規範（ルール）であり、私的な（人と人との）生活関係を対象とする私法として、売買をはじめとする契約、不法行為、損害賠償および家族等について規定する。わが国の民法は100年以上の歴史をもつが、社会の変化に伴い、財産法においても家族法においても改正が相次いでいる。この授業は、民法の意義、基本原理、内容および適用等について、具体的な事例を通して考えることを目的としており、「法学入門」から「知的財産法」への橋渡しの位置付けになる。	
	現代日本の地方自治	本授業では、地方自治制度の基本的なしくみを学ぶとともに、自治体が直面する政策課題を取り上げて、その解決策を考える。また、地方分権改革、市町村合併、地方創生など、最近の政策動向を解説する。現代日本の地方自治は、制度、政策の形式だけでなく、その社会的実態を知らなければ本当の理解は得られない。本講義では、理念と現実の両方の視点、さらに、システムとファンクションの両方の視点から地方自治を解説することによって「良き市民たるにふさわしい社会常識」を養うことを目的とする。	
	経済学入門	本授業は、昨今の経済社会において一般常識として知っておくべきテーマを紹介し、受講生にそれらのテーマについての自分なりの問題意識や意見をもってもらうことを目標としている。「経済を勉強すれば世の中の仕組みがわかる」ある有名な経済学者はこのように言っている。この授業を通じ、受講生が少しでも世の中の仕組みを発見し、その仕組みに対する受講生なりの問題意識を抱いてもらえたら、と思う。なお、授業は講義形式をとるが、出席者の積極的な発言も求めていくので、授業に主体的に参加する姿勢が求められる。	
	ミクロ経済学	ミクロ経済学とは、経済学的考え方や経済学的手法の基礎を学ぶ学問である。そして、マクロ経済学を学ぶうえで必須となる考え方と手法を提供する学問でもある。本授業では、消費者行動における効用最大化問題、生産者行動における利潤最大化問題など、数学的手法を用いた部分均衡論から始まり、一般均衡理論、不完全競争や外部性による市場の失敗など、ミクロ経済学の基本を最初に解説する。なお、授業は講義形式をとるが、出席者の積極的な発言も求めていく。	
	マクロ経済学	マクロ経済学とは一国経済全体の動きを対象とする学問である。例えば、なぜ失業が生じるのかといった疑問を解決するためには、それらの疑問を分析するためのツールであるマクロ経済学の知識が不可欠である。本授業では、現在マクロ経済学の基礎を作ったケインズ経済学から始まり、マネタリズムや合理的期待派といった新古典派マクロ経済学までを取り上げ、応用問題として経済成長論などのマクロ動学理論にも焦点を当てる。なお、授業は講義形式をとるが、出席者の積極的な発言も求めていく。	
	企業システム論	私たちの世界を動かしている経済活動の多くは「企業」によって担われている。「企業」が生み出す製品やサービスによって我々の生活は成り立っているといっても過言ではない。本講義では、社会を支える重要な存在である「企業」に関する健全な知識、認識を形成させるために、大学生活の中では見えにくい「企業」という組織とその活動を様々な視点からとりあげて概説することを目的とする。講義全体をとおして、将来の自分が「働く姿」をより明確にイメージできるようになること、そのためにも在学中に「学ぶこと」の大切さに気づくこと、を期待している。	

人文社会・情報系教養科目 共通・教養科目	社会学	21世紀を迎えた現代では、人やモノ、情報などが容易かつ高速に国境を越えることが可能になり、社会の大規模化、複雑化が進んでいる。また、海外移住や勤務を経験したりする人々が増加している。このことは、社会が流動性や移動性などに特徴づけられるものへと姿を変えつつあることを示しており、新たな課題と新たな可能性が共に次々と生まれ続けている。本授業では、このような21世紀初頭の社会の姿について、社会学の知見を踏まえながら考察する。またこれを通じて、私たちが現代社会をいかに生きてゆけばよいのか議論する。	
	地域社会学	地域社会学とは、様々なスケールの空間における人々の社会関係や日常生活を理解しようとする学問であり、社会学の基礎的な概念や理論を、現実の空間の中で具体的に捉えようとする学問である。本講義では、農村や都市といった地域社会学の主要分野だけでなく、身体や家庭空間、公共空間やセクシュアリティ、コミュニティ、ソーシャル・キャピタル、モビリティについての議論をふまえながら、重層的に「地域社会」を理解することを目的とする。講義の中では、ケーススタディとしての具体的な地域や状況を示しながら解説する。	
	文学表現法	本授業では文章の書き方を学び、自分自身の文章作品を創る。自覚的に文章を書いたり、また作品を創ったりすることで、得られるものは無限にある。まずは文字で表現する楽しさを知ってほしい。「書く」ということは、個人の知や考えを刻み、そして伝えることである。「どう書く」のかというのは方法論であり、また創意工夫そのものである。この授業では「何を」、「どう書くのか」ということを体系的・実践的に学び、考えていく。	
	プレゼンテーション入門	プレゼンテーションとは、自分の成し遂げた成果や主張などを、聴衆（受け手）に伝えて理解させることである。そのためには、伝えたい内容を整理して分かりやすく組み立てること、さらには相手の注意を喚起し興味を沸かせることが重要である。本授業は、そうしたプレゼンテーションの基本的なスキルである構成力や表現力を指導する。そして、学生が実演を行うことによって、自分の考えを適切に表現し、伝える能力を身につけることを目標としている。  (36 春日伸予/15回) 発表内容のまとめ方、構成の仕方、効果的なスライドの作り方、報告書の作成、等の指導 (177 鈴木節子/7回) 発声、発音、喋り方、姿勢、視線の配り方、等のスキルの指導	共同
	レポートライティング	ある程度の長さの文章を、論理的で説得力あるものに仕上げるためには、訓練が必要である。本授業では、文章表現の基礎を習得したのちに、実際にさまざまな内容の文章を作成していく。ひとまとまりの文章を繰り返し書き上げることで、よりよく「書く」ための技術、プロセスを身につける。同時に、読み手として「良い」文章を見分けることも重視したい。1、2年生はレポートや小論文を書く技術を早い内に身につける必要がある。また、3、4年生は卒論や就職活動に向け、さらに自身の文章表現力を磨いていくことが求められる。本授業はそれらの技術を実践を通して身につけ、大学での勉学を支える力を養う。	
	情報リテラシ	大学生活だけでなく就職後にも知的活動の道具として欠かすことのできないコンピュータの基本的な利用法について演習を行う。まず、パソコンの基本的な操作方法を学び、インターネットの利用法を修得する。次にワープロソフトを用いた文書・レポートの作成法、コンピュータを用いたプレゼンテーションの方法を演習する。さらに、表計算ソフトによる集計処理・統計処理とグラフの作成法および基本的なプログラミング能力を身につける。	

共通・教養科目 体育・健康科目 身体的コミュニケーションスキル科目	ウェルネス・スポーツ (テクニカル)	本授業では、簡易トレーニング、ウォーキング、軽スポーツ、ニュースポーツ等を実践し、各種目の基本技術を身につけるとともに、受講生各人とのコミュニケーションをはかることを目的とする。授業を通し、体を動かして汗をかくことの意義を考えていきたい。受講者の人数、希望、施設により、種目は臨機応変に複数選択され、約2～3週単位で種目を変える。テクニカルでは、個人技能の習得に重点を置いた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	ウェルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)	本授業では簡易トレーニング、ウォーキング、軽スポーツ、ニュースポーツ等を実践し、各種目の基本技術を身につけるとともに、受講生各人とのコミュニケーションをはかることを目的とする。授業を通してからだを動かして汗をかくことの意義を考えていきたい。受講者の人数、希望、施設により、種目は臨機応変に複数選択され、約2～3週単位で種目を変える。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点を置いた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	バasketボール (テクニカル)	バasketボールの特性を理解し、基礎技術および特有の動作やルールを学習しながら、運動面だけでなく、ゲームを通して社会性やリーダーシップを身に付け、社会に出てから役に立つ人間関係を学べるような授業体系を計画している。授業の前半では、主に基礎的なスキルの習得、後半においてはゲームを中心に戦術やチームプレーの重要性を理解しながら、新たなBasketボールの楽しさを体験してもらいたい。テクニカルでは、個人技能の習得に重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	バasketボール (スポーツコミュニケーション)	バasketボールの特性を理解し、基礎技術および特有の動作やルールを学習しながら、運動面だけでなく、ゲームを通して社会性やリーダーシップを身に付け、社会に出てから役に立つ人間関係を学べるような授業体系を計画している。授業の前半では、主に基礎的なスキルの習得、後半においてはゲームを中心に戦術やチームプレーの重要性を理解しながら、新たなBasketボールの楽しさを体験してもらいたい。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、戦術、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	軟式野球 (テクニカル)	健康スポーツ・レクリエーションとしての軟式野球を通して、基本技術や集団における協調性・リーダーシップについて学ぶと同時に、生涯スポーツとして理解を深める。テクニカルでは、個人技能の習得に重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	健康スポーツ・レクリエーションとしての軟式野球を通して、基本技術や集団における協調性・リーダーシップについて学ぶと同時に、生涯スポーツとして理解を深める。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	

共通・教養科目 体育・健康科目 身体的コミュニケーションスキル科目	卓球 (テクニカル)	一般的に軽スポーツ的な種目と考えられている卓球で、いかに心拍数を上げ、消費エネルギーを増大させるか？をテーマに実技を通して、スキルの向上と健康的な生活を学ぶことを目的に行う。テクニカルでは、個人技能の習得に重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	卓球 (スポーツコミュニケーション)	一般的に軽スポーツ的な種目と考えられている卓球で、いかに心拍数を上げ、消費エネルギーを増大させるか？をテーマに実技を通して、スキルの向上と健康的な生活を学ぶことを目的に行う。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	サッカー (スポーツコミュニケーション)	授業の前半においては基本的なスキル向上、後半では応用技術およびチームプレーを中心とした授業展開で行い、最終的には、サッカーゲーム（ルールやマナーを含む）が楽しくスムーズに行えるようになると同時に、チームとして協調性や社会性を養うようにしていく。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点を置いた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	テニス (テクニカル)	本授業では基本練習の反復からテニスゲーム（ダブルス）における攻め方、守り方など、中・上級技術の習得を目指すと共に健康の維持増進を図る。テクニカルでは、個人技能の習得に重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	テニス (スポーツコミュニケーション)	本授業は経験者を対象とし、基本練習の反復からテニスゲーム（ダブルス）における攻め方、守り方など）中・上級技術の習得を目指すと共に健康の維持増進を図る。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	フットサル (テクニカル)	フットサルはサッカーに比べて少人数でプレーできることから、若者を中心に人気が高いスポーツである。常にゴールを狙う意識を持つことができるため、スピーディーでエキサイティングなゲームを行うことができる。一方、戦略的な部分も多く、様々な作戦を練る必要が生じるスポーツでもある。したがって、本授業では単にゲームを楽しむだけでなく、チームとして戦術を駆使しながらゲームを展開することを主たる狙いとしている。テクニカルでは、個人技能・グループ戦術の獲得に重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	

共通・教養科目 体育・健康科目 身体的コミュニケーションスキル科目	フットサル (スポーツコミュニケーション)	フットサルはサッカーに比べて少人数でプレーできることから、若者を中心に人気が高いスポーツである。常にゴールを狙う意識を持つことができるため、スピーディーでエキサイティングなゲームを行うことができる。一方、戦略的な部分も多く、様々な作戦を練る必要が生じるスポーツでもある。したがって、本授業では単にゲームを楽しむだけでなく、チームとして戦術を駆使しながらゲームを展開することを主たる狙いとしている。コミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	ゴルフ (テクニカル)	この授業は、「ゴルフ (スポーツコミュニケーション)」(夏季集中授業)のために、基本的な技術を習得するために開講される。生涯スポーツとして最適な種目の一つとされ、コミュニケーションをとるための手段にも使われるゴルフ。老若男女問わずほぼ同じ条件で一緒プレーできるスポーツでもある。紳士のスポーツとされた時代もありエチケットが重要視され、TPOをわきまへ人間性を構築するためのソフトとなりえるスポーツでもある。マナーやルールを実技と理論を通して学びながら、健康の維持増進や精神の高揚を図る。運動負荷としては、最も軽い運動である。テクニカルでは、個人技能の習得に重点を置いた授業展開となる。	
	ゴルフ (スポーツコミュニケーション)	ゴルフSC (スポーツコミュニケーション) は、ゴルフT (テクニカル) を履修した学生に限り履修することができる。夏季休暇中に3泊4日の集中授業としてゴルフ場での合宿形式で実施され、社会人になってすぐにゴルフラウンドができるように、ラウンド技術を身につけることを目的とする。ゴルフは生涯スポーツ種目として最適な種目の一つである。老若男女ほぼ同条件で一緒にプレーできる。またスポーティングチャンスを与えるためハンディキャップがある。紳士のスポーツといわれるほどエチケットが厳しいスポーツでもあり、人間性の向上には最適なスポーツでもあり、社交を目的とされるスポーツでもある。運動負荷としては最も軽い種目の一つである。スポーツコミュニケーションでは、グループ練習を主に展開し、コミュニケーションに重点を置いた授業展開となる。	集中
	ゴルフアドバンス (スポーツコミュニケーション)	ゴルフはスポーツ種目の中でも、自分自身が審判として責任のある判断が必要であり、ルールはもちろん、マナー、エチケットが重視されることから、心身の健康の維持増進はもちろん、人間性や社会性の向上にも有用である。この授業では、将来、仲間同士で生涯スポーツとして継続的にゴルフに親しめるように、学生同士だけでも実践できる能力を養う。	集中
	フラッグフットボール (スポーツコミュニケーション)	アメリカンフットボールの簡易版としてのフラッグフットボールではタックルの代わりにフラッグを奪う競技である。オルガニゼーションスポーツともいわれる競技で、役割分担と組織的な活動が要求される。スポーツコミュニケーションにおいては、チームによる活動が割合が多く、戦略・戦術など各チームによるフォーメーション、プレーの考案と実践が求められる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	健康スポーツ・レクリエーションスポーツとしてのソフトボールを実践し、ソフトボールを通して、基本技術や集団における協調性・リーダーシップについて学ぶと同時に、生涯スポーツについても理解を深める。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	

共通・教養科目	体育・健康科目	身体的コミュニケーションスキル科目	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	バドミントンの動きの激しさ、楽しさを充分味わいバドミントンの魅力を体験する中で、マナーある態度でゲームに取り組み、いろいろな人達との交流を通して、基礎的なコミュニケーション能力を養う。また自分の体力を把握することで、健康・体力維持のため、今後の運動計画について考える場とする。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
			バレーボール (スポーツコミュニケーション)	バレーボールの特性を把握し、基本技能・動作やルールを学習する。その指導過程において、社会の育成、健全なる競技精神や授業における安全管理等についての習慣や態度の育成を図る。授業前半は基本的技能を中心にボールの操作法等を系統的に進め、後半からは連係技術を中心にしながらゲームへ結びつけていく。スポーツコミュニケーションでは、ゲーム戦略、チームコミュニケーションに重点をおいた授業展開となる。また、理想的な生活習慣の実践は、授業内に限らず履修期間中の生活習慣の管理記録をすることが要求される。	
			スキー (スポーツコミュニケーション)	スキーSC (スポーツコミュニケーション) は、3泊4日の後期集中授業としてスキー場で実施される。シーズンスポーツの1つであるスキーを通して、スキーの特性を理解し、生涯スポーツとしての技術の習得、安全性の確保についての対応と判断力の獲得をめざす。また、モラル習慣として授業態度についてはスポーツマンシップの実践を要求し、スポーツコミュニケーションでは評価基準で最も重要視される。	集中
			フィットネスA	生活様式の変化は身体活動量の減少をもたらし、結果肥満や生活習慣病発症の危険性を高めている。これらのリスクを低くするには身体活動量を増やし、運動習慣を学生時代からつけることが重要である。本授業では、身体活動量を増加させるための一手段として有酸素運動を行い、有酸素能力の向上と体脂肪燃焼方法を体得することを狙いとする。	
			フィットネスB	生活様式の変化に伴う日々の身体活動量の減少は肥満や生活習慣病発症の危険因子を高めている。骨格筋量の減少は肥満の有無に関わらず、脂質異常症や糖尿病に進展するリスクを高め、腰痛発症のリスクを高める。これらのリスクを回避するには、筋力トレーニングに取り組む習慣を学生時代から作ることが重要である。本授業では、自分の体重を利用したトレーニング、チューブなど用具を利用したトレーニング、マシントレーニングを利用した筋力トレーニングを行い、筋量の増加と筋力の向上を狙った授業を展開する。	
共通・教養科目	体育・健康科目	理論科目	身体運動のバイオメカニクス	スポーツ動作の良し悪し、特に悪い動作には必ず原因がある。その原因を探るためには、動作の見方・捉え方や分析すべき目の付け所を決めることが大切となる。また、パフォーマンスの向上ばかりではなく、日常生活におけるケガの予防の観点からも、動作を的確に捉えることは重要である。スポーツ動作に限らずヒトの動作を客観的に捉え、それをさまざまな場面に生かすための説明を行う。	
			スポーツ生理学	健康の維持増進のためには自分の体の中で何が起きているかを知ることは重要なことである。運動時におけるヒトの生理的適応反応やそのメカニズムを講義する。特に、生活習慣病に関わる、ライフスタイルを確立するために必須の知識となる。また、からだの構造・機能を知ることが工学に通じるところがある。	

共通・教養科目 体育・健康科目 理論科目	スポーツ健康学	人間が生活する上で必要不可欠である「健康」がスポーツとどのように関連しているかについて、様々な角度から考え、理解する事を目的とする。特に、スポーツを行う事による効果・効能について正しい知識を身につける。具体的には、現代社会と生活習慣病の関連、スポーツの実践が生体にどのような効果をもたらすかなどを扱う。	
	ヘルスリテラシー & スポーツコミュニケーション	本授業は、体育・健康科目の理論、実技の基礎的な授業である。社会人生活において健康管理に最低限知っておいて欲しい知識と行動についてを取り上げる。理論では、コンディショニング管理に必要な知識。実技では、1年次の早い段階からネットワークキングができるよう、コミュニケーションが必要なスポーツを中心に行う。また、スポーツマンシップの実践を習慣づけ、良好な人間関係を築けるようにする。	
	ヘルスコンディショニング演習	この授業ではコンディショニングに関する生理学的な原理・原則を理解し、様々な運動を実践する中で、健康を維持・増進するために自分に適した運動を模索する。理論を応用し、自己に適した運動プログラムの立案・作成し、最終的には自身の体力・生理学的データを参考に、自身が健康になるためのトレーニングを計画・立案できるようにする。	
	エクササイズ演習（基礎）	本授業は測定とトレーニングを行う演習形式で行われる。一般グループと競技サークルの2つのグループに分かれ行う。一般グループは、生活習慣における測定項目と測定法を考案し、数値化することで生活習慣の評価、改善を行っていく。競技サークルグループは、各競技特性を明確にし、競技力向上につながる項目を明確にし、フィールドテストの考案をし、トレーニング効果の評価、改善を行っていく。自身のオリジナルプログラムを作成する。	
	エクササイズ演習（応用）	現状を把握するためには、測定が必要であり、その測定値が何を意味するものなのか、統計的な手法を用い考察する。自分にとっての理想体重、筋肉量などをデザインし、理想に近づける方法を明確にし、企画実践する。形態、身体組成、基礎運動能力など、測定時の注意点とトレーニング効果による変化を体験する。授業の進め方としては測定とトレーニングを繰り返し身体の反応を考察する演習形式で行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人芝浦工業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
芝浦工業大学				芝浦工業大学				
工学部				工学部				
機械工学科	100	—	400	機械工学科	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更(15)
機械機能工学科	100	—	400	機械機能工学科	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更(15)
材料工学科	90	—	360	材料工学科	<u>105</u>	—	<u>420</u>	定員変更(15)
応用化学科	90	—	360	応用化学科	<u>105</u>	—	<u>420</u>	定員変更(15)
電気工学科	90	—	360	電気工学科	<u>105</u>	—	<u>420</u>	定員変更(15)
通信工学科	90	—	360	通信工学科	<u>105</u>	—	<u>420</u>	定員変更(15)
電子工学科	90	—	360	電子工学科	<u>105</u>	—	<u>420</u>	定員変更(15)
土木工学科	90	—	360	土木工学科	<u>105</u>	—	<u>420</u>	定員変更(15)
建築学科	100	—	400		<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成29年4月学生募集停止
建築工学科	100	—	400		<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成29年4月学生募集停止
情報工学科	100	—	400	情報工学科	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更(15)
システム理工学部				システム理工学部				
電子情報システム学科	100	—	400	電子情報システム学科	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更(15)
機械制御システム学科	80	—	320	機械制御システム学科	<u>90</u>	—	<u>360</u>	定員変更(10)
環境システム学科	80	—	320	環境システム学科	<u>90</u>	—	<u>360</u>	定員変更(10)
生命科学科	100	—	400	生命科学科	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更(15)
数理科学科	70	—	280	数理科学科	<u>75</u>	—	<u>300</u>	定員変更(5)
デザイン工学部				デザイン工学部				
デザイン工学科	140	—	560	デザイン工学科	<u>160</u>	—	<u>640</u>	定員変更(20)
				建築学部				学部の設置(届出)
				建築学科	<u>240</u>	—	<u>960</u>	
計				計	<u>1860</u>	—	<u>7440</u>	
芝浦工業大学大学院				芝浦工業大学大学院				
理工学研究科				理工学研究科				
[修士課程]				[修士課程]				
電気電子情報工学専攻	100	—	200	電気電子情報工学専攻	100	—	200	
材料工学専攻	30	—	60	材料工学専攻	30	—	60	
応用化学専攻	20	—	40	応用化学専攻	20	—	40	
機械工学専攻	65	—	130	機械工学専攻	65	—	130	
建設工学専攻	90	—	180	建設工学専攻	90	—	180	
システム理工学専攻	50	—	100	システム理工学専攻	50	—	100	
				国際理工学専攻	<u>10</u>	—	<u>20</u>	専攻の設置(届出)
[博士(後期)課程]				[博士(後期)課程]				
地域環境システム専攻	10	—	30	地域環境システム専攻	10	—	30	
機能制御システム専攻	8	—	24	機能制御システム専攻	8	—	24	
計				計	<u>383</u>	—	<u>784</u>	
芝浦工業大学専門職大学院				芝浦工業大学専門職大学院				
工学マネジメント研究科				工学マネジメント研究科				
[専門職学位課程]				[専門職学位課程]				
工学マネジメント専攻	28	—	56	工学マネジメント専攻	28	—	56	
計				計	28	—	56	

## (1) 都道府県内における位置関係の図面



## 豊洲校地

東京都江東区豊洲三丁目 7 番 5 号

東京メトロ豊洲駅

徒歩 7 分

校地面積 29,150.30 m<sup>2</sup>

校舎面積 61,554.82 m<sup>2</sup>

建築学部建築学科 1 年次～4 年次

豊洲キャンパス一貫教育



電車利用 60 分

芝浦工業大学シャトルバス利用 90 分

40 k m



## 大宮校地

埼玉県さいたま市見沼区深作 307 番

JR 宇都宮線東大宮駅

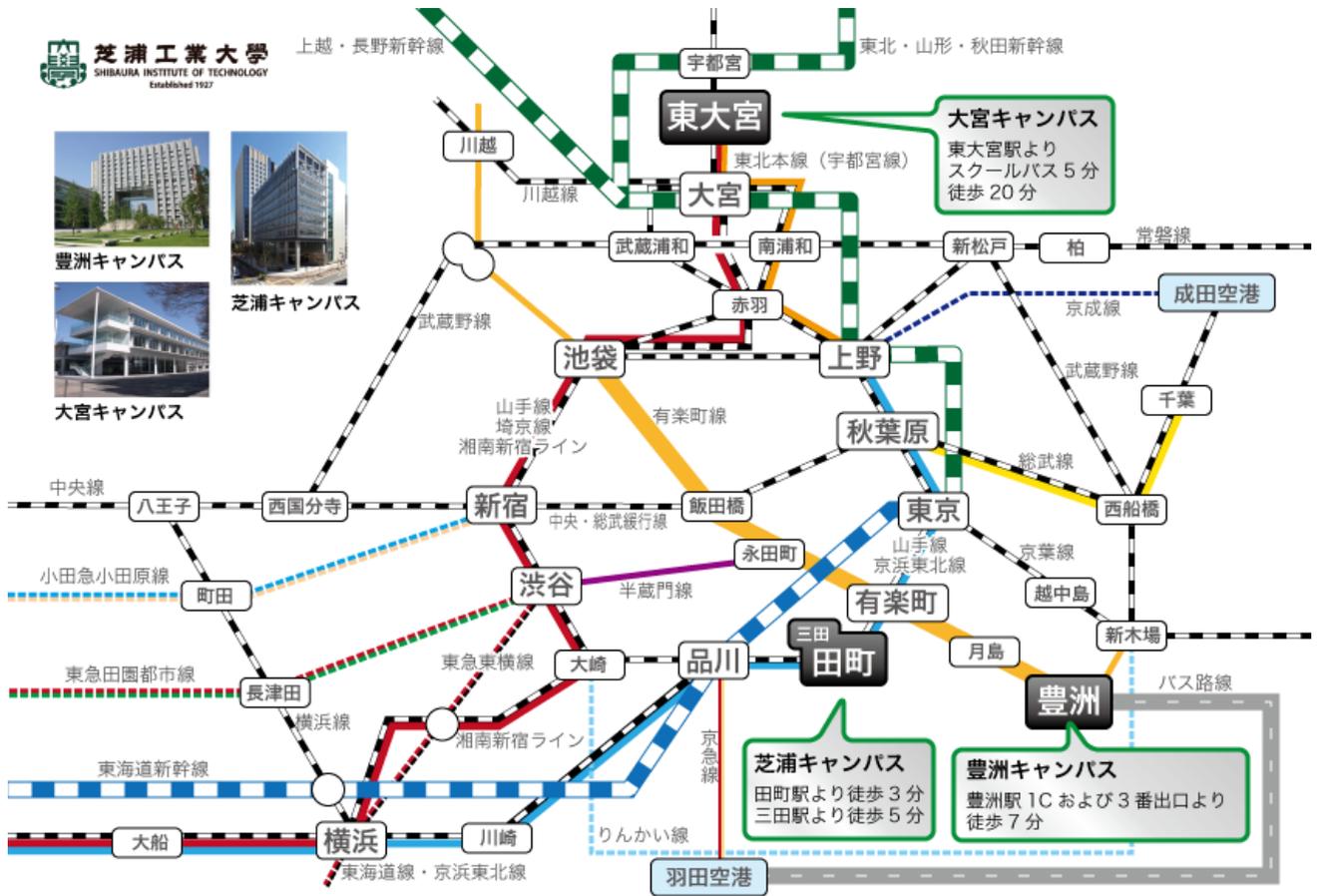
スクールバス 5 分

校地面積 160,189.97 m<sup>2</sup>

校舎面積 48,196.25 m<sup>2</sup>

※1 年次と 2 年次の毎週金曜日を「大宮 DAY」として、  
体育・健康科目を中心に、共通・教養科目の一部を  
受講可能としている。

# 交通案内



## (2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



## 豊洲キャンパス

- ・東京メトロ有楽町線「豊洲駅」1cまたは3番出口から徒歩7分、0.7Km
- ・ゆりかもめ「豊洲駅」から徒歩9分、0.8Km
- ・JR京葉線「越中島駅」2番出口から徒歩15分 1.1Km



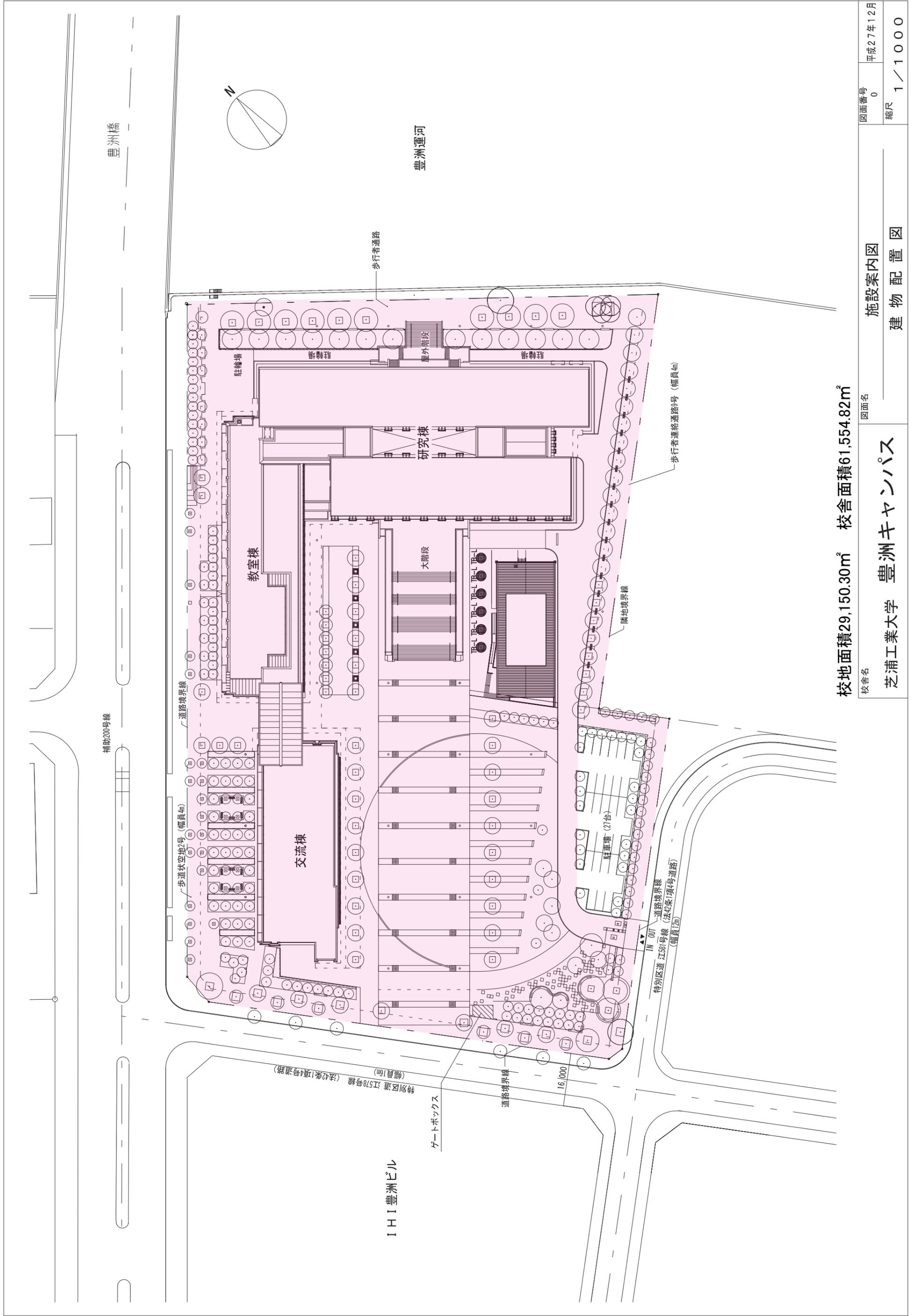
# 大宮キャンパス

・JR 宇都宮線「東大宮駅」からスクールバス 5 分、または徒歩 20 分、1.5Km



### (3) 校舎，運動場等の配置図





I H I 豊洲ビル

豊洲運河

豊洲橋

補助200号線

校地面積29,150.30㎡ 校舎面積61,554.82㎡

校舎名	豊洲キャンパス	図面名	施設案内図	図面番号	0	平成27年12月
			建物配置図	縮尺	1/1000	



**芝浦工業大学 建築学部 建築学科**  
**設置の趣旨等を記載した書類**

**目 次**

1. 設置の趣旨及び必要性	P. 3
(1) 設置の理由及び必要性について	
(2) 教育上の目的	
(3) 研究対象とする学問分野	
(4) 教育研究上の数量的・具体的な到達目標	
2. 学部・学科等の特色	P. 5
(1) 建築学部の特色	
(2) 教育内容の特色	
3. 学部・学科の名称及び学位の名称	P. 8
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	P. 8
(1) 科目区分の設定及び理由	
(2) 各科目区分の科目構成及び理由	
(3) 建築学部の趣旨等を実現するための科目の対応関係	
(4) 必修科目・選択科目・自由科目の構成及び理由	
(5) 履修順序（配当年次）の考え方	
(6) 教養教育の実施方針、教育課程編成上の具体的工夫について	
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	P. 14
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 14
(1) 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定について	
(2) 履修指導の方法	
(3) 卒業要件	
(4) 履修モデル	
7. 施設、設備等の整備計画	P. 21
(1) 校地、運動場の整備計画	
(2) 校舎等施設の整備計画	
(3) 図書館等の資料及び図書館の整備計画について	
8. 入学者選抜の概要	P. 25
(1) アドミッションポリシーについて	
(2) 選抜方法	
(3) 選抜体制	
(4) 正規学生以外の受け入れについて	
9. 取得可能な資格	P. 29

1 0. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	……P. 30
1 1. 管理運営	……P. 32
(1) 教学面における管理運営体制について	
(2) 教授会以外に関連する委員会の役割	
1 2. 自己点検・評価	……P. 33
(1) 実施方法・実施体制	
(2) 結果の活用・公表	
(3) 第三者評価	
1 3. 情報の公表	……P. 35
1 4. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	……P. 36
(1) 全学的な教育改革・改善活動	
(2) 教員の評価	
(3) 教職学共同による教育改革	
1 5. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	……P. 38
(1) 教育課程内の取組について	
(2) 教育課程外の取組について	
(3) 適切な体制の整備について	

## 資料目次

- 【資料 1】 建築学部カリキュラムマップ
- 【資料 2】 建築学部学習・教育到達目標
- 【資料 3】 建築学部履修モデル（意匠設計）
- 【資料 4】 建築学部履修モデル（構造設計・施工管理）
- 【資料 5】 建築学部履修モデル（行政・まちづくりプランナー）
- 【資料 6】 建築学部履修モデル（環境・設備設計）
- 【資料 7】 建築学部履修モデル（大学院進学・プロジェクトをベースとした  
起業・組織の設立）
- 【資料 8】 建築学部時間割
- 【資料 9】 2015 年度インターンシップ受け入れ企業・機関一覧
- 【資料 1 0】 建築実習覚え書き（イタリア）
- 【資料 1 1】 建築実習覚え書き（フランス）
- 【資料 1 2】 建築実習覚え書き（ロシア）
- 【資料 1 3】 建築実習覚え書き（韓国）

## 1. 設置の趣旨及び必要性

芝浦工業大学（以下「本学」という。）の歴史は、創立者有元史郎が1927年に開設した東京高等工商学校に端を発する。以来、「現代社会の諸相に学び、人類の福祉、社会に貢献する技術者の育成」を旨とする本学の実学教育の元、3学部17学科を擁する理工系大学として発展を遂げてきた。これまで、本学の卒業生は「堅実に仕事ができる仕事に強い技術者」として、我が国の技術・工業の発展に大きく貢献してきた。今後、様々な分野でグローバル化、技術の高度化・複雑化が進展する現代において、これまで以上に社会から求められる大学として存在し続けるため、創立100周年を迎える2027年に名実ともに“理工系私学のトップ”になる目標を掲げ、その実現のための大学戦略の一環として、本学第4番目の学部として「建築学部（建築学科）」を設置する。

### （1）設置の理由及び必要性について

芝浦工業大学は今日に至るまで、「社会に学び社会に貢献する実践的技術者の育成」を建学の精神に掲げ、実用的な知識と技術を持ちながら、高い倫理観と豊かな見識を備える優れた技術者の育成に取り組んできた。建築学分野においても同様に、開学以来、約90年に渡って、人間や社会にとってより良い生活環境を作り出すための発想や技術、人間の生活に深く関係する建築物やその環境に携わる技術者としての倫理観を備えた人材を輩出してきたと自負している。

一方、21世紀の現在、我々は地球温暖化などの世界規模の深刻な環境問題に直面している。日本においては、少子化・高齢化にともなう人口減少により、家族構成の変化や一人暮らし世帯の増加など、人々の生活スタイルが変化・多様化している。また、東日本大震災における地震や津波などの被害は甚大であり、かつてないほど人々の安心・安全への意識が高まっている。このことから本学は、建築が生み出す人々の生活空間に対する価値観が急速に変化・多様化しており、中長期的に建築に対するニーズが大きく変化・複雑化するであろうと予想している。

そこで、新たに設置する「建築学部（建築学科）」では、開学以来重視してきた実践的な建築技術者教育の伝統を継承しつつ、「工学」、「建築デザイン」そして「幅広い教養」の横断的融合による新たな教育を実践する。そして、広い視野で建築をデザインできる技術と次世代の様々な建築ジャンルにおいて世界で活躍できる素養を持った「建築をベースにした特色ある人材」を育成し、未来の生活空間において避けることのできない建築的課題を解決することを目的とする。

新たに開設する「建築学部（建築学科）」では東京都江東区に位置する豊洲キャンパスにおける4年間一貫教育を計画しているが、その立地の観点からも豊洲キャンパスは建築学を学ぶために魅力的かつ妥当なものであるといえる。

江東区豊洲地区は商業地、住宅地への開発が今なお進む街であり、タワーマンション群、大型商業施設、そして行政施設を含む街づくり全体を間近で感じることができる。また、2020年に開催が予定されている東京オリンピックに向けて、さらなる発展が期待される。他方、豊洲地区に隣接する門前仲町・清澄白河エリア、木場エリア、中央区月島エリアには、古い長屋・路地、古民家、神社・寺院などの伝統的建築物を擁する街並みが広がっている。このように、豊洲地区周辺は歴史と先進性が共存し、これからの人々の暮らしの可能性を示す場所となっており、学生は其中で様々な建築的テーマを発見し、学習を深めることが期待される。

## **（２）教育上の目的**

「建築学部（建築学科）」の教育上の目的は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築や都市空間を創造できる建築をベースにした特色ある人材を育てる。これを実現するため、学生に対して具体的に以下の5つの能力を習得させる。

- ①歴史的発展を踏まえて建築を捉え、さまざまな特徴を理解し、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題点を理解できる
- ②人々の生命や財産に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための倫理観を身につけている
- ③自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている
- ④高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚を身につけている
- ⑤豊富な教養と幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる

## **（３）研究対象とする学問分野**

「建築学部（建築学科）」が研究対象とする中心的な学問分野は、「建築デザイン」、「建築計画」、「都市デザイン」、「都市計画」、「建築史」、「建築環境設備」、「建築構造」、「建築材料」、「建築生産」であり、「建築学部（建築学科）」に所属予定の31名の専任教員が中心となって、それぞれの専門分野の教育・研究を行

う。これらの分野は建築学を教育・研究する上で中核となる分野であると同時に、それぞれが密接に関連しあっている。そのため、分野を超えた学際的研究も視野に入れている。

#### (4) 教育研究上の数量的・具体的な到達目標

##### ①一級建築士受験資格を満たす科目の習得

受験資格取得に必要な科目を明示し、学生に履修指導を行う。これにより卒業生全員が実務経験を経ることで、受験資格を得られるようにする。

##### ②大学院進学率の増加

建設系学科のこれまでの大学院進学率は20%～25%であったが、大学院進学を推奨するコースを設けるなどして、50%を目指す。

##### ③就職率100%

大学院進学、留学、起業等を除き、就職希望者の就職率100%を目指す。

##### ④海外留学経験者数50%

現在全学を挙げて推進している大学のグローバル化を目指し、卒業までの4年間に海外留学及び留学による単位取得を経験した学部学生比率を、完成年度を迎える2020年までに50%とすることを旨とする。

## 2. 学部・学科等の特色

### (1) 「建築学部（建築学科）」の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえれば、「建築学部（建築学科）」は同答申にある大学の主要な7つの機能のうち、特に「②高度専門職業人養成」、「③幅広い職業人養成」、「⑦社会貢献養成」の3つの機能を重点的に担うものである。

「②高度専門職業人育成」について、本学建築系学科のこれまでの伝統を継承しつつも、より高度な実践的建築技術者、建築設計者の育成を目指す。このため、学部として大学院進学を推奨している。

「③幅広い職業人養成」について、本学建築系学科の卒業生の進路は建設会社、設計事務所にとどまらず、鉄道、住宅メーカー、設備メーカー、公務員など多岐に渡る。新たに設置する「建築学部（建築学科）」においては、建築の専門家の証である一級建築士受験資格を満たす科目に加え、豊富な専門科目と幅広い教養科目を配置したカリキュラムを実現する。これにより、建築をベースとしつつも学生一人一人の学びの方向性に合わせたきめ細かい教育を行い、幅広い分野

で活躍できる特色のある人材の育成を目指す。

「⑦社会貢献機能」について、「社会に学び社会に貢献する実践的技術者の育成」という本学の建学の精神が示す通り、「建築学部（建築学科）」においても学生が建築技術を体系的に習得し、それを実践することを通じて人々が生活する住環境向上に貢献することを目指す。例えば、建築設計及び建築技術を体系的に習得する、PBL（プロジェクトベースドラーニング）型授業において学生に提供されるプロジェクトは、国外を含めた災害復興、空き家活用、リノベーション、高齢者対応住宅などを予定しており、これまでの伝統的な建築学の教育では扱われてこなかった、社会的な貢献度が高いものである。

## （２）教育内容の特色

「建築学部（建築学科）」は、これまで重視してきた実践的な建築技術者教育の伝統を継承しつつ、「工学」、「建築デザイン」そして「幅広い教養」の横断的融合による新たな教育を実践するため、以下の特色をもつ。

教育内容の特色を示した「建築学部（建築学科）」カリキュラムマップについては、【資料 1】を参照されたい。

### ① 3 コース制の特色ある教育

「建築学部（建築学科）」では、よりきめ細かい少人数制教育を実施するために、3つの特徴あるコースを設けている。

ア 人々が直接手に触れるものや体験する空間、住宅・オフィスといった建築スケールを主な対象とする「空間・建築デザインコース」

（英語名：Space and Architectural Design Course 略称【SA】）

イ 単体の建築物から都市空間までの建築スケールを主な対象とする「都市・建築デザインコース」

（英語名：Urban and Architectural Design Course 略称【UA】）

ウ 建築学の知識・技術をベースに、実社会の身近な諸問題の解決から環境問題や国際問題への貢献を対象とする「先進的プロジェクトデザインコース」（英語名：Advanced Project Design Course 略称【AP】）

以上の3つのコースによる教育を展開する。これらのコースは建築学科を構成する柱として緩やかに連帯しながらも、それぞれの独自性を持っている。すなわち、専門基礎課程における基礎的な建築教育は学科共通で行われるが、設計演習系科目の内容の違いやコース独自の専門科目の配置により、各コースの特徴に沿ったカリキュラムとなるよう工夫している。

## ② 専門基礎課程と専門応用課程による教育

専門教育を段階的に実施するため、1年次～3年次前期を専門基礎課程、3年次後期～4年次後期を専門応用課程と位置づける。専門基礎課程では、一級建築士受験資格取得を念頭に、建築学の基礎となる「建築デザイン基礎」、「構造力学」、「建築環境工学」、「材料力学」などをすべてのコースで共通して履修できるようにしている。また、これらの基礎的な科目をベースとして、各コースの専門性を反映したコース独自の専門科目も配置している。専門応用課程ではより専門性の高い科目の履修が可能となるとともに、「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」など卒業論文や卒業制作に向けた科目の履修が可能となる。なお、「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」は、3つのコースの所属に関係なく、約30の研究室から自由に選択することを可能としている。

## ③ 工学・建築デザイン・教養教育の融合

数学や力学などの自然科学の基礎知識を身につけるための科目に加え、専門科目の分野やレベルにあった教養科目を段階的に履修できるようカリキュラムを工夫する。学生はそれぞれの科目の有機的な組み合わせによる相乗効果を楽しみ、学習効果を高めることができる。

## ④ グローバル理工学人材の育成

全学を挙げて推進している大学のグローバル化を目指し、海外建築研修、各種海外建築実習、国際プロジェクトなどを豊富に配置しており、これからの建築技術者に必須のスキルとなるグローバルコミュニケーション能力や異文化に対する想像力・洞察力を身につけることができる。

## ⑤ 都心一貫教育

「建築学部（建築学科）」は豊洲キャンパスでの4年間一貫教育（大学院まで含めると6年一貫教育）を実施する。「1. 設置の趣旨及び必要性について」で触れたように、豊洲キャンパスは開発が進む新しい街と伝統的建築物が立ち並ぶ歴史的な街の結節点に位置しており、キャンパスの周りには魅力的な建築テーマが数多く潜んでいる。学生は低学年次から豊洲というフィールドを利用し、将来の研究テーマを意識しながら学ぶことが可能となる。

また、教員の研究室はすべて豊洲キャンパスに設けるため、4年間を通して教員の指導を受けることが可能である。加えて、同じキャンパスで学ぶ高学年

次の学生や大学院生とのアカデミックな交流を促すこともでき、学習効果を高めることができる。

### 3. 学部・学科の名称及び学位の名称

#### ①学部の名称

学部の名称は、「建築学部 (School of Architecture)」とする。

#### ②学科の名称

学科の名称は、「建築学科 (Department of Architecture)」とする。

#### ③学位の名称

学位の名称は、「学士 (建築学) (Bachelor of Architecture)」とする。

「建築学部 (建築学科)」は、開学以来重視してきた実践的な建築技術者教育の伝統を継承し、広い視野で建築をデザインできる技術と次世代の様々な建築ジャンルにおいて世界で活躍できる素養を持った「建築をベースにした特色ある人材」の育成を目的としている。また、「建築学部 (建築学科)」の中心的な学問分野として、「建築デザイン」、「建築計画」、「都市デザイン」、「都市計画」、「建築史」、「建築環境設備」、「建築構造」、「建築材料」、「建築生産」分野の教育・研究を行うことから、学部・学科名称を「建築学部建築学科」とし、学位に付記する専攻分野の名称を「建築学」とする。

また、学部・学科の英語名称については、国際的な通用性を考慮し、「建築学部」 School of Architecture 「建築学科」 Department of Architecture とする。

### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

#### (1) 科目区分の設定及び理由

「建築学部 (建築学科)」の科目区分は「共通・教養科目群」と「専門科目群」の2つに大別される。「共通・教養科目群」は『数学科目』、『理科学目』、『英語科目』、『人文社会・情報系教養科目』、『体育・健康科目』によって構成される。

「共通・教養科目群」と「専門科目群」を設定する理由は、「建築学部 (建築学科)」の目指す「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の横断的な融合を実現するためである。すなわち、卒業要件として科目区分に一定の習得単位数を設定することで、履修科目が特定の分野に偏らないようにする。これにより、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学習を促し、各科目間の相乗効果を生むことをねらいとしている。

「共通・教養科目群」が自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語能力・コミュニケーション能力、人間の社会・文化に関する教養などを身につけるための科目群であるのに対し、「専門科目群」は、建築学そのものの専門性を高めるために習得すべき科目群である。科目群および科目群内の科目区分を構成する科目はそのレベルに応じて配当年次を定めており、学生は基礎から応用に至る科目を段階的に履修し習得できるよう工夫している。

## (2) 各科目区分の科目構成及び理由

### ① 共通・教養科目群

#### ア 数学科目：

「微分積分1」「微分積分2」「線形代数1」「線形代数2」を配置している。これらの科目は主に1年次から2年次までの低学年次での履修を想定し配置している。各科目は専門科目群の内容を理解し深めていくために必要な数学的思考能力を過不足なく身につけられる内容となっている。また、エンジニアリング系分野を専攻する学生に必須となる「確率と統計1」、「ベクトル解析」等も配置し、数学的素養を幅広く身につけることを可能としている。

#### イ 理科科目：

「物理学入門」「基礎力学」「基礎力学演習」を配置している。これらの科目は主に1年次から2年次までの低学年次での履修を想定しており、専門科目群の内容を理解し深めていくために必要な物理学の知識と思考方法を過不足なく身につけられる内容としている。

#### ウ 英語科目：

1年次に配置されている「Reading & Writing I」「Listening & Speaking I」では、英語における「読む・書く・聞く・話す」についての基本的運用能力の獲得を目指す。また、「English Communication」において、特に「聞く・話す」ことについてのスキル獲得を行う。

2年時以降はより実践的なスキルの獲得を目的とした「Presentation I」「Presentation II」そして、語学試験対策を通じて英語力向上を図る「TOEIC IA」「TOEIC IB」を配置している。

#### エ 人文社会・情報系教養科目：

人々の生活に深く関与する建築物を扱う者にとって、建築技術に加えて、社会・経済・文化・環境など建築の背後にある文脈を読み解くことができる

素養は極めて重要である。そのため、「建築学部（建築学科）」では、社会・経済・文化・環境といったキーワードをベースに、幅広い人文社会系教養科目を配置している。また、「プレゼンテーション入門」や「レポートライティング」など、インタラクティブな授業を通して社会人として必須となるスキルを高めるための科目も配置する。

また、学生に一定のコンピュータ運用能力とプログラミング能力を身につけさせ、専門科目の橋渡しとなるよう、「情報リテラシ」を配置する。

オ 体育・健康科目：

学生の体力と健康の維持・向上と、自己管理能力の向上やスポーツを通じた社会性の向上を目的とし、「ウェルネス・スポーツ」「ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション」各種競技科目を配置する。また、スポーツの実践だけでなく、「身体運動のバイオメカニクス」「スポーツ生理学」「スポーツ健康学」などの理論科目も配置する。

## ②専門科目群

ア 設計・演習分野：

「建築デザイン基礎1・2」「空間建築デザイン演習1～4」「都市建築デザイン演習1～4」「建築スタジオ演習1～4」「国内プロジェクト」、国名を冠した「建築実習A・B」など

イ 設計・計画分野：

「建築の形態と空間」「建築設計計画論」「建築計画1・2」「建築設計論」「都市建築論」「ランドスケープ論」など

ウ 都市・地域分野：

「都市地域計画」「地域マネジメント」「都市住宅論」「都市デザイン論」「都市開発マネジメント」「都市防災計画」など

エ 建築史分野：

「居住空間史」「西洋建築史」「日本建築史」「建築文化史」「近代建築史」など

オ 構法・生産分野：

「建築ものづくり」「建築構法」「木造建築」「建築生産」「建築プロジェクトマネジメント」など

カ 環境・設備分野：

「建築環境工学1・2」「建築設備」「空調システム計画」「都市環境設備計画」「建築音響計画」など

キ 構造分野：

「力学の基礎」「構造力学・演習」「材料力学・演習」「建築構造計画」「建築構造解析・演習」「鉄筋コンクリート造の設計1・2」など

ク 材料分野：

「構造材料」「仕上げ材料」「維持保全・改修」

ケ 建築総合分野

「国際プロジェクト1・2」「建築英語」「プロジェクトゼミ」「卒業研究」など

また、上記のほかにも実験科目として「建築環境実験」「建築材料施工実験」「建築構造実験」「建築材料構造実験」を配置している。

### (3) 学部の趣旨等を実現するための科目の対応関係

「建築学部（建築学科）」の趣旨と養成する人材像を実現するために、カリキュラムの学習・教育到達目標として以下の9つを設定した。これらの学習・教育到達目標は「1. 設置の趣旨および必要性」で述べたディプロマポリシーの実現に向け、「建築学部（建築学科）」の各授業科目によって構成されるカリキュラムにおいて学生が身につける技能・能力について表現したものである。

#### [学習・教育到達目標]

- ①人々の生活や社会の発展に寄与する建築文化を創造するための教養や思考力を身につけ、建築の技術や方法論を適切に使うことができる。
- ②建築が社会生活や自然環境に及ぼす影響や効果を理解し、専門家としての倫理を遵守・実践することができる。
- ③自然科学や人文社会科学に関する知識を援用して、建築にかかわるさまざまな事象を論理的に説明することができる。
- ④建築設計や建築技術に関する体系的な専門知識を身につけ、それらを応用することができる。
- ⑤豊富な教養と専門知識を統合、駆使して、種々の制約条件や解決すべき課題を整理・分析し、合理的な方法によって建築をデザインすることができる。
- ⑥グローバルに活躍できるさまざまな能力を身につけ、自分の意見や提案、情報を相手に論理的に伝えることができると同時に、他者の考えを理解し尊重することができる
- ⑦問題意識を持ち、課題の発見・解決のために自ら継続して学習・探求すること

ができる

⑧与えられた制約の下で問題解決に向けた計画を立案し、それを実践することができる

⑨チームの中で自分と他者の役割を理解し、互いの意思疎通を図りながらチームの目標のために行動することができる

これらの学習・教育到達目標を達成するため、授業科目ごとの学習・到達目標や履修モデルを明示するなど適切な履修指導を行い、習得する技能・能力に偏りがないよう工夫する。

上記の学習・教育到達目標に該当する科目については【資料2】を参照されたい。

#### (4) 必修科目・選択科目・自由科目の構成及び理由

必修科目の構成について、専門科目群の分野別に以下の通り設定する。

①設計・演習分野（計4単位）

「建築デザイン基礎1」（1年次前期・2単位）、「建築デザイン基礎2」（1年次後期・2単位）

②環境・設備分野（計2単位）

「建築環境工学1」（1年次後期・2単位）

③構造分野（計3単位）

「構造力学・演習」（1年次後期・3単位）

④建築総合分野（計4単位）

「卒業研究」（4年次通年・4単位）

上記の必修科目以外は原則選択科目である。ただし、建築学科内の各コースにおいて、一級建築士試験受験資格を満たす科目を中心にコースの特色に沿った推奨科目を設け、専門性を深められるよう工夫している。

また、本学の歴史や教学理念、ビジョンについて理解を深め、社会と工学の関わりを学び、社会で活躍するOBによるアドバイスを受けることができる「芝浦工業大学通論」を建築総合分野に自由科目として配置している。

#### (5) 履修順序（配当年次）の考え方

科目の配当については基本的に基礎から応用の順序で、低学年次から高学年次にかけて配当している。

(例)：設計・演習分野

1年次：「建築デザイン入門1・2」「空間建築デザイン演習1」

2年次：「空間建築デザイン演習2・3」

3年次：「空間建築デザイン演習4」「空間地域デザイン演習」

「建築学部（建築学科）」は、豊洲キャンパスで一貫教育を展開することから、低学年次から専門科目を充実させることが可能となり、3年次前期までの専門基礎課程において、一級建築士試験に必要とされている科目の大半を取得できるよう配置している。

また、共通・教養科目の特に人文社会系科目においては、配当年次を幅広く設定している。これは、質の高い建築を生み出すために人文社会系の教養は必須であるという「建築学部（建築学科）」のポリシーを反映したものである。すなわち、低学年次のみならず教養教育を集中させるのではなく、低学年次から高学年次まで学生の専門性に合わせて必要に応じて科目の履修が可能となるよう、専門科目との相乗効果を生み出す科目配当となるよう工夫している。

#### **（6）教養教育の実施方針、教育課程編成上の具体的工夫について**

中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」によれば、教養教育については、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養を可能にする制度設計が求められている。

「建築学部（建築学科）」では、人々の生命や生活・財産に深く関与する建築を学ぶ学生が、「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」という意識を持って建築と向き合うことができるよう教育を行うことを重視している。そのためには、縦割りの学問分野による知識伝達型の教育ではなく、教養教育と専門教育の横断的融合が必須となる。

「建築学部（建築学科）」の教養教育（共通・教養科目群）は、自然科学の基礎知識を身につける数学・理科、語学とコミュニケーション能力を身につける英語のほか、哲学・法学・政治学・社会学・環境学・文学・歴史学・芸術学・文化人類学・経済学・経営学・情報学・コミュニケーション・総合人文社会などの幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成されている。特に人文社会系科目に関しては、学生一人一人が自らの専門性や必要性に応じて1年次から4年次にかけて履修できるよう配慮しており、専門教育と密接に連動したカリキュラム体系となっている。

また、「建築学部（建築学科）」は豊洲キャンパスにおいて1年次から4年次・大学院の一貫教育を実施する予定である。これにより、一つのキャンパスで教養教育と専門教育を行うことが可能になるほか、豊洲キャンパスの周囲に広がる

新旧の街並・コミュニティを建築教育のフィールドとして活用でき、教養教育と専門教育の横断的融合教育を効果的に展開することができる。

さらに、社会や異文化との交流の機会の充実という観点からすれば、専門科目として配置を予定している「海外建築研修」「海外建築実習」「インターンシップ」等の科目は、異文化を理解し、他者とのコミュニケーションを円滑に行うための素養を身につけることができるという点で、教養教育に資すると考えている。

## 5. 教員組織の編成の考え方及び特色

「建築学部（建築学科）」が開講する主要科目を担当する教員は全て専任教員であり、博士の学位を有する者、十分な教育歴を有する者で構成されている。

専任教員は、「建築学部（建築学科）」の母体となる工学部建築学科専任教員 12 名、建築工学科専任教員 12 名の他、デザイン工学部デザイン工学科から建築系科目を担当している専任教員 4 名の移籍と、主にプロジェクト系科目を担当する特別任用教員（新規採用）3 名の合計 31 名（教授 25 名、准教授 5 名、講師 1 名）であり、彼らにより建築教育を展開する。専任教員の年齢は、60 歳代 8 名、50 歳代 10 名、40 歳代 11 名、30 歳代 2 名であり、バランスの取れた構成としている。

「建築学部（建築学科）」では、9 つの建築分野（建築デザイン：専任教員 9 名、建築計画：専任教員 2 名、都市デザイン：専任教員 2 名、都市計画：専任教員 3 名、建築史：専任教員 2 名、建築環境設備：専任教員 4 名、建築構造：専任教員 5 名、建築材料：専任教員 2 名、建築生産：専任教員 2 名）に分れて、学生の向上心に応じたきめ細やかな教育を行う。

必修科目である、「建築デザイン基礎 1」「建築デザイン基礎 2」「建築環境工学 1」「構造力学・演習」においては、専任教員が主担当となり授業を展開し、「プロジェクトゼミ」「卒業研究」は、全専任教員で担当する。

共通・教養科目群（数理基礎科目、外国語科目、人文社会・情報系教養科目、体育・健康科目）については、工学部共通学群から専任教員 3 名が兼任教員として「建築学部（建築学科）」の共通・教養科目をマネジメントする。

「建築学部（建築学科）」は、3 コースに分かれて教育を行うが、専任教員 31 名は、各コースに所属しているのではなく、あくまでも建築学科に所属することにより、学生は所属するコースに関係なく専任教員 31 名の建築分野を学ぶことが可能となるよう工夫している。

## 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定について

「建築学部（建築学科）」では、学習効果を最大化するため、授業の内容や身につけるスキルに応じた授業方法を設定している。また、多くの学生が履修する科目（履修することが予想される科目）については、同一内容の授業を複数クラス設けるなど、履修する学生の最大数が120名程度となるような工夫をする。以下、「建築学部（建築学科）」の特徴的な科目についてその授業実施方法と履修学生数の考え方について述べる。

#### ① 専門科目群

##### ア 「建築デザイン基礎1・2」:

この科目は学生一人一人がスケッチ、図面作成、模型製作など一連の設計プロセスを通じて建築デザインの基礎を学ぶ必修の演習科目である。したがって、教員による密な指導とコミュニケーションは学習効果を高めるうえで欠かすことのできない要素であり、専任、兼任からなる複数の教員を充てて授業の充実化を図る。必修科目であることからすべての学生が履修することが予想され、学生数は最大で240名程度であるが、学習効果を考慮し同一内容を2クラス実施することで対応する。

##### イ 「空間建築デザイン演習1～4」「都市建築デザイン演習1～4」

##### 「建築スタジオ演習1～4」:

これらの科目は「建築デザイン基礎1・2」を履修した学生が、その用途、スケールの大きさにおいて多様な建築物の設計プロセスを通じて、建築デザイン能力をさらに向上させるための演習科目である。コースに関わりなく全員が必修科目として履修する「建築デザイン基礎1・2」とは異なり、空間・建築デザインコースの学生は「空間建築デザイン演習1～4」、都市・建築デザインコースの学生は「都市建築デザイン演習1～4」、先進的プロジェクトデザインコースの学生は「建築スタジオ演習1～4」を履修する。これらの科目は各コースの特徴を反映したものとなっている。学生数の設定に関しては、各コースの学生数にしたがい、「空間建築デザイン演習1～4」と「都市建築デザイン演習1～4」の履修者数は最大で105名程度、「建築スタジオ演習1～4」の履修者数は最大で30名程度である。

##### ウ 「韓国建築実習A・B」「フランス建築実習A・B」「ロシア建築実習A・B」「イタリア建築実習A・B」:

これらの科目は本学が協定を結んでいる大学への学生の送り出し、もしくはこれらの大学からの学生の受け入れを行い、PBL型授業を行う本学独自の実習形式の科目である。教員はすべての科目で2名（兼任含む）を配置し、特に送り出しにおいては実習そのものだけでなく海外での学生の健康管理等のケアも担当する。履修者数は、授業効果・学生の語学力等を考慮し、受け入れが20名程度、送り出しが10名程度である。

エ 「CAD・CG演習」「BIM演習1」「BIM演習2」:

これらの科目は、建設業界ですでに必須のスキルとなっているコンピュータを使用した設計、モデリングの手法を学ぶ演習科目である。「CAD・CG演習」、「BIM演習1」についてはすべての学生（240名）が受講することを想定し、同一内容のクラスを2つ設けて対応する。また、より実践的かつ高度な内容を扱う「BIM演習2」については履修者数の減少が予想されるが、70名程度のクラスを2つ設けて学生の受講を促す。

オ 「GIS演習」:

この科目は地域計画・都市計画に必要な空間および空間の属性データをコンピュータ上で扱うツールである地理情報システム（GIS）を学ぶ演習科目である。専門性が高い授業であり3年次後期に配置していることから、履修者数は最大で40名程度を想定している。

カ 「空間情報デザイン演習」:

この科目は3Dモデリングツールを使用して建築から都市スケールまでの空間のデザイン手法と空間表現を学ぶ演習科目である。教員2名で1クラス設置し、履修者数は最大30名程度を想定しており、先進的プロジェクトデザインコースの学生を主な対象とする。

キ 「空間地域デザイン演習」「都市地域デザイン演習」:

この科目はフィールドワーク等を通じて現場や市民の実情を把握し、地域デザインの手法を学ぶ演習科目である。専門性が高い授業であり3年次後期に配置していることから、履修者数は最大で40名程度を想定している。その内容や扱う対象等の違いから、空間・建築デザインコースの学生は「空間地域デザイン演習」、都市・建築デザインコースの学生は「都市地域

デザイン演習」を履修する。また、先進的プロジェクトデザインコースの学生は、自らの専門とする分野に応じていずれか一方を履修する。

ク 「建築環境実験」「建築材料施工実験」「建築構造実験」「建築材料構造実験」:  
これらの科目は建築構造・設備・材料に関する実験科目である。実験機器、計測機器の使用方法や報告書の記入方法なども扱うことから、「建築学部（建築学科）」のすべてのコースにおいて、いずれか一つを履修することを推奨している。履修者数は「建築環境実験」が最大80名程度、「建築材料施工実験」と「建築構造実験」がそれぞれ最大30名程度、「建築材料構造実験」が最大60名程度を想定している。それぞれの科目は複数の教員を配置し、学習効果が高まるよう工夫している。

## ②共通・教養科目群

「微分積分1」「線形代数1」「基礎力学」「Reading & Writing I」「Listening & Speaking I」など、建築技術者として必要な基礎スキル・教養を習得するための科目については、教育効果を高めるために複数クラスを設け、1クラスあたりの履修者数を抑えるよう工夫している。また、確実に基礎学力を身につけてもらうため、新生を対象に数学、物理、英語等のプレイスメントテストを実施し、その結果に基づき習熟度別にクラス編成を行い、各学生のレベルに合った指導を行う。

## (2) 履修指導の方法

「建築学部（建築学科）」では、学生に対する履修指導を、年度始めに行われるガイダンス、新たに豊洲キャンパスに設ける学習サポートセンター、学年担任制と半期ごとに行う成績不審者への面談等を軸に展開する。

ガイダンスについて、初年次には新生ガイダンスを行い、4年間の「建築学部（建築学科）」での学びの全体像と将来的な学生の進路について概説し、学生が自らの将来像をイメージしながら履修すべき科目を自主的に選択できるようにする。またガイダンスは2年次以降も年次毎に行い、履修上の注意点や特定の進路を目指す学生向けにその進路に合った履修モデルを示すなど、各学生の年次や実力にあった科目の履修を促す。

学習サポートセンターについて、学生が数学・物理・英語の基礎的なスキルを確実に習得できるよう、常駐の教員が授業内容に関する質問などに対応する。また学習サポートセンターでは、入学時のプレイスメントテストに基づき習熟度

別にクラス編成された共通・教養科目との連携により、質の高い学生サポートを展開する。

学年担任制と成績不振者への面談について、各学年に数名の学年担任を配置し、学生からの学修上・生活上の問題に関する相談に対応するほか、学生の履修状況や成績状況をもとに、成績や取得単位数などが一定の基準を下回る学生に対しては半期ごとに面談を行い、着実に学修を進められるようサポートする。

### (3) 卒業要件

「建築学部（建築学科）」の科目区別の配当科目数、単位数、及び卒業要件は下記のとおりである。

科目区分	共通・教養科目群					専門科目群	
	数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		
	数学科目	理科学目	英語科目		理論科目	スケ キ ル 科 目	体的 的 コ ミ ュ ニ
単位数	8単位以上		8単位以上	12単位以上			必修科目13単位 を含み72単位 以上
	32単位以上						
総単位数	124単位以上						

下記を卒業要件として定める。

○専門科目群から必修科目13単位を含み72単位以上

○共通・教養科目群から下記を含み32単位以上

- ・数理基礎科目から8単位以上
- ・外国語科目から8単位以上
- ・人文社会・情報系教養科目から12単位以上

○上記に加え、全科目群から20単位以上

総単位数124単位以上

(履修科目の登録の上限：48単位(年間))

### ①専門科目群

建築学の各分野を専攻するすべての学生に必須となる科目（「建築デザイン基礎1」（1年次前期・2単位）、「建築デザイン基礎2」（1年次後期・2単位）、「建築環境工学1」（1年次後期・2単位）、「構造力学・演習」（1年次後期・3単位））と、「卒業研究」（4年次通年・4単位）を加えた13単位を必修とする。また、高度な専門性を身につけ、実践的建築技術者として活躍するための専門的スキルを習得させるため、必修科目13単位を含む72単位以上を習得することを卒業要件とする。

### ②共通・教養科目群

数理基礎科目（数学科目及び理科科目）と外国語科目に関しては、専門科目群の内容を理解し深めていくために必要な知識や、建築技術者として今後必要となる外国語運用能力を身につけるため、数理基礎科目から8単位以上、外国語科目から8単位以上をそれぞれ習得することを卒業要件として定めている。また、社会・経済・文化・環境など建築の背後にある文脈を読み解くことができる素養を身につけられるよう、人文社会・情報系教養科目から12単位以上を習得することを卒業要件として定めている。共通・教養科目群からは、上記の要件を含めて32単位以上習得することを卒業要件とする。

### ③卒業研究の単位数の妥当性について

卒業研究に関しては、まず学生の3年次修了までの取得単位数が110単位以上であることをその履修の条件としている。

卒業研究に着手する際、学生は論文もしくは設計のいずれかを選択することになる。卒業論文においては、各教員の提示する論文テーマを参考にして学生が自らテーマを設定し、論文を完成させる。卒業設計においては、教員の指導の下、規模及び内容が卒業設計としてふさわしいテーマを学生が自由に設定し、設計を完成させる。卒業研究の評価までの過程の中で、学生は中間報告、最終報告を行い、卒業研究の梗概を提出することになる。

卒業研究を実施するにあたり、その内容の継続性の観点から、少なくとも週6時間、前期後期あわせて30週の取り組みが必要であり、卒業研究の授業時間として最低180時間を設定している。

以上により、卒業研究として年間4単位を授与することは、大学設置基準第21条第3項に示された条件を満たしており、適切であると判断する。

#### ④履修科目における年間登録上限の考え方

「建築学部（建築学科）」では、単位制度の実質的観点から学生の主体的な学習を促し、自主的な学修時間の確保及び事前・事後学習を行うことを目的に、履修科目として登録することができる単位数として、年間 48 単位の上限を設けている。これにより、学生は無理のない履修計画を立てることが可能となり、高い教育の質を保つことができると考えている。ただし、春季・夏季休業中における集中講義科目や本学が主催する海外英語研修、工学英語研修によって取得した単位は年間の総取得単位には含まれない。

#### ⑤その他

学生の学修成果の可視化を図るため、授業外学修時間を含めた学修時間を把握できるツールとして e ポートフォリオを導入している。また、学生が授業の予習・復習を主体的に取り組めるよう、学修成果と学修時間を保証する各授業シラバスにおいて、授業時間外学習における課題を記載している。加えて、学生の学習成果を測定するための評価指標として、履修登録単位数を母数とする GPA (Grade Point Average) による成績評価を導入し、履修指導を行う。

### (4) 履修モデル

体系的な教育課程の編成、および教育効果の観点から、学生の興味関心や卒業後の進路等に応じた以下の履修モデルを作成し、教育を展開する。

#### ア「意匠設計」…【資料 3】

一級建築士の受験資格を得るための科目を幅広く履修し、「空間建築デザイン演習 1～4」「都市建築デザイン演習 1～4」など設計・演習科目を中心に意匠設計に必要とされる専門知識を身につける。

#### イ「構造設計・施工管理」…【資料 4】

一級建築士の受験資格を得るための科目を幅広く履修し、「BIM 演習 1～2」などの構法・生産科目、「仕上げ材料」「維持保全・改修」などの材料科目の他、構造科目を中心に構造設計・施工管理に必要とされる専門知識を身につける。

#### ウ「行政・まちづくりプランナー」…【資料 5】

一級建築士の受験資格を得るための科目を幅広く履修し、「空間建築デザイン演習 1～4」「空間地域デザイン演習」「都市建築デザイン演習 1～4」「都市地域デザイン演習」などの設計・演習科目の他、「BIM 演習 1～2」「建築生産」

「建築構工法」などの構法・生産科目を中心に行政・まちづくりプランナーに必要とされる専門知識を身につける。

#### エ「環境・設備設計」…【資料 6】

一級建築士の受験資格を得るための科目を幅広く履修し、「建築環境工学 1～2」「建築設備」「都市環境設備計画」などの環境・設備設計科目、「建築環境心理学」「建築設計論」「都市建築論」などの設計・計画科目を中心に環境・設備設計に必要とされる専門知識を身につける。

#### オ「大学院進学・プロジェクトをベースとした起業・組織の設立」…【資料 7】

級建築士の受験資格を得るための科目を幅広く履修し、「建築スタジオ演習 1～4」「空間情報デザイン演習」などの設計・演習科目、「プロジェクト研究 1～3」などの設計・計画科目の他、「国際プロジェクト 1～2」「建築実習 A～B（韓国・イタリア・フランス・ロシア）」などのグローバル推進科目を中心に、大学院進学・プロジェクトをベースとした起業・組織の設立に必要とされる専門知識を身につける。

## 7. 施設、設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

「建築学部（建築学科）」は、東京都江東区豊洲 3 丁目 7 番 15 号に位置する芝浦工業大学豊洲キャンパスの既存の校地等を利用する。豊洲キャンパスは、最先端の研究施設を備えた人間力を育む都市型キャンパスとして、2006 年に豊洲の地に開校して以来、施設・設備を拡充してきた。

「建築学部（建築学科）」は、学部の 4 年間に加えて大学院教育も一貫して、豊洲キャンパスで学ぶことができる（なお現在、工学部 3・4 年次生および大学院生も豊洲キャンパスで学んでいる）。

豊洲は、いままさに街が新たに生まれつつある場所である。開発の進むウォーターフロントから水都を象徴する運河を越えれば、門前仲町や清澄白河、月島など、懐かしい面影を残す街並みが広がっており、歴史と先進性が共存する「これからの都市の暮らし」の可能性を示す場所である。「建築学部（建築学科）」は、新しきものと古きものが交差し多くの建築的テーマを発見することのできるこの豊洲の地で、地域に開かれた教育研究を展開する。

運動場については、芝浦工業大学大宮キャンパス運動場を利用する。大宮キャンパス運動場には、グラウンド・多目的コート・野球場・テニスコート・弓道、

アーチェリー場が配置されている「建築学部（建築学科）」では、主に1・2年次の毎週金曜日を終日「大宮 DAY」とし、大宮キャンパスで開講される人文社会科学科目と体育・健康科目の一部の科目の受講を促している。また、部活やサークルを通じた他学部学生との交流を積極的に推奨している。豊洲キャンパスと大宮キャンパス間の移動手段として、定期的に無料のシャトルバスが運行している。

また、豊洲キャンパスでは、学生が無料で利用できる「SIT アスレチックジム」施設があり、最新の運動機器を揃え、インストラクターの指導のもと汗を流すことができる。「SIT アスレチックジム」を利用した体育・健康科目も開講しており、1年次から4年次を通して、受講することが可能である。

加えて、豊洲キャンパスの近隣には国立大学法人東京海洋大学越中島キャンパスがある。現在、体育・健康科目や部活・サークル活動の実施場所として、東京海洋大学の運動場や体育館施設の借用が可能か調整を行っており、2016年度より運用を予定している。

空地について、豊洲キャンパスは公開空地を取り入れており、敷地を囲む塀やフェンスを設けていないため、中央の広場は教職員と学生の交流だけでなく、地域住民にも開放された、大学と地域の交流の場ともなっている。また校舎内においては、各階の教室前面のアトリウム空間にはコミュニケーションを促すためのサークルベンチや自習机を配置し、屋上庭園と併せて学生の憩いの場となっている。

## （2）校舎等施設の整備計画

### ①教員の研究室および必要な教室等の整備計画について

「建築学部（建築学科）」の学部1年次生から4年次生までが学ぶ豊洲キャンパスは、教室棟・交流棟・研究棟に分れており、主に学生が授業を受講する教室棟・交流棟には、収容人数20名～60名教室が19室、96名～252名教室が13室、パソコンを使用した講義・実習を行うことのできるPC講義室3室（パソコン240台）、PC実習室6室（パソコン280台）を設置している。また、各種イベントや国際会議を開催することができる大講義室（収容人数518名）を設置している。教室棟・交流棟では、「建築学部（建築学科）」以外に工学部の学部3年次生から4年次生も一緒に学ぶ。

主に講義を行う教室については、十分な室数を確保できており、現状のまま使用しても支障はない。また、研究棟には、専任教員31名の研究室（約48㎡～83㎡）が確保されている他、工学部の兼任教員として共通・教養科目群のマネ

ジメントを担当する教員の研究室（35 m<sup>2</sup>）3室が確保されている。

研究室以外の施設設備としては、建築学部専用の小ゼミ室 3室、中ゼミ室 3室、大ゼミ室 3室、建築学部工作室 1室、建築環境実験室 1室、建築振動共同実験室 1室、建築構造共同実験室 1室、建築構造実験準備室 1室、建築材料実験室 1室、建築学科骨材ストックヤード、会議室 2室、就職資料室 2室、建築学部書記センター・非常勤講師控室 1室、アトリエ（約 140 m<sup>2</sup>）4室、建築製図室（521 m<sup>2</sup>）1室がある。

製図の授業を行う建築製図室とアトリエについては、既存の施設設備では 1年次から 4年次を通して、十分な教育環境を確保することができないことから、豊洲キャンパス敷地内に建築学部製図室棟（650.4 m<sup>2</sup>）の建設を予定している（2017年 3月竣工予定）。

建築学部製図室棟内には、休憩や軽食を取ることができるラウンジ（89.9 m<sup>2</sup>）を設置する。ラウンジは、「建築学部（建築学科）」の学生だけでなく、豊洲キャンパスで学ぶ学生全員が利用できる憩いの場となる。

担当教員、利用する教室等が記載された時間割については、【資料 8】を参照されたい。

## ②建築系実験室の器具等の整備について

3年次前期に開講する実験科目（建築環境実験、建築材料施工実験、建築構造実験、建築材料構造実験）は、建築環境実験室、建築振動共同実験室、建築構造共同実験室、建築材料実験室において授業が行われる。各実験室において整備されている設備・機器及び可能な実験・作業は下記の通り。

### [建築環境実験室]

（設備・機器）アスマン通風乾湿計、微風速計、光散乱式浮遊粉じん計、  
ピエゾバランス式浮遊粉じん計、浮遊粉じん個数計、照度計、  
1 / 3 オクターブ騒音計、ガス測定用気体採取ポンプ（手動式、電動式）

（可能な実験・作業）温湿度の測定、室内での風速測定、浮遊粉じん質量測定、  
浮遊粉じん個数測定、照度測定、騒音の周波数別測定、  
有害ガス測定

### [建築振動共同実験室]

（設備・機器）2000kN アムスラー型試験機、コンクリート型枠加工用品

(可能な実験・作業) 建築材料の圧縮・引張試験、建築構造部材の曲げ試験、コンクリート型枠の加工・製作

[建築構造共同実験室]

(設備・機器) 油圧ジャッキ・電動ポンプ制御システム、構造実験用反力フレーム  
構造実験用計測システム、電磁式二軸振動台、常時微動計測システム

(可能な実験・作業) 建築構造部材や架構型試験体の製作、構造試験体の各種実験  
小型模型の強制振動実験、実建物の常時微動計測

[建築材料実験室]

(設備・機器) パン形コンクリートミキサー、コンクリート養生水槽、恒温恒湿器  
500kN 圧縮試験機、PH 中和装置、コンクリート材料試験用品、  
木材加工用品

(可能な実験・作業) コンクリートの練混・養生、コンクリート材料の各種試験  
建築材料の圧縮試験、木材の加工、木製品の製作

### (3) 図書館等の資料及び図書館の整備計画について

#### ① 図書館の整備計画等について

図書館では、建築学部開設年度の建築系図書 168, 171 冊(予定)に加え、年間の建築関連の資料、洋書約 750 冊を含む約 8, 280 冊を増加し充実化を図る。また現在所蔵している建築系雑誌の充実化を更に進める。

図書館での貸出しは、一人 30 冊まで可能であり、学内便による 3 キャンパス図書館の相互利用により、学生・教員はキャンパスを移動せずに図書館資料を利用できる。また、他大学が持つ資料への利用の利便性を高めるため ILL(図書館間相互貸借システム)を無料化して研究への支援を行っている。

#### ② デジタルデータベース・電子ジャーナルの整備計画について

図書館で保存している「国宝及び重要文化財建造物修理工事報告書」のデジタルアーカイブ化を構築し、研究者への提供を進める。また、建築データベース「LE CORBUSIER PLANS」の契約、これまで紙媒体で契約していた「建設通信新聞」をデジタル配信に変更するなど、デジタルデータベース、電子ジャーナルの整備を推進する。

加えて、国立国会図書館のデジタル配信サービスに登録し、デジタルアーカイブで過去の資料についての利用を 3 キャンパスの図書館内で利用できるようにしている。

### ③図書館における教育研究促進のための機能について

豊洲図書館の専有延床面積は 1,591 m<sup>2</sup>、収容能力冊数 127,222 冊、座席数 287 席、の構成となっている。学生が利用できる PC 8 台を備えたセミナールームと個室 11 部屋、大型の図面や書籍などの閲覧やグループ学習に利用できる和室を備えている。

### ④他の大学の図書館等との協力について

東京周辺の理工系大学の相互協力組織私工大懇話会との利用連携、近隣大学である東京海洋大学との利用連携、隣接企業である株式会社 IHI との利用連携を行っている。

## 8. 入学者選抜の概要

本学は「社会に学び社会に貢献する実践的技術者の育成」を建学の精神として創立されて以来、「実学」を重視し、多くの卒業生を輩出し、社会の発展に貢献してきた。今日においては工学のみならず、理学やデザインの分野にも教育・研究のフィールドを広げ、多様化・高度化した社会の要請に応える人材を育成している。これらを背景とし、「建築学部（建築学科）」は入学生に期待する「求める人物像」（アドミッションポリシー）を以下のように定め、これに基づき入学選抜を実施する。

### （1）アドミッションポリシーについて

「建築学部（建築学科）」は、自然科学と人文社会科学のバランスの取れた高い教養を持ち、価値観がますます多様化するこれからの時代に対応できる、“建築をベースにした特色ある人材”を養成することを目標としている。このため、アドミッションポリシーとして求める学生の人物像と入学までに習得することが望ましい科目別達成目標を下記の通り定める。

#### 【求める人材像】

- ・ 建築・都市に対する積極的な興味・関心を持つ人材。
- ・ 建築をベースに、場所・地域・国を問わずに活躍することを志向する人材
- ・ 建築・都市に関する専門知識を学ぶ上で必要となる、高等学校卒業程度の学習内容を理解している人材

#### 【入学まで習得することが望ましい達成目標】

- ・ 科学的な思考・判断をするための数学・物理・化学等の基礎学力を有すること
- ・ 論理的な思考にもとづく、日本語の読解力、表現力を有すること
- ・ リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングそれぞれの英語

基礎学力を有すること

- ・建築・都市を取り巻く社会や文化について、その歴史をふまえて理解するための基礎的知識を有すること

## (2) 選抜方法

アドミッションポリシーに基づき以下の入学選抜試験を行い、科目別の達成目標を満たしているかどうかを評価し、多様な学生を受け入れる。

「建築学部（建築学科）」では（１）一般入学試験（センター試験利用方式含む）、（２）推薦入学試験、（３）特別入学試験の３つの入学試験を柱とし、学生の選抜を行う。

### ①一般入学試験

一般入学試験は、①前期日程・全学統一日程・後期日程、②大学入試センター試験利用方式（４教科型）、③外部検定試験利用入試、に分けられる。

#### ア 前期日程・全学統一日程・後期日程

本学独自の試験として２月初旬（前期日程・全学統一日程）と２月下旬（後期日程）に行う入試である。「建築学部（建築学科）」では前期日程・全学統一日程・後期日程ともに３教科型入試（数学・理科・英語）により選抜する。なお、理科については物理４題、化学４題の出題のうち、受験生が任意の４題を選択し、回答する。

#### イ 大学入試センター試験利用方式（４教科型）

大学入試センター試験の得点を利用する入試である。「建築学部（建築学科）」では４教科型（必須教科：数学・理科・外国語、必須教科以外：国語（近代以降の文章）・地理歴史・公民のうち、最も得点の高い１教科）により選抜する。

#### ウ 外部検定試験利用入試

「建築学部（建築学科）」では、英語運用能力を判定する各種外部検定試験を利用した入試を導入する。具体的には、外部英語検定試験（指定する英語検定試験は検討中）のスコア基準を設け、基準値以上を出願の条件とする。入学試験は２教科型（数学・理科）により選抜する。なお、理科については物理４題、化学４題の出題のうち、受験生が任意の４題を選択し、回答する。

## ②特別入学試験

特別入学試験は一般入試では評価が難しい特色ある学生を評価し選抜するために実施する。特別入学試験は、①外国人特別入学試験、②現地外国人特別入学試験、③帰国生徒特別入学試験、④建築学部特別入学試験に分けられる。

ア 外国人特別入学試験：

日本留学試験（日本語・理科・数学）、外部英語試験（TOEFL iBT、IELTS、TOEIC のいずれか） および面接による選抜を行う。

イ 現地外国人特別入学試験：

日本大学連合学力試験（数学・英語・理科）により第一次選考を行い、合格者に対して面接による第二次選考を行い選抜する。

ウ 帰国生徒特別入学試験：

数学・理科の筆記試験、小論文、外部英語試験（TOEFL iBT、IELTS、TOEIC のいずれか） および面接により選抜する。

エ 建築学部特別入学試験（プロジェクト入試（仮称））：

エントリーシート、推薦状等により書類選考（1次選抜）を行い、合格者に対して事前課題を与える。2次選抜では筆記試験、課題に関するプレゼンテーション、および面接により選抜する。

## ③推薦入学試験

推薦入学試験は、一般入試では評価が難しい学生の能力や適正を多面的に評価し選抜するために実施する。推薦入学試験は、①指定校推薦入学試験・上海日本人学校推薦入学試験、②併設校推薦入学試験、に分けられる。いずれも推薦書類等と面談により選抜する。

## ④その他

学士入学試験、編入学試験については、他の入試の状況に応じて若干名募集・選抜する。

### (3) 選抜体制

「建築学部（建築学科）」の入学定員は240名とする。

上記の入試選抜方法を用いて入学試験を実施する。入試選抜方法別の募集人数（目安）については下記のとおりである。

建築学科 建築学部	定員	一般入学試験					特別入学試験			推薦入学試験	
		前期日程	全学統一日程	後期日程	大学入試センター試験利用	外部検定試験利用	建築学部特別入学	現地外国人特別入学 外国人	上海日本人学校推薦入学	指定校推薦入学	併設校推薦入学
合計	240	90	30	15	34	13	6	6	23	23	

### (4) 正規学生以外の受け入れについて

科目等履修生、研究生等、正規の学生以外の者は、本学学則に沿って若干名受け入れることがある。

## 9. 取得可能な資格

「建築学部（建築学科）」において取得可能な資格とその取得条件等は下表のとおりである。

資格・免許の種類	取得条件等 (ア：国家資格もしくは民間資格 イ：資格取得可能 もしくは受験資格取得可能 ウ：取得の要件)
一級建築士	ア 国家資格 イ 受験資格取得可能 ウ 指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる。
二級建築士	ア 国家資格 イ 受験資格取得可能 ウ 指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる。
木造建築士	ア 国家資格 イ 受験資格取得可能 ウ 指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる。
1級施工管理技士(建設施工・建設機械施工・電気工事施工・造園施工・管工事施工・土木施工)	ア 国家資格 イ 受験資格取得可能 ウ 卒業後3年以上の実務経験により、受験資格を得られる。
2級施工管理技士(建設施工・建設機械施工・電気工事施工・造園施工・管工事施工・土木施工)	ア 国家資格 イ 受験資格取得可能 ウ 卒業後1年以上の実務経験により、受験資格を得られる。
コンクリート技士・主任技士	ア 民間資格 イ 受験資格取得可能 ウ コンクリート技術に関する科目の単位を取得し、①技士は卒業後2年以上の実務経験、②主任技士は4年以上の実務経験、により受験資格を得られる。
建築設備士	ア 国家資格 イ 受験資格取得可能 ウ 卒業後2年以上の建築設備に関する実務経験により、受験資格を得られる。
建築積算士補	ア 民間資格 イ 資格取得可能 ウ 専門科目「建築経済」の単位を取得することにより資格取得が可能。

## 10. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

「建築学部（建築学科）」では、学生に主体的な学修を促すことに加え、現場を実際に体験し、さまざまな価値観に触れることによって得られる視点やコミュニケーション能力を重視している。そのため、下記に挙げる学外実習を実施する。

### (1) 「インターンシップ1」「インターンシップ2」

実社会における様々な建築生産現場で実際に労働体験をすることを通じて、現実の建築生産行為の一端に触れ、学生のその後の学習の方向性と進路について考える機会を提供すること、ならびに社会人としてのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。2015年度は建築設計事務所、国内外の建設会社を中心に55社（公的機関含む）と連携し、建築系学科だけで73名の学生が実習を行っている。【資料9】

実習先との連携プロセスについては、まず「建築学部（建築学科）」から実習先に対して受け入れ可否について問い合わせを行う。受け入れ可能な実習先に対してインターンシップ評価表を渡し、実習終了後に実習先担当者が学生についてのコメント・評価等を記入し、本学に提出する。

実習の時期は春季・夏季の長期休暇であり、学生には原則として10日間の実働を求める。評価については実習先からのインターンシップ評価表、学生が日々の実習について記録するインターンシップ実習ノート、インターンシップ後に自らの学びについて記載するインターンシップ報告書の3点について、授業担当教員が総合的に評価し単位を認定する。

### (2) 「国内プロジェクト1」「国内プロジェクト2」「国内プロジェクト3」 「国内プロジェクト4」

「国内プロジェクト1～4」は、夏季または春季休暇中に、学内外で集中講義の形式で行われるPBL授業であり、さまざまな課題に順次、取り組むことで、建築の各種スキルや構想力を段階的に養うことを目的とする。

授業担当教員は、学生のプロジェクトへの貢献度ならびに成果物（レポート、スケッチ、実測図、製図、プレゼンテーション等）を評価し単位を認定する。

### (3) 「国際プロジェクトA」「国際プロジェクトB」

「国際プロジェクトA・B」は国際的な感覚を養うため、夏季または春季休暇中に集中講義の形式で行われるPBL授業である。海外の建築物、街並みの体

験、建築分野を専門とする外国人大学生との協働を通して、外国語によるコミュニケーション能力と調査、設計、発表などの各種スキルを養うことを目的とする。

授業担当教員は、学生のプロジェクトへの貢献度ならびに成果物（レポート、スケッチ、実測図、製図、プレゼンテーション等）を評価し単位を認定する。

#### **（４）「海外建築実習」**

「海外建築実習」は海外の高名な建築や都市を実際に訪れ、体験した建築や都市を建築学の枠組みの中に位置づけられるようになることを目的とする集中講義である。学生はグループで事前調査を入念に行い、現地においても調査やスケッチを行い、本学教員による専門的な講義を受ける。帰国後はその学習成果を発表し、調査報告書の刊行を行う。2015年度の訪問国・テーマはイタリア・古典主義建築（ルネッサンス建築からバロック建築まで）とフランス・近代建築（コルビュジエの代表作品）である。

授業担当教員は実習前後に行われるゼミでの貢献度、実習での貢献度および実習後に提出する報告書を総合的に評価し単位を認定する。

#### **（５）「イタリア建築実習A・B」「フランス建築実習A・B」「ロシア建築実習A・B」「韓国建築実習A・B」**

「イタリア建築実習A・B」、「フランス建築実習A・B」、「ロシア建築実習A・B」、「韓国建築実習A・B」は本学の海外協定校と学生の派遣・受入を毎年交互に行い、各実施大学で課題に沿った建築設計のワークショップを行う集中授業である。

協定校はラクイラ大学（イタリア）、パリ・ベルヴィル建築大学（フランス）、モスクワ建築大学（ロシア）、漢陽大学校（韓国）であり、これまでも工学部建築工学科を中心に派遣・受入実績がある。

実施方法として、主に受け入れ大学の教員がワークショップの敷地見学、エスキース、講義などを担当する。また、派遣大学教員も同行し、共同でワークショップ、講義を行うなど双方の大学が連携してプログラムを実施する。プログラムの共通言語は英語であり、相応のコミュニケーション能力が必要であるため、派遣プログラムは10名程度、受入プログラムは20名程度の学生が受講することを想定している。

評価は双方の大学の授業担当教員によって行われる。最終的な作品とプレゼ

ンテーションを総合的に評価し単位を認定する。

上記建築実習に関する覚え書きについては、下記資料を参照されたい。

「イタリア建築実習 A・B」【資料 10】 「フランス建築実習 A・B」【資料 11】

「ロシア建築実習 A・B」【資料 12】 「韓国建築実習 A・B」【資料 13】

## 1 1. 管理運営

### (1) 教学面における管理運営体制について

本学学則に基づき、建築学部教授会を設置し、学部長及び専任の教授、准教授、講師、及び助教をその構成員とする。教授会は、会員の選挙によって正・副議長を選出する。教授会は毎月 1 回定期に開催するほか、学長又は学部長が必要と認めたとき、及び会員の 3 分の 1 以上の申出があったとき臨時に開催する。また、会員の過半数の出席により成立し、出席会員の過半数により教授会における意思を決する。

本学では、学長が校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。建築学部教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

- ①学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ②学位の授与に関する事項
- ③教育及び研究組織に関する事項
- ④学科、コース、学科目及び授業に関する事項
- ⑤教員の研究育成及び留学に関する事項
- ⑥教育研究予算の配分の方針に関する事項
- ⑦教員の任用に関する事項
- ⑧学生の指導育成に関する事項
- ⑨学生の賞罰に関する事項
- ⑩教員の資格審査に関する事項
- ⑪学則に関する事項
- ⑫その他学長から意見を求められた事項

また、建築学部教授会は上記の事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長がつかさどる次の事項について審議し、学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

- ①教授会の運営に関する事項

- ②図書、設備及び施設に関する事項
- ③学生の試験、進級、転コース、転部に関する事項
- ④授業日数及び休業に関する事項
- ⑤学生団体及び学生活動並びに学生生活に関する事項
- ⑥学部長選挙に関する事項
- ⑦大学協議会委員の選出に関する事項
- ⑧学部規則に関する事項
- ⑨その他学長等から意見を求められた事項

## (2) 教授会以外に関連する委員会の役割

建築学部教授会では下記の委員会を設け、当該委員会に上記の事項の検討等を付託する。各委員会は、教授会から付託された事項を審議し、その結果を教授会に報告する。また、必要に応じ、教授会に議題を提案することができる。

- ①教務委員会
- ②入試委員会
- ③教員資格審査委員会

各委員会の審議事項は下記の通り。

### ①教務委員会

教育課程及び授業に関する事項、学外単位等認定に関する事項、転部転コースの可否の審査等に関する事項、学生の表彰、単位認定に関わる不正行為に関する事項及びその他教務に関する事項

### ②入試委員会

入試（学士入学、編入学、外国人特別入学を含む）の方針、合否の審査等に関する事項及びその他入試に関する事項

### ③教員資格審査委員会

教員の昇格審査並びに資格の再審査に関する事項及びその他教員資格審査に関する事項

## 12. 自己点検・評価

本学では、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成し、自らの判断と責任において評価結果を改革、改善につなげるために、文部科学大臣の定める教育・研究、組織及び運営並びに施設・設備の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を毎年度公表している。

評価項目については下記の通り

- ①理念・目的
- ②教育研究組織
- ③教員、教員組織
- ④教育内容・方法・成果
- ⑤学生の受け入れ
- ⑥学生支援
- ⑦教育研究等環境
- ⑧社会連携・社会貢献
- ⑨管理運営・財務
- ⑩内部質保証

### **(1) 実施方法・実施体制**

本学の自己点検・評価は、理事長を委員長とした「学校法人芝浦工業大学評価委員会」で行う。委員会には「大学点検・評価分科会」、「経営点検・評価分科会」を設け、それぞれの分科会において自己点検評価を行い、委員会で最終的な評価を行う。また、自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育水準および健全な法人運営の一層の向上を図るため、学外有識者による「大学外部評価委員会」「法人運営外部評価委員会」を設けている。

「学校法人芝浦工業大学評価委員会」では、①点検・評価に関する基本方針、実施基準の策定、②点検・評価に関する報告書の作成、③点検・評価に関する結果の公表、④点検・評価結果の分析、教育研究等の改善計画の審議と執行部への提言、⑤認証評価受審に伴う決定及び対応、⑥その他、点検・評価に関する事項、を担当し、審議する。

「大学点検・評価分科会」「経営点検・評価分科会」では、①評価項目の設定、②評価実施の企画、立案及び実施要領の作成、③作業分科会の設置、④評価結果の分析、⑤評価結果の評価委員会への報告、を担当し、審議する。

「大学外部評価委員会」および「法人運営外部評価委員会」では、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させている。

### **(2) 結果の活用・公表**

毎年度実施される自己点検・評価において、「自己点検・評価報告書」および「大学外部評価委員会総括」を本学 Web サイト「自己点検評価」ページで公表している。また、各学部・学科においても毎年度自己点検を実施し、「点検・評価

報告書」を同ページで公表している。

### (3) 第三者評価

2011 年度に（財）大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審し、2012 年 3 月に大学基準に適合していると認定された。これらの認証評価結果と自己点検・評価報告書は、Web サイト「大学認証評価」ページで公表している。

## 1.3. 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、Web サイト、各種出版物等を通じて、教育・研究・社会貢献活動等の状況について情報の公表を行っている。

本学 Web サイト「芝浦工大の情報公表」ページにおいて、以下の 9 項目について積極的に公表を行っている。

「芝浦工大の情報公表」<http://www.shibaura-it.ac.jp/information/index.html>

（芝浦工業大学 Web サイトトップ>情報公表>芝浦工大の情報公表）

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

⇒教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

(2) 教育研究上の基本組織に関すること

(3) 教員組織、教員の数に関すること

⇒役職者一覧、教員数・教員組織、学部各学科研究室

(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

⇒アドミッションポリシー、学生数、学位記授与者数、就職・進路データ

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

⇒シラバス、時間割、学則

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

⇒学則、期末試験・成績など

(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

⇒各キャンパス、図書館、学生寮、セミナーハウス

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

⇒学費

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関するこ  
と

⇒保健室・学生相談、学生総合保障制度、教育・学習支援部門の概要（学  
習サポート・障がい学生サポート・メンタルケア、芝浦工大が考えるキャ  
リアサポート

また、「設置届出書／履行状況報告書」ページにおいて、各学部・学科における  
設置届出書・設置計画履行状況等報告書、「自己点検評価」ページにおいて、大学  
点検評価報告書、各学部・学科における自己点検・評価報告書、「大学認証評価」  
ページにおいて、大学認証評価結果を公表している。

「設置届出書／履行状況報告書」

[http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/new\\_department\\_report.html](http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/new_department_report.html)

（芝浦工業大学 Web サイトトップ>大学案内>設置届出書／履行状況報告書）

「自己点検評価」 <http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/index.html>

（芝浦工業大学 Web サイトトップ>大学案内>自己点検評価）

「大学認証評価」 <http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/accredited.html>

（芝浦工業大学 Web サイトトップ>大学案内>大学認証評価）

## 1.4. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### (1) 全学的な教育改革・改善活動

全学的な教育改革・改善活動を推進する教育イノベーション推進センターを  
中心にして、教育システムの検証と開発、教育改革に関する調査、提案などの活  
動を行っている。

具体的には、2015年度は、①体系的・組織的なアクティブ・ラーニング改  
革、②学修成果の可視化と学生の学修時間の保証、③教育改革推進体制の強  
化、を柱として取り組んでいる。各学部・学科の教員および職員で組織される  
3つのワーキンググループにより、実際に本学の教育活動に導入するための課  
題の洗い出しと短期・中期の達成目標策定を行い、スケジュールに沿って改  
善・改革活動を実施している。

毎月開催される教学会議では、各ワーキンググループの進捗状況の報告・見え  
る化により連携を計るなど、教育改革・改善活動において相乗効果をもたらすよ  
う組織的に工夫している。また、各ワーキンググループにおける課題やテーマに  
沿った各種ワークショップも開催している。ワークショップには各学部・学科の

教員、職員の他、学生も一緒に参加し、様々な角度から教育活動の検証と改善を行っている。2015年度に開催されたワークショップとしては、「教職学協働による教育改革の推進」「ティーチングポートフォリオ作成」「シラバスの書き方」「授業デザイン」「学生主体の授業運営手法」などがある。

## (2) 教員の評価

教員の資質向上に向けた弛まぬ努力は、教育研究機関として極めて重要である。そこで本学では、教員の資質向上策の一環として、「優秀教育教員顕彰制度」と「教育・研究等業績評価制度」を設けている。

「優秀教育教員顕彰制度」は、教育活動を評価するもので、各学部から推薦された候補者の中から受賞者が決定される。受賞者は、毎年4月に開催される全学の「FD・SD講演会」において講演し、より良い授業に向けた取り組みの一助となっている。

「教育・研究等業績評価制度」によりすべての専任教員の評価を行っている。評価は「教育活動」「研究活動」「大学運営・社会貢献活動」の3つのカテゴリで行う。教員は年度当初に、大学の方針、学部学科の教育目標を踏まえた個人の達成目標と活動計画を策定する。年度末には達成目標と活動計画に対する達成度合いおよび改善点を教育・研究等業績評価シート（自己評価書）を作成し、学部長・学長に提出する。このように、全教員が「教育活動」「研究活動」「大学運営・社会貢献活動」を毎年見直す機会を持ち、年度末に自己評価を行い、これらの活動状況を論文、報告書等にまとめて発信している。

また、新任教員を対象に、教育・研究における有効なAV機器等の利用方法を学ぶ「新任教職員研修」、入職3年目までの教職員を対象に授業デザインやシラバスの書き方などを学ぶ「FD・SDフォローアップ研修」などがある。

## (3) 教職学共同による教育改革

教育改善へ向けた取り組みは教職員のみならず、学生の参画も大切である。本学では、学生によるSCOT（Students Consulting on Teaching）という、研修を受けた学生が教員の要望により学生目線で授業観察等を行い、授業改善の支援をする活動を制度化している。教員は、SCOT生との面談を通して、自らの授業をより良くするためのヒントを得ることができる。SCOTは、授業担当教員と協同して授業改善を行う制度であり、学生参加型の教育改善が実施されている。

## 15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組について

本学ではこれまでも学生の将来に向けたキャリア教育の充実を図る科目を設置してきた。建築系学科に関しては工学部建築学科が「建築実習」(3年次後期)を設置しており、実社会における様々な建築生産現場で実際に労働体験をすることを通じて、現実の建築生産行為に触れ、その後の大学での学習と自らの進路について考える機会を提供してきた。

今回新たに設置する「建築学部(建築学科)」においては、これまで実施してきた本学のキャリア教育の流れを踏襲しつつも、教育課程内の取組については各共通・教養科目、および専門科目を履修する中で社会的・職業的自立に関する能力を同時に涵養することを重視する。導入科目、具体的なスキルを身に着ける共通・教養科目、あるいは各種体験的科目やプロジェクト科目を履修する中で、学生は自らの社会性、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を養うことができる。

#### ①導入系科目：「建築デザイン入門」

専門科目への導入として建築分野の幅広さ(歴史研究から工学実験まで、あるいは制作活動から調査活動まで、あるいは空間設計から都市計画まで)を理解すると同時に、建築学全般に関わる基礎的知識を身につけ、それぞれの専門科目がどのような社会貢献につながるのか(どのような職業へつながるのか)を理解する。また PROG テストを利用することで、学生に卒業時に必要な基礎的問題解決能力のレベルを把握してもらい、今後の学習プランを構築させる。

#### ②スキル系科目：「レポートライティング」、「プレゼンテーション入門」

これらの科目においては、専門分野における論文執筆や研究発表、また社会人としての基礎的なプレゼンテーション能力や論理的思考能力を養成する。

#### ③体験的科目・プロジェクト科目：「国内プロジェクト1～4」、「国際プロジェクトA・B」

これらの科目においては、PBL形式の授業を通じて、①課題の発見解決のために自ら継続して学習・探究する能力②与えられた制約の下で問題解決に向けた計画を立案し、実践する能力③チームの中で自分と他者の役割を理解し、互いの意思疎通を図りながらチームの目標のために行動する能力、を養成

する。

## (2) 教育課程外の取組について

教育課程内の取組を補完するのが、大学全体として取り組んでいる以下のキャリアサポート体制である。

### ①Web 就職支援システム「CAST」(Career Station、以下 CAST)

学生の就職活動を支援するために導入した学生ポータルサイト。求人情報検索のほか、以下の機能を備えている。

ア 企業情報（卒業生の内定状況、過去の求人状況等）の閲覧

イ 卒業生・先輩の進路情報の閲覧

ウ 卒業生が作成した「入社試験活動報告書」の閲覧

エ 企業による説明会・セミナー情報の閲覧

オ インターンシップ求人の閲覧

カ 「MY CAREER DESIGN NOTE」の登録・編集（入学時から利用可能。

学生生活や今後の目標などを記録するポートフォリオ）

キ 「卒業生サポーター」へのアプローチ（卒業生とメールによるコミュニケーション機能）

ク eラーニングシステムを利用した「SPI 対策講座」・「TOEIC 対策講座」の受講

### ②MY CAREER DESIGN NOTE

学生が入学前から卒業までの自分自身の「目標・気づき・変化・成長・振り返り」を記録する「MY CAREER DESIGN NOTE」を導入している。学生は CAST からアクセスし、自らの行ってきたことを記録することで、自分自身の成長を振り返ることができる。また、学修面、生活面での目標を立てることにより大学生活をより充実したものにでき、就職活動時の自己分析等にも活用できる。

### ③各種キャリアガイダンス・セミナーの開催

学生の就業意識を高めるとともに、内定を得るためのスキルを身に着ける各種ガイダンス・セミナーを本格的な就職活動開始前に順次開催している（「理工系人材のための進路説明」、「インターンシップガイダンス」、「入社試験対策講座」、「業界研究ガイダンス」、「職種研究ガイダンス」など）。

#### ④学内企業説明会

毎年、就職活動がスタートすると同時に、新4年生を対象とした学内合同企業説明会を実施している。日本を代表するリーディングカンパニーを大学に招き、本学学生のみを対象とした企業説明を行っている。参加企業は毎年約250社にのぼる。

#### ⑤卒業生サポーター制度

在学生と卒業生との活発な交流を図ることを目的に、「卒業生サポーター制度」を導入している。学生はCASTを通じて卒業生サポーターに直接質問・相談を行うことができる。回答は卒業生が電子メールで返信する。

### (3) 適切な体制の整備について

教職協働組織であるキャリアサポートセンターは関連事務を担う就職・キャリア支援部と、キャリアセンター員（各学部より計7名の教員）によって組織されている。就職・キャリア支援部では事務職員と資格を持つキャリアカウンセラーが学生の個別キャリア相談に応じる。年間6,000社を超える求人企業情報のインターネット上での公開、約1,500名の就職先と約500名の大学院進学先、留学その他若干名の進路先の情報を集約した就職資料の作成、「就職支援講座」の企画・運営を行っている。一方、各学部・学科には就職担当教員を正副2名ずつ配置し、教学サイドからのバックアップ体制を整えている。キャリアサポートセンターと各学部・学科の就職担当との連携に関しては、各学部のキャリアサポートセンター員はキャリアサポートセンターと各学部・学科の調整を担い、双方がスムーズに連携できる体制となっている。

就職・キャリア支援部は、進路指導専門の部署であり、各学科での対処が困難な場合には就職・キャリア支援部が引き継ぎ、対処する。「学科、センター、就職・キャリア支援部」という全学を挙げての就職指導体制が本学の就職指導の特徴である。

**芝浦工業大学 建築学部 建築学科  
設置の趣旨等を記載した書類**

**資料目次**

- 【資料1】 建築学部カリキュラムマップ
- 【資料2】 建築学部学習・教育到達目標
- 【資料3】 建築学部履修モデル（意匠設計）
- 【資料4】 建築学部履修モデル（構造設計・施工管理）
- 【資料5】 建築学部履修モデル（行政・まちづくりプランナー）
- 【資料6】 建築学部履修モデル（環境・設備設計）
- 【資料7】 建築学部履修モデル  
（大学院進学・プロジェクトをベースとした起業・組織の設立）
- 【資料8】 建築学部時間割
- 【資料9】 2015年度インターンシップ受け入れ企業・機関一覧
- 【資料10】 建築実習覚え書き（イタリア）
- 【資料11】 建築実習覚え書き（フランス）
- 【資料12】 建築実習覚え書き（ロシア）
- 【資料13】 建築実習覚え書き（韓国）

【資料1】  
建築学部  
カリキュラムマップ

		1年次		2年次		3年次		4年次		理工学研究科 建設工学専攻	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
<b>建築学科</b>		<b>共通教養科目群</b> 数理基礎科目／英語科目／人文社会・情報系教養科目／体育・健康科目 教養科目と専門科目の横断的融合 <b>専門科目群</b>									
<b>【コース別教育】</b>		<b>専門基礎課程</b>				<b>専門応用課程</b>					
Space and Architectural Design Course	<b>【SA】</b>	<b>建築専門基礎科目</b> [1級建築士受験要件に対応] 学科共通科目 / コース専用科目 学科共通 設計・演習科目 コース専用 設計・演習科目				<b>建築専門応用科目</b> 学科共通科目 / コース専用科目 プロジェクトゼミ 卒業研究 コースに関係なく全研究室から選択可能				<b>建築学科研究室</b> 建築デザインスタジ 建築計画 都市デザイン 都市計画 建築史 建築環境設備 建築構造 建築材料 建築生産 プロジェクトデザイン	就職・留学等 大学院進学
	Urban and Architectural Design Course	<b>【UA】</b>	<b>建築専門基礎科目</b> [1級建築士受験要件に対応] 学科共通科目 / コース専用科目 学科共通 設計・演習科目 コース専用 設計・演習科目				<b>建築専門応用科目</b> 学科共通科目 / コース専用科目 プロジェクトゼミ 卒業研究 コースに関係なく全研究室から選択可能				就職・留学等 大学院進学
Advanced Project Design Course	<b>【AP】</b>	<b>建築専門基礎科目</b> [1級建築士受験要件に対応] 学科共通科目 / コース専用科目 学科共通 設計・演習科目 コース専用 設計・演習科目 プロジェクト科目				<b>建築専門応用科目</b> 学科共通科目 / コース専用科目 プロジェクトゼミ 卒業研究 コースに関係なく全研究室から選択可能				就職・留学等 大学院進学 6年一貫教育 推奨	
<b>【グローバル推進科目】</b> 海外建築研修／国際プロジェクト／建築実習(韓国・フランス・イタリア・ロシア)／海外英語研修											

【資料2】

建築学部学習・教育到達目標

建築学部建築学科 学習・教育到達目標	1年		2年				3年				4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1. 人々の生活や社会の発展に寄与する建築文化を創造するための教養や思考力を身につけ、建築の技術や方法論を適切に使うことができる	居住空間史	デザイン史	住生活論	西洋建築史	建築史	日本建築史	近代建築作家論	近代建築と技術	建築文化史	近代建築史	卒業研究		
2. 建築が社会生活や自然環境に及ぼす影響や効果を理解し、専門家としての倫理を遵守・実践することができる	建築デザイン入門	建築環境工学1	建築環境工学2				都市環境設備計画	建築法規	建築防災 都市防災計画	建築・都市法規	建築家職能論	卒業研究	
3. 自然科学や人文社会科学に関する知識を援用して、建築にかかわるさまざまな事象を論理的に説明することができる	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造計画	建築構造解析・演習		建築振動解析	鉄筋コンクリート造の設計1	基礎構造	鉄筋コンクリート造の設計2	卒業研究		
数理基礎科目													
4. 建築設計や建築技術に関する体系的な専門知識を身につけ、それらに応用することができる	建築デザイン入門	建築デザイン基礎1	都市建築デザイン演習1	空間建築デザイン演習1	空間建築デザイン演習2	都市建築デザイン演習2	空間建築デザイン演習3	都市建築デザイン演習3	空間建築デザイン演習4	都市建築デザイン演習4	ランドスケープ論	空間地域デザイン演習	建築家職能論
	力学の基礎		建築デザイン基礎2	建築スタジオ演習1	建築スタジオ演習2	建築計画1	建築スタジオ演習3	建築設計論	建築スタジオ演習4	都市地域デザイン演習	空間保全再生計画 維持保全・改修	建築計画2	卒業研究
			建築の形態と空間	建築ものづくり	建築設計計画論	CAD・CG演習	都市建築論	地域設計論	空間情報デザイン演習	近代建築と技術	都市開発マネジメント	建築・都市法規	
			建築環境工学1	構造力学・演習	材料力学・演習	建築環境工学2	地域マネジメント	建築構法	近代建築作家論	建築構法計画論	施工計画・管理	都市防災計画	
					構造材料	建築構造計画	木造建築	建築環境心理学	建築法規	都市住宅論	木造建築の設計	建築経済	
					都市地域計画		色彩・素材論	BIM演習1	都市デザイン論	建築生産	GIS演習	建築構工法2	
							建築設備	建築構造解析・演習	建築プロジェクトマネジメント	BIM演習2	建築音響計画	給排水システム計画	
							仕上げ材料		建築構工法1	空調システム計画	光環境計画	基礎構造	
									都市環境設備計画	建築振動解析	鉄筋コンクリート造の設計2	マトリックス構造解析	
									鉄筋コンクリート造の設計1	鋼構造の設計	建築防災	プロジェクトゼミ	
5. 豊富な教養と専門知識を統合、駆使して、種々の制約条件や解決すべき課題を整理・分析し、合理的な方法によって建築をデザインすることができる			空間建築デザイン演習1	都市建築デザイン演習1	空間建築デザイン演習2	都市建築デザイン演習2	空間建築デザイン演習3	都市建築デザイン演習3	空間建築デザイン演習4	都市建築デザイン演習4	空間地域デザイン演習	プロジェクトゼミ	卒業研究
			建築スタジオ演習1		建築スタジオ演習2		建築スタジオ演習3		建築スタジオ演習4	都市地域デザイン演習			
人文社会・情報系教養科目／数理基礎科目													
6. グローバルに活躍できるさまざまな能力を身につけ、自分の意見や提案、情報を相手に論理的に伝えることができると同時に、他者の考えを理解し尊重することができる							海外建築研修		韓国建築実習A・B	フランス建築実習A・B	イタリア建築実習A・B	ロシア建築実習A・B	卒業研究
											建築英語	プロジェクトゼミ	
国際プロジェクトA・B													
国際インターンシップ1・2													
外国語科目													
7. 課題の発見・解決のために自ら継続して学習・探求することができる				プロジェクト研究1			海外建築研修	プロジェクト研究2	韓国建築実習A・B	フランス建築実習A・B	イタリア建築実習A・B	ロシア建築実習A・B	卒業研究
									プロジェクト研究3		プロジェクトゼミ		
国内プロジェクト1・2・3・4・5													
国際プロジェクトA・B													
国際インターンシップ1・2													
8. 与えられた制約の下で問題解決に向けた計画を立案し、それを実践することができる				プロジェクト研究1			プロジェクト研究2		プロジェクト研究3	建築環境実験	プロジェクトゼミ		卒業研究
									建築材料施工実験	建築材料構造実験			
									建築構造実験				
国内プロジェクト1・2・3・4・5													
国際プロジェクトA・B													
国際インターンシップ1・2													
9. チームの中で自分と他者の役割を理解し、互いの意思疎通を図りながらチームの目標のために行動することができる				プロジェクト研究1			海外建築研修	プロジェクト研究2	韓国建築実習A・B	フランス建築実習A・B	イタリア建築実習A・B	ロシア建築実習A・B	卒業研究
									プロジェクト研究3	建築環境実験	プロジェクトゼミ		
									建築材料施工実験	建築材料構造実験			
								建築構造実験					
国内プロジェクト1・2・3・4・5													
国際プロジェクトA・B													
国際インターンシップ1・2													
体育・健康科目													

【資料3】履修モデル(意匠設計)

必修科目

科目分野	1年次		2年次		3年次		4年次							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
<b>1[共通・教養科目群]</b>														
数理基礎科目	6単位		2単位											
外国語科目	6単位		2単位											
人文社会・情報系 教養科目	4単位		4単位		2単位		2単位							
体育・健康科目	1単位		1単位		1単位		1単位							
<b>2[専門科目群【建築学科専門共通科目】]</b>														
建築総合						プロジェクトゼミ	2	卒業研究	4					
						建築英語	2							
設計・演習	建築デザイン基礎1	2	建築デザイン基礎2	2	CAD・CG演習	2								
設計・計画	建築デザイン入門	2	建築の形態と空間	2	住生活論	2	建築環境心理学	2						
						色彩・素材論	2							
都市・地域				都市地域計画	2									
建築史	居住空間史	2	デザイン史	2		日本建築史	2	③						
環境・設備		建築環境工学1	2	建築環境工学2	2	建築設備	2	空調システム計画	2					
								建築音響計画	2					
								都市環境設備計画	2					
								給排水システム計画	2					
								光環境計画	2					
構造	力学の基礎	2	構造力学・演習	3		建築振動解析	2	基礎構造	2					
						鉄筋コンクリート造の設計1	2	鉄筋コンクリート造の設計2	2					
						鋼構造の設計	2	マトリックス構造解析	2					
								建築防災	2					
材料				構造材料	2									
実験						建築環境実験	2	②						
集中講義	国内プロジェクト1	1	国内プロジェクト2	1	国内プロジェクト1・3	1	国内プロジェクト2・4	1	国内プロジェクト1・3	1	4年間で 3単位			
	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1		国際プロジェクト2	1	
							国際インターンシップ1	1	国際インターンシップ2	1	国際インターンシップ1	1	国際インターンシップ2	1
						海外建築実習	2	韓国建築実習A・B	2	イタリア建築実習A・B	2			
							フランス建築実習A・B	2	ロシア建築実習A・B	2		4年間で 6単位		
<b>A[専門科目群【建築学科 空間・建築デザインコース】]</b>														
設計・演習		空間建築デザイン演習1	2	空間建築デザイン演習2	2	空間建築デザイン演習3	2	空間建築デザイン演習4	2					
設計・計画			建築設計計画論	2	建築設計論	2	近代建築と技術	2	ランドスケープ論	2	建築家職能論	2		
						建築法規	2							
都市・地域				地域設計論	2	都市住宅論	2							
建築史				建築史	2			建築文化史	2					
構法・生産				建築構法	2	建築生産	2	施工計画・管理	2	共通科目①と合わせた科目の中から 6単位取得				
								木造建築の設計	2					
実験						建築材料施工実験	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得						
						建築構造実験	2							
<b>B[専門科目群【建築学科 都市・建築デザインコース】]</b>														
設計・演習		都市建築デザイン演習1	2	都市建築デザイン演習2	2	都市建築デザイン演習3	2	都市建築デザイン演習4	2					
設計・計画			建築計画1	2	都市建築論	2	近代建築作家論	2	建築計画2	2				
								建築・都市法規	2					
都市・地域	共通科目③と合わせた科目の中から2単位取得			地域マネジメント	2	都市デザイン論	2	都市開発マネジメント	2					
建築史			西洋建築史	2				近代建築史	2					
構法・生産		建築ものづくり	2		木造建築	2	建築プロジェクトマネジメント	2	建築経済	2	共通科目①と合わせた科目の中から 6単位取得			
							建築構工法1	2	建築構工法2	2				
実験						建築材料構造実験	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得						
(集中講義科目を除く)	1年次		2年次		3年次		4年次							
空間・建築 デザインコース	38単位		39単位		29単位		9単位		115単位					
	1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + A建築学科 空間・建築デザインコース科目													
都市・建築 デザインコース	40単位		39単位		29単位		7単位		115単位					
	1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + B建築学科 都市・建築デザインコース科目													
集中講義科目									9単位					
総計									124単位					

【資料4】履修モデル(構造設計・施工管理)

必修科目

科目分野	1年次		2年次		3年次		4年次				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
<b>1[共通・教養科目群]</b>											
数理基礎科目	6単位		4単位								
外国語科目	6単位		2単位								
人文社会・情報系 教養科目	4単位		4単位		2単位		2単位				
体育・健康科目	1単位		1単位		1単位		1単位				
<b>2[専門科目群【建築学科専門共通科目】]</b>											
建築総合							プロジェクトゼミ	2	卒業研究	4	
							建築英語	2			
設計・演習	建築デザイン基礎1	2	建築デザイン基礎2	2	CAD・CG演習	2					
設計・計画	建築デザイン入門	2	建築の形態と空間	2	住生活論	2					
都市・地域					都市地域計画	2					
建築史	居住空間史	2			日本建築史		2	②			
構法・生産					BIM演習1	2	BIM演習2	2			
環境・設備			建築環境工学1	2	建築設備	2	空調システム計画	2	建築音響計画	2	
							都市環境設備計画	2	給排水システム計画	2	
									光環境計画	2	
構造	力学の基礎	2	構造力学・演習	3	材料力学・演習	3	建築構造解析・演習	3	建築振動解析	2	
					建築構造計画	2			基礎構造	2	
							鉄筋コンクリート造の設計1	2	鉄筋コンクリート造の設計2	2	
							鋼構造の設計	2	マトリックス構造解析	2	
材料					構造材料	2	仕上げ材料	2			
									維持保全・改修	2	
実験							建築環境実験	2	①		
集中講義	国内プロジェクト1	1	国内プロジェクト2	1	国内プロジェクト1・3	1	国内プロジェクト2・4	1	国内プロジェクト1・3	1	
	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	
							国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	
							国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	
						国際インターンシップ1	1	国際インターンシップ2	1	国際インターンシップ1	1
						国際インターンシップ2	1	国際インターンシップ1	1	国際インターンシップ2	1
						海外建築実習	2	韓国建築実習A・B	2	イタリア建築実習A・B	2
								フランス建築実習A・B	2	ロシア建築実習A・B	2
<b>A[専門科目群【建築学科 空間・建築デザインコース】]</b>											
設計・演習			空間建築デザイン演習1	2	空間建築デザイン演習2	2	空間建築デザイン演習3	2			
設計・計画					建築設計計画論	2			建築構法計画論	2	
								建築法規	2		
構法・生産					建築構法	2	建築生産	2	施工計画・管理	2	
実験							建築材料施工実験	2	共通科目①と合わせた科目の中から2単位取得		
							建築構造実験	2	共通科目①と合わせた科目の中から2単位取得		
<b>B[専門科目群【建築学科 都市・建築デザインコース】]</b>											
設計・演習			都市建築デザイン演習1	2	都市建築デザイン演習2	2	都市建築デザイン演習3	2			
設計・計画					建築計画1	2			建築計画2	2	
									建築・都市法規	2	
建築史					西洋建築史	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得				
構法・生産			建築ものづくり	2			木造建築	2	建築プロジェクトマネジメント	2	
実験									建築材料構造実験	2	
								共通科目①と合わせた科目の中から2単位取得			
<b>(集中講義科目を除く)</b>											
空間・建築 デザインコース	36単位		41単位		35単位		7単位		119単位		
1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + A建築学科 空間・建築デザインコース科目											
都市・建築 デザインコース	38単位		43単位		31単位		7単位		119単位		
1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + B建築学科 都市・建築デザインコース科目											
集中講義科目									5単位		
総計									124単位		

【資料5】履修モデル(行政・まちづくりプランナー)

必修科目

科目分野	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>1[共通・教養科目群]</b>								
数理基礎科目	6単位		2単位					
外国語科目	6単位		2単位					
人文社会・情報系 教養科目	4単位		4単位		2単位		2単位	
体育・健康科目	1単位		1単位		1単位		1単位	

**2[専門科目群【建築学科専門共通科目】]**

建築総合						プロジェクトゼミ	2	卒業研究		4		
						建築英語	2					
設計・演習	建築デザイン基礎1	2	建築デザイン基礎2	2	CAD・CG演習	2						
設計・計画	建築デザイン入門	2	建築の形態と空間	2	住生活論	2	建築環境心理学	2				
都市・地域			都市地域計画		2							
建築史	居住空間史	2	デザイン史	2	日本建築史		2	③				
構法・生産					BIM演習1	2	BIM演習2	2				
環境・設備			建築環境工学1	2	建築環境工学2	2	建築設備	2	空調システム計画	2	}	
							都市環境設備計画	2	給排水システム計画	2		
									光環境計画	2		
構造	力学の基礎	2	構造力学・演習	3			建築振動解析	2	基礎構造	2	}	
							鉄筋コンクリート造の設計1	2	鉄筋コンクリート造の設計2	2		
							鋼構造の設計	2	マトリックス構造解析	2		
									建築防災	2		
材料			構造材料		2			維持保全・改修	2			
実験							建築環境実験	2	②			
集中講義	国内プロジェクト1	1	国内プロジェクト2	1	国内プロジェクト1・3	1	国内プロジェクト2・4	1	国内プロジェクト1・3	1	4年間で 3単位	
	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1		
							国際インターンシップ1	1	国際インターンシップ2	1	国際インターンシップ1	1
							海外建築実習	2	韓国建築実習A・B	2	イタリア建築実習A・B	2
								フランス建築実習A・B	2	ロシア建築実習A・B	2	4年間で 4単位

**A[専門科目群【建築学科 空間・建築デザインコース】]**

設計・演習		空間建築デザイン演習1	2	空間建築デザイン演習2	2	空間建築デザイン演習3	2	空間建築デザイン演習4	2	空間地域デザイン演習	2
設計・計画				建築設計計画論	2	建築設計論	2	建築法規	2	ランドスケープ論	2
都市・地域						地域設計論	2	都市住宅論	2		
建築史						建築史	2				
構法・生産						建築構法	2	建築生産	2	施工計画・管理	2
										木造建築の設計	2
実験								建築材料施工実験	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得	
								建築構造実験	2		

**B[専門科目群【建築学科 都市・建築デザインコース】]**

設計・演習		都市建築デザイン演習1	2	都市建築デザイン演習2	2	都市建築デザイン演習3	2	都市建築デザイン演習4	2		
								都市地域デザイン演習	2		
設計・計画				建築計画1	2	都市建築論	2			建築計画2	2
										建築・都市法規	2
都市・地域						地域マネジメント	2	都市デザイン論	2	都市開発マネジメント	2
										都市防災計画	2
建築史				西洋建築史	2						
構法・生産								建築プロジェクトマネジメント	2	建築経済	2
								建築構工法1	2	建築構工法2	2
実験								建築材料構造実験	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得	

(集中講義科目を除く)	1年次	2年次	3年次	4年次	
空間・建築 デザインコース	38単位	39単位	33単位	7単位	117単位
1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + A建築学科 空間・建築デザインコース科目					
都市・建築 デザインコース	38単位	37単位	35単位	7単位	117単位
1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + B建築学科 都市・建築デザインコース科目					

集中講義科目	7単位
--------	-----

総計	124単位
----	-------

【資料6】履修モデル(環境・設備設計)

科目分野	必修科目							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>1[共通・教養科目群]</b>								
数理基礎科目	6単位		2単位					
外国語科目	6単位		2単位					
人文社会・情報系 教養科目	4単位		4単位		2単位		2単位	
体育・健康科目	1単位		1単位		1単位		1単位	
<b>2[専門科目群【建築学科専門共通科目】]</b>								
建築総合					プロジェクトゼミ 2		卒業研究 4	
					建築英語 2			
設計・演習	建築デザイン基礎1 2	建築デザイン基礎2 2	CAD・CG演習 2					
設計・計画	建築デザイン入門 2	建築の形態と空間 2	住生活論 2	建築環境心理学 2				
都市・地域			都市地域計画 2					
建築史	居住空間史 2	デザイン史 2	日本建築史 2		②			
構法・生産			BIM演習1 2					
環境・設備	建築環境工学1 2		建築環境工学2 2	建築設備 2	空調システム計画 2	建築音響計画 2	} 8単位取得	
					都市環境設備計画 2	給排水システム計画 2		
						光環境計画 2		
構造	力学の基礎 2	構造力学・演習 3	材料力学・演習 3	建築構造解析・演習 3	建築振動解析 2	基礎構造 2	} 6単位取得	
			建築構造計画 2		鉄筋コンクリート造の設計1 2	鉄筋コンクリート造の設計2 2		
					鋼構造の設計 2	マトリックス構造解析 2		
材料			構造材料 2					
実験					建築環境実験 2	①		
集中講義	国内プロジェクト1 1	国内プロジェクト2 1	国内プロジェクト1・3 1	国内プロジェクト2・4 1	国内プロジェクト1・3 1			4年間で 3単位
	国際プロジェクト1 1	国際プロジェクト2 1	国際プロジェクト1 1	国際プロジェクト2 1	国際プロジェクト1 1	国際プロジェクト2 1	国際プロジェクト1 1	
					国際インターンシップ1 1	国際インターンシップ2 1	国際インターンシップ1 1	国際インターンシップ2 1
					海外建築実習 2	韓国建築実習A・B 2	イタリア建築実習A・B 2	
				フランス建築実習A・B 2	ロシア建築実習A・B 2			4年間で 2単位
<b>A[専門科目群【建築学科 空間・建築デザインコース】]</b>								
設計・演習	空間建築デザイン演習1 2		空間建築デザイン演習2 2	空間建築デザイン演習3 2				
設計・計画			建築設計計画論 2	建築設計論 2	建築法規 2			
構法・生産			建築構法 2		建築生産 2	施工計画・管理 2		
実験					建築材料施工実験 2	共通科目①と合わせた科目の中から2単位取得		
					建築構造実験 2			
<b>B[専門科目群【建築学科 都市・建築デザインコース】]</b>								
設計・演習	都市建築デザイン演習1 2		都市建築デザイン演習2 2	都市建築デザイン演習3 2				
設計・計画			建築計画1 2	都市建築論 2	建築・都市法規 2			
建築史			西洋建築史 2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得				
構法・生産	建築ものづくり 2				建築プロジェクトマネジメント 2	建築経済 2		
実験					建築材料構造実験 2	共通科目①と合わせた科目の中から2単位取得		
(集中講義科目を除く)	1年次		2年次		3年次		4年次	
空間・建築 デザインコース	38単位		43単位		31単位		7単位	
1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + A建築学科 空間・建築デザインコース科目								
都市・建築 デザインコース	40単位		43単位		29単位		7単位	
1共通・教養科目群 + 2建築学科専門共通科目 + B建築学科 都市・建築デザインコース科目								
集中講義科目								5単位
総計								124単位

【資料7】履修モデル(大学院進学・プロジェクトをベースとした起業・組織の設立)

必修科目

科目分野	1年次		2年次		3年次		4年次				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
<b>1【共通・教養科目群】</b>											
数理基礎科目	6単位		2単位								
外国語科目	6単位		2単位								
人文社会・情報系 教養科目	4単位		4単位		2単位		2単位				
体育・健康科目	1単位		1単位		1単位		1単位				
<b>2【専門科目群【建築学科専門共通科目】】</b>											
建築総合					プロジェクトゼミ		2	卒業研究		4	
設計・演習	建築デザイン基礎1	2	建築デザイン基礎2	2	CAD・CG演習	2					
設計・計画	建築デザイン入門	2	建築の形態と空間	2							
都市・地域			都市地域計画		2						
建築史	居住空間史	2	デザイン史	2	日本建築史		2	③			
環境・設備			建築環境工学1	2	建築設備	2	空調システム計画	2	建築音響計画	2	
							都市環境設備計画	2	給排水システム計画	2	
								光環境計画	2		
構造	力学の基礎	2	構造力学・演習	3			建築振動解析	2	基礎構造	2	
							鉄筋コンクリート造の設計1	2	鉄筋コンクリート造の設計2	2	
							鋼構造の設計	2	マトリックス構造解析	2	
									建築防災	2	
材料			構造材料		2			維持保全・改修	2		
実験						建築環境実験	2	②			
集中講義	国内プロジェクト1	1	国内プロジェクト2	1	国内プロジェクト1・3	1	国内プロジェクト2・4	1	国内プロジェクト1・3	1	
	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	国際プロジェクト2	1	国際プロジェクト1	1	
							国際インターンシップ1	1	国際インターンシップ2	1	
					海外建築実習		2	韓国建築実習A・B	2	イタリア建築実習A・B	2
							フランス建築実習A・B	2	ロシア建築実習A・B	2	
<b>A【専門科目群【先進的プロジェクトデザインコース】】</b>											
設計・演習			建築スタジオ演習1	2	建築スタジオ演習2	2	建築スタジオ演習3	2	建築スタジオ演習4	2	
設計・計画			プロジェクト研究1		2	プロジェクト研究2	2	プロジェクト研究3	2	空間保全再生計画	2
<b>ケース1【専門科目群【建築学科 空間・建築デザインコース】の一部授業を受講】</b>											
設計・計画			建築設計計画論	2	建築設計論	2	近代建築と技術	2	ランドスケープ論	2	
都市・地域					地域設計論	2	建築法規		2		
建築史					建築史	2	建築文化史		2		
構法・生産					建築構法	2	建築生産	2	施工計画・管理	2	
									木造建築の設計	2	
実験							建築材料施工実験	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得		
							建築構造実験	2			
<b>ケース2【専門科目群【建築学科 都市・建築デザインコース】の一部授業を受講】</b>											
設計・計画			建築計画1	2	都市建築論	2	近代建築作家論	2	建築計画2	2	
都市・地域					地域マネジメント	2	都市デザイン論	2	都市開発マネジメント	2	
建築史					西洋建築史	2			都市防災計画	2	
構法・生産			建築ものづくり	2	木造建築	2	建築プロジェクトマネジメント	2	建築経済	2	
実験							建築構工法1	2	建築構工法2	2	
							建築材料構造実験	2	共通科目②と合わせた科目の中から2単位取得		
<b>(集中講義科目を除く)</b>											
【ケース1】 先進的 プロジェクトデザインコース	38単位		35単位		33単位		7単位		113単位		
【ケース2】 先進的 プロジェクトデザインコース	40単位		35単位		31単位		7単位		113単位		
集中講義科目											
									11単位		
総計									124単位		

曜日	時限	年次共通			1年次							
		共通:教養科目			専門科目			共通:教養科目				
		人文社会	情報		空間・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	都市・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	先進的プロジェクトデザインコース	数学	物理・化学	英語		
月	1										Listening & Speaking I ホートン 507教室	
	2	ミクロ経済学 長原 407教室	情報リテラン 鈴木 PC実習室1-3						微分積分第1・2 荒川・八島 507教室・508教室		Listening & Speaking I ホートン 514教室	
	3	環境学入門 古郡 407教室	情報リテラン 鈴木 PC実習室1-3						微分積分第1・2 荒川・八島 507教室・510教室			
	4	経済学入門 長原 407教室							線形代数1 森岡・荒川 507教室・510教室			
	5											
火	1	レポート ライティング 河本 505教室			建築デザイン入門 古屋 404教室	建築デザイン入門 柘山 501教室						
	2	レポート ライティング 河本 505教室			力学の基礎 土方・岸田・小澤 404教室	力学の基礎 隈澤・柘山 401教室						
	3				居住空間史 藤澤 401教室	建築デザイン基礎1 清水・川村・菊地・ 佐藤・照沼 製図室						
	4											
	5											
水	1					居住空間史 304教室				基礎環境化学 幡野 401教室		
	2								微分積分第1・2 黒川・加治佐 407教室・508教室	基礎環境化学 柳川 401教室		
	3	現代史 中村 403教室			建築デザイン基礎1 原田・志村・伊藤 製図室				線形代数1 森岡・北條 506教室・508教室			
	4	現代史 中村 403教室							微分積分第1・2 黒川・加治佐 506教室・509教室			
	5											
木	1	アジア文化論 杉浦 406教室								物理学入門 高河原 505教室	Listening & Speaking I 久基・稲田 502教室・503教室	
	2										Listening & Speaking I 稲田・バーナード 408教室・509教室	
	3	福祉と技術 中村・吉本・ 河野・任 502教室	日本国憲法 高橋 405教室	法学入門 本田 406教室							物理学入門 古賀・神谷 505教室・510教室	Listening & Speaking I 久基・バーナード 508教室・509教室
	4	福祉と技術 中村・吉本・ 河野・任 502教室	人間社会と 環境問題 柳下 305教室									
	5	文化人類学 宮下 403教室	技術者の倫理 大西 502教室									
金	1											
	2	生命倫理 皆吉 3401教室	レポート ライティング 西田 4201教室									
	3	生命倫理 皆吉 3401教室	レポート ライティング 西田 4201教室	情報リテラン 鈴木 PC実習室2・3								
		文学論 重信 2305教室	環境学入門 海上 4103教室									
	4	芸術学 真野 403教室	環境学入門 海上 4103教室	情報リテラン 鈴木 PC実習室2・3								
		社会学 岩佐 2205教室	経済学入門 三宅 4201教室									
5		プレゼンテーション入門 春田・鈴木 503教室										
集中 講義							国内プロジェクト1・3					
						国際プロジェクト1						

		年次共通			2年次									
曜日	時限	共通・教養科目			専門科目			共通・教養科目						
		人文社会		情報	空間・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	都市・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	先進的プロジェクトデザインコース	数学	物理・化学	英語	人文社会			
月	1				材料力学・演習 岸田・音 501教室	構造材料 本橋 301教室			微分方程式 野手 405教室					
	2	ミクロ経済学 長原 407教室		情報リテラン 鈴木 PC実習室1-3	材料力学・演習 岸田・音 501教室	西洋建築史 伊藤 製図室			ベクトル解析 野手 405教室				地域社会学 中村 305教室	
	3	環境学入門 古郡 407教室		情報リテラン 鈴木 PC実習室1-3					確率と統計1 森岡・加治佐 403教室・511教室					
	4	経済学入門 長原 407教室			構造材料 演習 501教室	都市建築デザイン演習2 西沢・前田・濱崎・内海・ 納谷・比羅・山路 製図室								
	5				建築設計計画論 郷田 501教室									
火	1	レポート ライティング 河本 505教室			CAD・CG演習 水谷・前田 PC実習室1-3	建築計画1 清水 402教室						TOEIC IA カレンダー 502教室		
	2	レポート ライティング 河本 505教室										Reading IA エバンス 406教室	TOEIC IA カレンダー 502教室	ジェンダー論 中野 407教室
	3										基礎熱統計力学 高河原 505教室	Reading IA エバンス 506教室	Presentation I カレンダー 510教室	
	4					CAD・CG演習 伊藤・瀬山 PC講義室1					基礎熱統計力学 高河原 505教室	TOEIC IA エバンス 503教室	Writing IA カレンダー 506教室	
	5					住生活論 鈴木 304教室								
水	1				建築構造計画 小澤 406教室	都市地域計画 桑田・佐藤 402教室								
	2										確率と統計1 石綿 501教室		現代日本の 地方自治 高木 305教室	
	3	現代史 中村 403教室									ラプラス変換 加治佐 407教室			
	4	現代史 中村 403教室					建築スタジオ演習2 谷口・山代・栃澤 APアトリエ							
	5													
木	1	アジア文化論 杉浦 406教室			建築環境工学2 古屋・村上 402教室・502教室									
	2				都市地域計画 志村 402教室	建築構造計画 隈澤 501教室							民法 本田 406教室	
	3	福祉と技術 中村・吉本・ 河野・任 502教室	日本国憲法 高橋 405教室	法学入門 本田 406教室		材料力学・演習 本橋 501教室								
	4	福祉と技術 中村・吉本・ 河野・任 502教室	人間社会と 環境問題 柳下 305教室		空間建築デザイン演習2 郷田・功刀・小山・ 龍光寺・間宮・須永 製図室	材料力学・演習 本橋 501教室								
	5	文化人類学 宮下 403教室	技術者の倫理 大西 502教室											
金	1												情報アクセシ ビリティ論 中村 502教室	
	2	生命倫理 皆吉 3401教室	レポート ライティング 西田 4201教室										現代日本の 地方自治 高木 4103教室	
	3	生命倫理 皆吉 3401教室	レポート ライティング 西田 4201教室	情報リテラン 鈴木 PC実習室2・3										生産と消費 の環境論 栗島 401教室
		文学論 重信 2305教室	環境学入門 海上 4103教室											映像メディア論 中村 504教室
	4	芸術学 真野 403教室	環境学入門 海上 4103教室	情報リテラン 鈴木 PC実習室2・3										
5														
集中 講義								国内プロジェクト1・3 プロジェクト研究1						
								国際プロジェクト1						



曜日	時限	年次共通			1年次							
		共通・教養科目			専門科目			共通・教養科目				
		人文社会			空間・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	都市・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	先進的プロジェクトデザインコース	数学	物理・化学	英語		
月	1								線形代数1(再履修) 大栗 401教室		Reading & Writing I ホートン・稲田 502教室・503教室	
	2	マクロ経済学 長原 408・409教室							線形代数2 北條・野手 401教室・402教室		English Communication I 稲田 502教室	
	3								微積分第3・4 黒川・小林 401教室・402教室		English Communication I ネヴィン 502教室	
	4	経済学入門 長原 406教室	環境学入門 栗島 408・409教室						微積分第1・2(再履修) 森岡 504教室		English Communication I ネヴィン 502教室	
	5								微積分第3・4 黒川・小林 401教室・402教室		English Communication I ネヴィン 407教室	
火	1	アジア文化論 杉浦 403教室	レポート ライティング 河本 503教室		空間建築デザイン演習1 郷田・原田 製図室	構造力学・演習 隈澤 404教室						
	2	レポートライティング 河本 503教室										
	3				構造力学・演習 土方 406教室	建築デザイン基礎2 蟹澤・高橋・岸本・ 村上・西村・村上 製図室						
	4											
	5											
水	1				建築の形態と空間 堀越 301教室	都市建築デザイン演習1 青島・富永 製図室						
	2	人間社会と環境問題 栗島 407教室			建築環境工学1 秋元・西村 402教室							
	3					建築環境工学1 秋元・西村 403教室						
	4				建築デザイン基礎2 雨・宮越・渡邊 製図室	建築ものづくり 志手 408・409教室						
	5											
木	1									基礎電磁気学 藤崎 508教室	Reading & Writing I バーナー・久慈 502教室・503教室	English Communication I ホートン 504教室
	2	社会学 岩佐 401教室				建築の形態と空間 谷口 301教室				基礎電磁気学演習 藤崎 508教室	Reading & Writing I ホートン・稲田 508教室・514教室	English Communication I 久慈 515教室
	3	日本語書法 高橋 506教室	法学入門 本田 508教室	福祉と技術 中村・吉本・河野・任 502教室		デザイン史 松本 406教室				基礎力学 藤崎 511教室	English Communication I 稲田 515教室	
	4	福祉と技術 中村・吉本・河野・任 502教室							建築スタジオ演習1 谷口・六角・岩瀬 APアトリエ		基礎力学演習 藤崎 511教室	Reading & Writing I バーナー・久慈 503教室・504教室
	5	生命倫理 皆吉 305教室										
金	1	レポートライティング 稲生 4205教室										
	2	生命倫理 皆吉 2402教室										
	3	環境学入門 海上 2203教室	文化人類学 宮下 2202教室							基礎環境化学 幡野 3404教室		
	4	レポート ライティング 稲田 4202教室	生命倫理 皆吉 3301教室									
	5	文学論 重信 404教室	文化人類学 宮下 2202教室	環境学入門 海上 2203教室						基礎環境化学 柳川 2206教室		
土	1											
	2											English Communication I 山下 506教室
	3											English Communication I 久慈 506教室
	4											
	5											
集中 講義								国内プロジェクト2・4				
								国際プロジェクト2				

曜日	時限	年次共通			2年次									
		共通・教養科目			専門科目			共通・教養科目						
		人文社会			空間・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	都市・建築デザインコース 先進的プロジェクトデザインコース	先進的プロジェクトデザインコース	数学	英語	人文社会				
月	1				建築設備 西村 407教室	仕上げ材料 本橋 403教室				関数論 北條 408-409教室				
	2	マクロ経済学 長原 408・409教室			建築設計論 原田・堀越 501教室	日本建築史 伊藤 製図室						地域と環境 栗島 407教室		
	3				空間建築デザイン演習3 郷田・南・原田・堀越・ 河内・松島・猪熊 製図室	建築構造解析・演習 椋山 501教室						地域社会学 中村 406教室	生産と消費の環 境論 栗島 407教室	
	4	経済学入門 長原 406教室	環境学入門 栗島 408・409教室											
	5													
火	1	アジア文化論 杉浦 403教室	レポート ライティング 河本 503教室		地域設計論 志村・前田 406教室	地域マネジメント 佐藤 401教室				TOEIC IB エバンス 502教室	Writing IB カレンダー 505教室			
	2	レポートライティング 河本 503教室			建築構造解析・演習 小澤・渡邊 402教室	木造建築 蟹澤 401教室				TOEIC IB エバンス 408-409教室	Reading IB カレンダー 301教室	ジェンダー論 中野 403教室		
	3					BIM演習1 志手・森・飯田 PC実習室4・5				TOEIC IB エバンス 408-409教室	Reading IB カレンダー 503教室			
	4				BIM演習1 寺澤 PC実習室6					Presentation II エバンス 505教室				
	5													
水	1				色彩・素材論 田嶋 303教室									
	2	人間社会と環境問題 栗島 407教室									確率と統計2 加治佐 408-409教室		現代日本の地方自治 高木 406教室	
	3							建築スタジオ演習3 青島・高橋・大成 APアトリエ				フーリエ解析 加治佐 408-409教室		
	4													
	5													
木	1				建築環境心理学 古賀 501教室									
	2	社会学 岩佐 401教室			建築構法 南 402教室	都市建築論 赤堀 402教室	建築設備 秋元 501教室						情報アクセシビリティ論 中村 502教室	
	3	日本国憲法 高橋 506教室	法学入門 本田 508教室	福祉と技術 中村・吉本・河野・任 502教室	建築史 藤澤 402教室	都市建築デザイン演習3 前田・日笠・笠島・ 八木・土居・上原 製図室								
	4	福祉と技術 中村・吉本・河野・任 502教室			仕上げ材料 濱崎 402教室								比較文化論 宮下 304教室	
	5	生命倫理 皆吉 305教室												比較文化論 宮下 304教室
金	1	レポートライティング 稲生 4205教室									線形代数2 森岡 4107教室		情報時代の地域・都市 中村 304教室	
	2	生命倫理 皆吉 2402教室									微積分分第3・4 加藤 3305教室		現代日本の 地方自治 高木 4103教室	
	3	レポートライティング 稲生 4205教室									微積分分第3・4 加藤 3305教室			
		環境学入門 海上 2203教室	文化人類学 宮下 2202教室					線形代数2 新井 3307教室			線形代数1(再履修) 野手・香川 4107教室・2308教室			
	4	文学論 重信 404教室	文化人類学 宮下 2202教室	環境学入門 海上 2203教室				線形代数2 一島・加藤 3305教室・3307教室			微積分分第3・4 加治佐 2306教室			
	5	芸術学 真野 405教室	経済学入門 三宅 4103教室	映像メディア論 中村 504教室				微積分分第3・4 加治佐 2306教室			微積分分第1・2 大栗 2302教室			
土	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
集中講義								国内プロジェクト2・4 プロジェクト研究2						
					海外建築研修									
					国際プロジェクト2									

曜日	時限	年次共通			3年次			4年次			
		共通・教養科目			専門科目			共通・教養科目			
		人文社会			空間・建築デザインコース	都市・建築デザインコース	先進的プロジェクトデザインコース	人文社会			
			先進的プロジェクトデザインコース	先進的プロジェクトデザインコース				専門科目			
月	1										
	2	マクロ経済学 長原 408・409教室			基礎構造 中井 302教室						
	3				鉄筋コンクリート道の設計2 岸田 405教室			環境経済学 西林 404教室			
	4	経済学入門 長原 406教室	環境学入門 栗島 408・409教室		マトリックス構造解析 岸田 405教室						
	5										
火	1	アジア文化論 杉浦 403教室	レポート ライティング 河本 503教室		維持保全・改修 濱崎・桃山 301教室						
	2	レポートライティング 河本 503教室			建築文化史 藤澤 305教室	都市開発マネジメント 中尾・岡田 304教室					
	3				プロジェクトゼミ 各研究室						
	4										
	5										
水	1				光環境計画 小林 302教室						
	2	人間社会と環境問題 栗島 407教室			建築音響計画 古屋 302教室						
	3				プロジェクトゼミ 各研究室	建築・都市法規 桑田 407教室	プロジェクトゼミ 各研究室				
	4					近代建築史 岩谷 407教室					
	5					都市防災計画 村上 407教室					
木	1				木造建築の設計 渡邊 302教室						
	2	社会学 岩佐 401教室			ランドスケープ論 八色 302教室	建築計画2 清水 406教室					
	3	日本国憲法 高橋 506教室	法学入門 本田 508教室	福祉と技術 中村・吉本・河野・任 502教室	空間地域デザイン演習 志村・篠崎・田邊 SAアトリエ	建築経済 橋本 302教室					
	4	福祉と技術 中村・吉本・河野・任 502教室					プロジェクトゼミ 各研究室				
	5	生命倫理 皆吉 305教室									
金	1	レポートライティング 稲生 4205教室			給排水 システム計画 吉本 301教室			企業システム論 吉沢 407教室			
	2	生命倫理 皆吉 2402教室			建築防災 土方 302教室	建築防災 土方 302教室	空間保全再生計画 野原 504教室	応用経済学 長原 407教室	倫理学 小出 401教室		
	3	レポートライティング 稲生 4205教室									知的財産法 本田 402教室
	3	環境学入門 海上 2203教室	文化人類学 宮下 2202教室		施工計画・管理 河野 304教室	建築構工法2 前田 303教室			地域環境マネジメント 栗島 401教室		
	4	レポート ライティング 稲田 4202教室	生命倫理 皆吉 3301教室								
5	文学論 重信 404教室	文化人類学 宮下 2202教室	環境学入門 海上 2203教室	建築英語 ランビアーシ 304教室							
5	芸術学 真野 405教室	経済学入門 三宅 4103教室	映像メディア論 中村 504教室	GIS演習 村上 PC講義室1					文学表現法 中村 504教室		
土	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
集中講義							イタリア建築実習				国際プロジェクト2
							ロシア建築実習				国際インターンシップ2
					国際プロジェクト2						
					国際インターンシップ2						

# 体育・健康科目時間割

【資料8】

## 大宮校舎

曜日	時限	前期			後期		
		科目名	担当教員	開講場所	科目名	担当教員	開講場所
金	1	ウェルネススポーツ(テクニカル)	三浦玲子	体育館	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	藤城仁音	体育館
		ヘルスリテラシー &スポーツコミュニケーション	浜野学	2208教室	卓球 (スポーツコミュニケーション)	竹内敦	体育館
		身体運動のバイオメカニクス	藤城仁音	4201教室	スポーツ生理学	浜野学	4202教室
	2	バスケットボール(テクニカル)	竹内敦	体育館	バレーボール (スポーツコミュニケーション)	浜野学	体育館
		ウェルネススポーツ(テクニカル)	三浦玲子	体育館	ウェルネススポーツ (スポーツコミュニケーション)	三浦玲子	体育館
		軟式野球(テクニカル)	田口直樹	体育館	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	田口直樹	体育館
		ヘルスリテラシー &スポーツコミュニケーション	浜野学	体育館			
	3	バスケットボール(テクニカル)	竹内敦	体育館	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	竹内敦	体育館
		卓球(テクニカル)	高橋裕美	体育館	卓球 (スポーツコミュニケーション)	高橋裕美	体育館
		フットサル(テクニカル)	田中茂宏	体育館	フラッグフットボール (スポーツコミュニケーション)	田口直樹	体育館
		ヘルスリテラシー &スポーツコミュニケーション	田口直樹	4204教室	サッカー (スポーツコミュニケーション)	田中茂宏	体育館
		ゴルフ(テクニカル)	前田総太郎	体育館	テニス (スポーツコミュニケーション)	奥山慎也	体育館
		テニス(テクニカル)	奥山慎也	体育館			
	4	バスケットボール(テクニカル)	竹内敦	体育館	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	竹内敦	体育館
		卓球(テクニカル)	高橋裕美	体育館	卓球 (スポーツコミュニケーション)	高橋裕美	体育館
		フットサル(テクニカル)	田中茂宏	体育館	フットサル (スポーツコミュニケーション)	田中茂宏	体育館
		ヘルスリテラシー &スポーツコミュニケーション	田口直樹	4204教室	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	田口直樹	体育館
		ゴルフ(テクニカル)	前田総太郎	体育館	テニス (スポーツコミュニケーション)	奥山慎也	体育館
		テニス(テクニカル)	奥山慎也	体育館			

## 豊洲校舎

曜日	時限	前期			後期		
		科目名	担当教員	開講場所	科目名	担当教員	開講場所
金	1	フィットネス-A	石崎聡之	511教室	ヘルスコンディショニング演習	石崎聡之	405教室
	2	ウェルネススポーツ(テクニカル)	生方謙	511教室	フィットネス-B	生方謙	408教室
	3	スポーツ健康学	石崎聡之	404教室	スポーツ健康学	石崎聡之	404教室
		エクササイズ演習(基礎)	生方謙	511教室	エクササイズ演習(応用)	生方謙	510教室
	4	フィットネス-A	三浦玲子	511教室	フィットネス-B	三浦玲子	510教室

## 集中講義

曜日	時限	前期			後期		
		科目名	担当教員	開講場所	科目名	担当教員	開講場所
集中講義		ゴルフ (スポーツコミュニケーション)	浜野学、石崎聡之、生方謙、前田総太郎	学外	スキー (スポーツコミュニケーション)	浜野学、石崎聡之、生方謙、今野廣隆、辻川比呂斗	学外
		ゴルフアドバンス (スポーツコミュニケーション)	浜野学、前田総太郎	学外			

2015年度インターンシップ受け入れ企業・機関一覧	
(株)NAP建築設計事務所	さくら構造(株)
(株)オンザラインパートナーズ	シーラカンスK&H(株)
(株)けやき建築設計	シンヨー(株)
(株)ゴールドクレスト	マウントフジアーキテクトスタジオ 一級建築士事務所
(株)シーラカンスアンドアソシエイツ	伊田テクノス(株)
(株)スピーク	横浜市役所
(株)スペース	乾久美子建設設計事務所
(株)フジタ建装	戸田建設(株)
(株)ヨコソー	佐藤工業(株)
(株)梓設計	埼玉県庁
(株)一条工務店	札幌市役所
(株)山川設計	三井住友建設(株)
(株)山本理顕設計工場	山田建設(株)
(株)秀建	鹿島建設 タイ
(株)新居千秋都市建築設計	鹿島建設(株)
(株)大林組	西松建設(株)
(株)池下設計	積水ハウス(株)
(株)竹中工務店	前田建設工業(株)
(株)日建設計	大成建設(株)
(独)都市再生機構	大東建託(株)
(有)アーキテクチャーラボ	東京都庁
(有)アトリエ・ワン	内藤廣建築設計事務所
(有)オーノJAPAN	日本国土開発(株)
NAWAKENJI-M(株)	菱和設備(株)
SANAA事務所	平田晃久建築設計事務所
YKKAP(株)	北海道庁
イソザキ・アオキアンドアソシエイツ	龍光寺建築設計
高松建設(株)	計55社・機関

建築実習受け入れ大学一覧(授業名)	
ラクイラ大学(イタリア建築実習)	パリ・ベルヴィル建築大学(フランス建築実習)
モスクワ建築大学(ロシア建築実習)	漢陽大学校(韓国建築実習)
	計4大学

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生の確保の見通し

##### ① 定員充足の見込み

芝浦工業大学（以下「本学」という。）は、今後一層激化する大学間競争を勝ち抜き、平成 39 年に迎える創立 100 周年に、教育・研究活動および社会貢献において、名実ともに“理工系私学のトップ”にならんとする目標を掲げている。その実現のための戦略の一環として、平成 29 年度に、現在の工学部建築学科および工学部建築工学科の 2 学科を統合・再編し、豊洲キャンパスに 4 年一貫にて建築教育を展開する「建築学部（建築学科）」（一学部一学科）の設置計画を策定した。「建築学部（建築学科）」は、これまで工学部建築学科、工学部建築工学科が重視してきた実践的な建築技術者育成の伝統を継承しつつ、今後起こりうる建築に対する人々の価値観の変化・多様化に対応できる人材育成を目指している。この学部は、母体となる既設 2 学科の定員合計 200 名に 40 名を加えた 240 名を定員とする。

定員 240 名の充足の見込みについて、全国的に見た工学系分野への入学動向、芝浦工業大学の学生確保の見通し、「建築学部（建築学科）」の母体となる工学部建築学科・工学部建築工学科の極めて高い志願倍率、合格倍率（実質競争倍率）などから、これまでよりもさらに充実した教育を展開する「建築学部（建築学科）」が定員を充足することは十分に可能であると考えている。この様に考える理由については、以下、「②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」にて詳述する。

また学生確保の見通しについては、平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月に第三者機関（一般財団法人 日本開発構想研究所）に依頼し行った「芝浦工業大学建築学部（仮称）の設置に係るアンケート調査報告書」の結果も踏まえている。「②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」に基づき、新たに設置する「建築学部（建築学科）」は、入学定員 240 名を超える入学希望者が見込まれることが想定され、入学定員を 240 名とすることは妥当であり、学生確保の見通しに問題がないと判断している。

##### ② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

ア 全国的に見た工学系分野への入学動向および在学学生構成比

(ア) 工学系分野への入学者数とセンター試験志願者数推移

過去 4 年間のセンター志願者は平成 25 年度の 57 万 3 千人をピークに漸減傾向にあるが、工学系分野への入学者数は平成 24 年度以降、9 万人弱から 9 万 1 千人強へと漸増傾向にあり、極めて安定的に推移している（表 1）。

（表 1）センター志願者における工学系入学者の状況

	工学系入学者	前年比	センター志願者数	前年比
平成 24 年度	89,728 名	-0.5%	555,537 名	-0.6%
平成 25 年度	90,924 名	+1.3%	573,344 名	+3.2%
平成 26 年度	90,376 名	-0.6%	560,672 名	-2.0%
平成 27 年度	91,367 名	+1.1%	559,132 名	-0.3%

※入学者数は、文部科学省学校基本調査・学校調査・大学・大学院「関係学科別大学入学状況（3-1）」（H24-H27）より作成（データは国公立含む）【資料 1】

※センター志願者数は、大学入試センターWEB サイト「志願者数・受験者数等の推移」（サイト URL：<http://www.dnc.ac.jp/data/suii/suii.html>）および「平成 27 年度大学入試センター試験の志願者数（確定）について」（大学入試センター，2016）より引用【資料 2】

(イ) 学部生関係学科別（分野別）構成比の推移

学部学生の分野別の構成比推移について、工学系分野（平成 27 年度 15.2%）は過去 4 年間、社会科学分野（平成 27 年度 32.4%）に次いで 2 位という安定した構成比であり、上記（ア）に記す工学系分野への入学者数と相まって、学部における工学系分野の学生確保は今後も安定して継続するものと考えている（表 2）。

（表 2）全国の大学学部学生の分野別構成比（%）

	人 文	社 会	理 学	工 学	農 学	医 歯 学	薬 学	家 政	教 育	芸 術	そ の 他	計
平成 24 年度	14.8	33.7	3.2	15.2	3.0	2.6	2.9	2.7	7.0	2.8	12.2	100.0
平成 25 年度	14.7	33.1	3.1	15.2	3.0	2.7	2.9	2.8	7.2	2.7	12.6	100.0
平成 26 年度	14.5	32.7	3.2	15.2	3.0	2.7	3.0	2.8	7.3	2.7	12.9	100.0
平成 27 年度	14.4	32.4	3.1	15.2	2.9	2.8	3.0	2.8	7.4	2.7	13.2	100.0

※文部科学省：学校基本調査「Ⅱ 調査結果の概要」（『学校基本調査-平成 27 年度（確定値）結果の概要-』）より作成

【資料 3】

(ウ) 大学院修士課程専攻分野別学生構成比の推移

大学院修士課程における専攻別の構成比推移について見ても、医・歯学分野の特殊性はあるものの、修士課程という高い専門性の学びの中で工学分野は圧倒的に高い構成比（平成 27 年度 41.8%）を示している。これは我が国の産業構造が「ものづくり（工学）」を基幹としており、工学分野において修士課程レベルの教育が求められている証左である。したがって、工学系分野はこれまでも今後も「ものづくり」を支え発展させていく盤石な学びの分野であると言える（表 3）。

（表 3）全国の大学修士課程学生の分野別構成比（%）

	人 文	社 会	理 学	工 学	農 学	医 歯 学	薬 学	家 政	教 育	芸 術	そ の 他	計
平成 24 年度	7.4	10.9	8.5	41.8	5.5	1.0	1.3	0.6	6.3	2.6	14.2	100.0
平成 25 年度	7.1	10.7	8.5	41.5	5.5	1.0	1.3	0.6	6.4	2.6	14.8	100.0
平成 26 年度	7.2	10.4	8.5	41.6	5.4	1.0	1.3	0.6	6.3	2.6	15.0	100.0
平成 27 年度	7.1	10.2	8.5	41.8	5.4	1.0	1.3	0.6	6.2	2.6	15.3	100.0

※文部科学省：学校基本調査「Ⅱ 調査結果の概要」（『学校基本調査-平成 27 年度（確定値）結果の概要-』）より作成

【資料 3】

(エ) 工学系全体の学生確保

上記(ア)から(ウ)に記載する見通しに立つならば、全国レベルでの工学系全体の学生確保について今後何らの不安はなく、むしろ我が国の基幹分野としてより多くの留学生等を受け入れるなど、さらに充実・拡充された形での学びの展開を想定している。

イ 芝浦工業大学の学生確保の見通し

(ア) 設置キャンパスの状況

本学の学部学科は、以下の3つのキャンパスに位置している。「建築学部（建築学科）」は1年次から4年次まで豊洲キャンパスにて学生を受け入れる予定である。

キャンパス名・所在地・最寄駅	学部設置区分
大宮キャンパス 埼玉県さいたま市見沼区深作 307 最寄駅：JR宇都宮線「東大宮」	工学部：1年次～2年次 システム理工学部：全学年 デザイン工学部：1年次～2年次
豊洲キャンパス 東京都江東区豊洲 3-7-5 最寄駅：東京メトロ有楽町線「豊洲」	工学部：3年次～4年次 建築学部（新設予定）：全学年
芝浦キャンパス 東京都港区芝浦 3-9-14 最寄駅：JR山手線・京浜東北線「田町」	デザイン工学部：3年次～4年次

(イ) 一都六県からの進学状況と本学への入学状況（平成24年度～平成27年度）

上表のとおり、本学は3キャンパス構成でいずれも首都圏（内2キャンパスは都心）に立地しており、通学、住まい、アルバイト、キャンパス相互の移動、就職活動など学生生活を送る上で非常に利便性に優れている。

文部科学省および内閣府資料（「18歳人口と高等教育機関への進学率の推移」【資料4】）によると、今後18歳人口が平成28年から平成32年頃までほぼ横ばいで推移し（119万人→117万人）、平成33年ごろから減少（→114万人）することが伝えられている。しかしながら、以下に示すように、本学入学者に占める割合が高い地域は今後も大規模なマーケットであると予想され、本学の立地と相まって継続的な進学ニーズが見込まれる（表4）。

全国の高等学校から大学進学者に占める一都六県からの進学者の比率は4か年平均で約35%である。また本学の一般入試の入学者は、当該地域からの入学者比率が全体の8割近くの状況にある。特に東京都と埼玉県のみで本学入学者全体の半数近くを占め、キャンパスの立地に対応した状況となっている。表4の比率欄によると、全国に占める一都六県各地域からの進学者数の比率順位と、本学入学者数に占める同地域からの入学者数の比率順位がほぼ一致している。このことから、本学は大学進学に高い意欲（実績）を示している地域から安定した志願者を確保しており、将来の18歳人口の減少局面にあっても志願者数が著しく減少する可能性は低いと考えられる。

(表4) 一都六県からの大学進学者(入学者)の状況

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均(名)	比率(%)
全 国	605,390 (1,926)	614,183 (1,776)	608,247 (1,851)	617,507 (1,686)	611,332 (1,810)	100.00 100.00
茨 城	15,199 (95)	14,870 (97)	14,841 (107)	14,934 (67)	14,961 (91)	⑤ 2.45 ⑤ 5.03
栃 木	9,273 (72)	9,507 (66)	9,086 (57)	9,192 (57)	9,264 (63)	⑥ 1.52 ⑥ 3.48
群 馬	9,158 (55)	9,112 (35)	8,968 (46)	9,241 (41)	9,120 (45)	⑦ 1.49 ⑦ 2.49
埼 玉	33,203 (417)	33,695 (354)	32,985 (364)	33,902 (316)	33,446 (363)	③ 5.47 ② 20.06
千 葉	27,620 (216)	28,370 (184)	28,249 (188)	29,206 (187)	28,361 (194)	④ 4.64 ③ 10.72
東 京	74,039 (471)	75,771 (490)	75,157 (486)	76,432 (464)	75,349 (477)	① 12.33 ① 26.35
神奈川	40,289 (171)	41,557 (166)	41,731 (183)	42,984 (193)	41,640 (178)	② 6.81 ④ 9.83
一都六県計	208,781 (1,497)	212,882 (1,392)	211,017 (1,431)	215,891 (1,325)	212,142 (1,411)	34.70 78.00

※上段は全国および一都六県からの進学者数(文部科学省学校基本調査・学校調査・大学・大学院「出身高校の所在地  
県別入学者数(8-1)」(H24-H27)より作成)【資料5】

※( )内は、本学一般入試における入学者数

※比率欄には全国からの進学者数(平均)に占める一都六県の各地域からの大学進学者数(平均)の比率順位、ならび  
に本学入学者数(平均)にしめる一都六県の各地域からの入学者数(平均)の比率順位をマル数字で示した。

#### (ウ) 大学全体の志願状況等からみた学生の確保(過去4年間の状況)

本学の志願者は過去4年間の各年度において、3万4千人を超える安定した志願者を集めており、平成25年度から平成27年度まで3連続で前年度の史上最高の志願者数を  
超える結果となった(ちなみに一般入試における志願者数は平成27年度において全国  
20位)。注目すべきは志願倍率であり、過去4年平均が23倍超(一般入試では約28倍)、  
過去4年間の各年度においても20倍を下回る年度はなく、この数年は「志願者を集めら  
れる大学」として十分な実績を残している。また、この4年間の全入学者に対する推薦  
入試等に占める構成比率平均は33.1%であり、推薦入試に頼らない形での学生募集を実  
現している(表5)。

(表5) 大学全体の志願状況等からみた学生の確保 (過去4年間の状況)

	大学(学部)計	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	過去4年平均
①	入学定員(名)	1,610 (1,310)	1,610 (1,326)	1,610 (1,331)	1,610 (1,321)	1,610 (1,322)
②	志願者数(名)	34,514 (33,880)	37,289 (36,649)	37,976 (37,328)	39,668 (38,972)	37,362 (36,707)
②/①	志願倍率(倍)	21.44 (25.86)	23.16 (27.64)	23.59 (28.05)	24.64 (29.50)	23.21 (27.77)
③	合格者数(名)	8,903 (8,320)	8,051 (7,438)	9,581 (8,981)	9,219 (8,564)	8,939 (8,326)
②/③	合格倍率(倍)	3.88 (4.07)	4.63 (4.93)	3.96 (4.16)	4.30 (4.55)	4.18 (4.41)
④	全入学者数(名)	1,945 (1,368)	1,792 (1,186)	1,862 (1,275)	1,713 (1,066)	1,828 (1,224)
②/④	入学倍率(倍)	17.74 (24.77)	20.81 (30.9)	20.40 (29.28)	23.16 (36.56)	20.44 (29.99)
⑤	推薦入学者数(名)	577	606	587	647	604
	構成比率(%)	29.7	33.8	31.5	37.8	33.1
④/①	全体超過率(倍)	1.21	1.11	1.16	1.06	1.14

※①から④までの上段は推薦等を含む全体値、()内は一般入試の値

※⑤推薦入学者数は指定校推薦、併設推薦、特別入試等の合計

※⑤推薦入学者数の下段は、全入学者に占める構成比率(%)

#### (エ) 他大学の平成27年度入試の状況

平成27年度入試の状況について同系分野の他大学と比較する場合、本学の志願者倍率は29.50倍であり、極めて高い状況にある(表6)。

(表6) 他大学の平成27年度入試の状況

		工学院	東京電機	東京都市	東京理科	明治	本学
①	募集定員(名)	1,065	1,496	1,067	2,762	4,715	1,321
②	志願者数(名)	17,725	22,279	16,580	52,108	105,702	38,972
②/①	志願倍率(倍)	16.64	14.89	15.54	18.87	22.42	29.50
③	合格者数(名)	2,944	5,242	5,135	16,437	24,909	8,564
②/③	合格倍率(倍)	6.02	4.25	3.23	3.17	4.24	4.55

※各大学WEBサイトより作成(AO入試・公募推薦・特別入試等を除く一般入試・センター試験利用入試の実績)

- ・工学院大学：[http://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/past\\_result/](http://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/past_result/)
- ・東京電機大学：<http://web.dendai.ac.jp/nyushi-net/nyushi-data/>
- ・東京都市大学：<http://www.tcu.ac.jp/entrance/data/index.html>
- ・東京理科大学：<http://www.tus.ac.jp/admis/data/>
- ・明治大学：<http://www.meiji.ac.jp/exam/information/data/index.html>

ウ 「建築学部（建築学科）」の学生確保の見通し

(ア) 工学部建築学科の志願者数等推移

「建築学部（建築学科）」の母体となる工学部建築学科の志願者数は、この4年間所謂「隔年現象」は見られず、右肩上がりにその数を伸ばし、平成27年度には全志願者数で3千人超、一般入試の志願倍率では36.29倍を超える人気学科となっている（表7・過去4年平均の一般入試志願倍率は31.33倍）。また、推薦入学者が占める割合は過去4年間の平均は24.8%と低い値で、学生募集は一般入試に大きく負担がかかる状況となっているが、多数の志願者に支えられ、合格倍率（実質競争率）は4年平均で5.20倍と高い水準を保っている。

（表7）工学部建築学科の志願者数等推移

	建築学科	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	過去4年平均
①	入学定員(名)	100 (82)	100 (82)	100 (82)	100 (82)	100 (82)
②	志願者数(名)	2,174 (2,144)	2,461 (2,435)	2,748 (2,719)	3,023 (2,976)	2,602 (2,569)
②/①	志願倍率(倍)	21.74 (26.15)	24.61 (29.70)	27.48 (33.16)	30.23 (36.29)	26.02 (31.33)
③	合格者数(名)	530 (502)	458 (434)	620 (596)	488 (445)	524 (494)
②/③	合格倍率(倍)	4.10 (4.27)	5.37 (5.61)	4.43 (4.56)	6.19 (6.69)	4.97 (5.20)
④	入学者数(名)	127 (100)	102 (79)	128 (105)	102 (61)	115 (86)
②/④	入学倍率(倍)	17.12 (21.44)	24.13 (30.82)	21.47 (25.90)	29.64 (48.79)	22.63 (29.87)
⑤	推薦入学者数(名) 構成比率(%)	27 21.3	23 22.5	23 18.0	41 40.2	29 24.8
④/①	全体超過率(倍)	1.27	1.02	1.28	1.02	1.15

※①から④までの上段は推薦等を含む全体値、()内は一般入試の値

※⑤推薦入学者数は指定校推薦、併設校推薦、特別入試等の合計

※⑤推薦入学者数の下段は、全入学者に占める構成比率(%)

(イ) 工学部建築工学科の志願者数等推移

「建築学部（建築学科）」の母体となる工学部建築工学科は、その名称のとおり学びの分野・内容が前述の建築学科と類似する学科である。建築学科が学びの分野をイメージしやすい学科名称であるだけに、これまで建築工学科は志願者数において建築学科に後れをとってきたが、本学科も従来から安定した志願者を集めている。平成24年度までは1,700名前後の志願者で推移していたが、平成25年度から大きくその数を伸ばし、平成27年度は全志願者数で2,384名、同年度の一般入試における志願倍率は28.51倍という高い人気となった（表8・過去4年間の一般入試の志願倍率は23.65倍）。本学科も建築学科と同様、過去4年平均の推薦入学者に占める割合が27.6%と低く、やはり学生募集は一般入試が中心であるが、安定した志願者に支えられ、合格倍率は過去4年平均で4.63倍という実績を残している。

(表8) 工学部建築工学科の志願者数等推移

	建築工学科	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	過去 4 年平均
①	入学定員(名)	100 (82)	100 (82)	100 (82)	100 (82)	100 (82)
②	志願者数(名)	1,720 (1,696)	1,939 (1,893)	1,851 (1,829)	2,384 (2,338)	1,974 (1,939)
②/①	志願倍率(倍)	17.20 (20.68)	19.39 (23.09)	18.51 (22.30)	23.84 (28.51)	19.74 (23.65)
③	合格者数(名)	469 (446)	405 (361)	537 (517)	394 (352)	451 (419)
②/③	合格倍率(倍)	3.67 (3.80)	4.79 (5.24)	3.45 (3.54)	6.05 (6.64)	4.38 (4.63)
④	入学者数(名)	115 (92)	117 (73)	124 (105)	104 (63)	115 (83)
②/④	入学倍率(倍)	14.96 (18.43)	16.57 (25.93)	14.93 (17.42)	22.92 (37.11)	17.17 (23.36)
⑤	推薦入学者数(名) 構成比率(%)	23 20.0	44 37.6	19 15.3	41 39.4	32 27.6
④/①	全体超過率(倍)	1.15	1.17	1.24	1.04	1.15

※①から④までの上段は推薦等を含む全体値、()内は一般入試の値

※⑤推薦入学者数は指定校推薦、併設校推薦、特別入試等の合計

※⑤推薦入学者数の下段は、全入学者に占める構成比率(%)

以上、近年は両学科とも一般入試中心の学生募集において、志願者数、志願倍率、合格倍率および入学倍率とも高い実績を残しており、これに都心(豊洲キャンパス)での初の4年間一貫教育ということを加味すると、母体となる工学部建築学科、建築工学科を合わせた現行定員の1.20倍(+40名)においても、安定した学生の確保が十分にできる見通しである。なお、両学科合わせた一般入試のみの過去4年間平均は、志願者数4,508名、志願倍率27.48倍、合格倍率4.94倍、入学倍率26.69倍、推薦入学者の構成比率26.2%である。

#### (ウ) 高校生アンケートによる学生確保の見通し

次に「芝浦工業大学建築学部(仮称)の設置に係るアンケート調査報告書」【資料6】は、本学への入学者が多い東京都、埼玉県、神奈川県を中心に、1都15県の高等学校89校に在籍する高校2年生を対象に実施した。調査方法は、アンケート実施の了承が得られた高等学校に、アンケート用紙を必要部数送付し、各高等学校の教員から調査対象者である高校2年生にアンケート用紙を配付し、その場で回収する方法で実施した。アンケートは、全7問で構成されており、全て選択肢式とした。

結果、85校の協力のもと、7,161名より回答を得ることができ、回収率は95.5%(回答高校数85校÷実施高校数89校)であった。高校卒業後の進路として、大学進学・短期大学進学・専門学校進学を選択した回答者6,704名(アンケート問3)による「芝浦工業大学建築学部建築学科(仮称)」への進学意向を問う設問(アンケート問6)において、「1進学を希望する」を選択した回答の実数は370名であり、「建築学部(建築学科)」への進学希望者は、入学定員240名の約1.54倍と、入学定員を大きく上回る結果となった。

このような限定されたサンプルを対象とした調査においても、入学定員を上回る進学意向が認められることから、学生の確保は十分可能であると判断している。

## (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

### ①オープンキャンパスの実施

例年 8 月、大宮キャンパス 1 日、豊洲キャンパス 2 日間の日程で開催。本学学生スタッフ（約 60 名）が中心となって運営。来場者は 3 日間を通じ例年 9,500 名前後（保護者を含む）学科見学、模擬授業、キャンパスツアー、入試対策講座など。

### ②研究室見学会の実施

例年 10 月、豊洲（工学部）、大宮（システム理工学部）、芝浦（デザイン工学部）の各キャンパスで実施。開放された各学科の研究室を来校者が訪れ、当該教員または大学院生等から学びと研究の説明を受ける。来場者は 3 キャンパス合わせて 350 名前後。

### ③外部業者主催相談会および独自相談会への出向

例年 4 月から 12 月までの間、専門業者が主催する全国主要都市でのブース形式による進学（入試）相談会に参加するほか、本学が独自に企画する相談会開催。平成 27 年度実績は業者と独自を合わせて、のべ 147 会場で実施。

### ④高校説明会および高校訪問への出向

専門業者が仲介する高校における講義形式中心の説明会に参加するほか、全国各地の有力高校に本学教職員（主に入試課員）が出向き、進路指導担当教諭等に大学および入試等の説明を行う。平成 27 年度出向実績は、説明会がのべ 111 校、訪問がのべ 122 校。

### ⑤各種広報媒体を利用した学生募集

#### ア 本学独自の制作媒体

- ・大学案内パンフレット（年度毎作成）：約 10 万部  
→本学への接触者（資料請求者、相談会来訪者等）に広く配布
- ・研究室ガイドブック（年度毎作成）：約 5 万 5 千部  
→主に本学への接触者の二次的資料として配布
- ・本学ホームページ（通年）  
→大学紹介全般のほか、過年度の入試情報および直近の入試情報等について広く情報提供

#### イ 業者企画の各種広報媒体への出稿

以下の媒体を通じ、本学の学部・学科紹介、学びの特徴、学生生活、入試等に関する情報提供のほか、出願意欲促進のためのトピックスを提供する。平成 27 年度実績（出稿回数等）は下記のとおり。

- ・受験ポータルサイト（web）：10 種（10 社）
- ・受験雑誌各誌：76 回
- ・新聞各紙：32 回
- ・ダイレクトメール：3 回（接触者本人と保護者）

## (3) 学生納付金の設定の考え方

「建築学部（建築学科）」については工学部建築学科・工学部建築工学科の再編・統合により設置する学部であり、また既存の校舎等の施設設備を利用する予定であることなどを考慮し、工学部と同額（【1・2 年次】1,382,000 円【3・4 年次】1,482,000 円【4 年間合計】5,728,000 円）を設定する。類似学部・学科を擁する近隣競合校の授業料・学費等と比較すると、「建築学部（建築学科）」の授業料・学費等は若干高い水準にあるが、極端に高額ではない（表 9）。このことから「建築学部（建築学科）」の学生納付金の設定は妥当であり、学生確保に悪影響を及ぼ

すとは考えられない。

(表9) 近隣競合校の類似学部・学科における学費・授業料等金額(平成28年度)

大学	学費・授業料等(入学金等除く)
工学院大学建築学部 建築学科	[1~2年次] 1,378,000円 [3~4年次] 1,458,000円 (授業料4年間合計)5,672,000円
東京都市大学工学部 建築学科	[1~4年次] 1,340,000円 (授業料4年間合計)5,360,000円
明治大学理工学部 建築学科	[1~4年次] 1,531,000円 (授業料4年間合計)6,124,000円
千葉工業大学創造工学部 建築学科	[1年次] 1,350,000円 [2年次]1,380,000円 [3年次]1,410,000円 [4年次]1,440,000円 (授業料4年間合計) 5,580,000円

※各大学WEBサイトより作成

- ・工学院大学：[http://www.kogakuin.ac.jp/campuslife/money/school\\_expenses/index.html](http://www.kogakuin.ac.jp/campuslife/money/school_expenses/index.html)
- ・東京都市大学：<http://www.tcu.ac.jp/entrance/expenses/>
- ・明治大学：[https://www.meiji.ac.jp/suito/copy\\_of\\_nofu2.html](https://www.meiji.ac.jp/suito/copy_of_nofu2.html)
- ・千葉工業大学：<http://www.it-chiba.ac.jp/expense/tuition/>

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

「建築学部(建築学科)」では、母体となる工学部建築学科、建築工学科が開学以来重視してきた実践的な建築技術者教育の伝統を継承しつつ、「工学」、「建築デザイン」そして「幅広い教養」の横断的融合による新たな教育を実践する。そして、広い視野で建築をデザインできる技術と次世代の様々な建築ジャンルにおいて世界で活躍できる素養を持った「建築をベースにした特色ある人材」を育成し、未来の生活空間において避けることのできない建築的課題を解決することを目的とする。

また、これを実現するため、「建築学部(建築学科)」では学生に対して具体的に以下の5つの能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

- ① 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、さまざまな特徴を理解し、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題点を理解できる
- ② 人々の生命や財産に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための倫理観を身につけている
- ③ 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている
- ④ 高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚を身につけている
- ⑤ 豊富な教養と幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる

### (2) 上記(1)が社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

「建築学部(建築学科)」の卒業生は、建築産業、建設産業、住宅産業、建設設備産業、建築設計事務所、建材・部品メーカーなどの建築関連分野において、製品、サービスの企画・開発、設計・施工、維持・管理などの職種に携ることにより活躍することが期待される。また上記に加え、特に先進的プロジェクトコースの卒業後の進路として、建築に関するプロジェクトをベースとした起業・組織の設立を行うことで、社会的な問題を解決することが期待される。

「建築学部(建築学科)」の母体となる工学部建築学科、工学部建築工学科では、設置以来、学科における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、

社会からの高い評価と信頼を得ている。このことはこれらの学科の卒業生の高い就職率に表れており、工学部建築学科における卒業生の就職率は、2012年度 90.3%、2013年度 90.9%、2014年度 95.8%、2015年度 96.5%である。また、工学部建築工学科においては、2012年度 96.1%、2013年度 95.6%、2014年度 96.1%、2015年度 97.4%であった。このことは、本学が育成・輩出した人材が民間企業、官公庁ほか各種団体から確実に評価されていること示している。

「建築学部（建築学科）」の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、母体となる建築学科、建築工学科における卒業生の進路、また社会的な人材需要を十分に勘案したうえで、建築学をベースに多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実する。したがって、これまでと同等もしくはそれ以上の就職率を見込むことができるものと考えている。

「建築学部（建築学科）」の設置にあたり、学生の卒業後の進路や社会の人材需要動向を把握するため、株式会社リクルートホールディングス リクルートワークス研究所が実施している過去5年間の「大卒求人倍率調査」、ならびに「採用見通し調査」を参照した【資料7】【資料8】。

「第32回ワークス大卒求人倍率調査（2016年卒）」によれば、建設業の求人倍率は2012年 4.95倍、2013年 5.32倍、2014年 4.77倍、2015年 5.61倍、2016年 6.18倍であり、年度により微減はあるものの全体として増加傾向にある。また、「ワークス採用見通し調査」（新卒：2013年～2017年）によれば、建設業において各年の新卒を対象とした採用数が「増える」と回答した企業数は「減る」と回答した企業を5年連続で上回っており、建設業界の旺盛な採用意欲が窺える。実際、工学部建築学科への建設業・設備業・設計事務所等に関する求人件数は2012年度 738件、2013年度 823件、2014年度 1000件、2015年度 855件、また、工学部建築工学科への建設業・設備業・設計事務所等に関する求人件数は2012年度 738件、2013年度 822件、2014年度 993件、2015年度 842件であった。こちらも年度により増減が見られるものの全体として増加傾向にある。これらの傾向は、日本全体が急激かつ極端な経済の悪化に直面しない限り今後も続くことが予想され、「建築学部（建築学科）」の卒業生に対する人材需要は今後も安定的であると言える。

以上により、これまでの安定した就職実績、人材需要動向、卒業生への十分な求人数から、定員 240名に対する就職先の確保は可能であると判断する。

**芝浦工業大学 建築学部 建築学科**  
**学生の確保の見通し等を記載した書類**

**資料目次**

- 【資料1】 文部科学省学校基本調査・学校調査・大学・大学院  
「関係学科別大学入学状況（3-1）」（平成24年度～平成27年度）
  
- 【資料2】 大学入試センター  
「平成27年度大学入試センター試験の志願者数(確定)について」  
「志願者数・受験者数等の推移」
  
- 【資料3】 文部科学省学校基本調査「Ⅱ調査結果の概要」  
『学校基本調査－平成27年度（確定値）結果の概要－』
  
- 【資料4】 文部科学省／内閣府  
「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」
  
- 【資料5】 文部科学省学校基本調査・学校調査・大学・大学院  
「出身高校の所在地県別入学者数（8-1）」  
（平成24年度～平成27年度）
  
- 【資料6】 芝浦工業大学建築学部(仮称)の設置に係るアンケート調査報告書
  
- 【資料7】 株式会社リクルートホールディングスリクルートワークス研究所  
「第32回ワークス大卒求人倍率調査（2016年卒）」
  
- 【資料8】 株式会社リクルートホールディングスリクルートワークス研究所  
「ワークス採用見通し調査（新卒：2017年卒）」

1. [書類等の題名]

【資料1】文部科学省学校基本調査・学校調査・大学・大学院「関係学科別大学入学状況（3-1）」  
（平成24年度～平成27年度）

2. [出典]

独立行政法人統計センター

3. [引用範囲]

e-Stat 政府統計の総合窓口「学校基本調査 | 年次統計 | 高等教育機関《報告書掲載集計》  
大学・大学院 | 関係学科別大学入学状況」（平成24年度～平成27年度）

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>

4. [その他の説明]

各資料の年度がわかるよう、先頭に「平成〇〇年度 学校基本調査」を記入した。  
また、資料番号を記入した。

1. [書類等の題名]

【資料2】 大学入試センター

- ① 「平成 27 年度大学入試センター試験の志願者数（確定）について」
- ② 「志願者数・受験者数等の推移」

2. [出典]

独立行政法人大学入試センター

3. [引用範囲]

- ① 独立行政法人大学入試センター「過去のデータ | 過去の試験情報 | 平成 28 年度試験 | 志願者データについて | 志願者数（確定）について

[http://www.dnc.ac.jp/data/shiken\\_jouhou/h28/index.html](http://www.dnc.ac.jp/data/shiken_jouhou/h28/index.html)

- ② 独立行政法人大学入試センター「過去のデータ | 志願者数・受験者数・平均点の推移 | 志願者数・受験者数等の推移」

<http://www.dnc.ac.jp/data/suii/suii.html>

4. [その他の説明]

資料番号を記入した。

1. [書類等の題名]

【資料3】文部科学省学校基本調査「Ⅱ調査結果の概要」

『学校基本調査－平成27年度（確定値）結果の概要』

2. [出典]

文部科学省

3. [引用範囲]

文部科学省「白書・統計・出版物 | 統計情報 | 学校基本調査 | 学校基本調査-結果の概要 | 学校基本調査－平成27年度（確定値）結果の概要－」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k\\_detail/1365622.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1365622.htm)

4. [その他の説明]

資料番号を記入した。

1. [書類等の題名]

【資料4】文部科学省／内閣府

「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」

2. [出典]

文部科学省／内閣府

3. [引用範囲]

文部科学省／内閣府「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」

[www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon5/1kai/siryo6-2-7.pdf](http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon5/1kai/siryo6-2-7.pdf)

4. [その他の説明]

資料番号を記入した。

1. [書類等の題名]

【資料5】文部科学省学校基本調査・学校調査・大学・大学院

「出身高校の所在地県別入学者数（8-1）」（平成24年度～平成27年度）

2. [出典]

独立行政法人統計センター

3. [引用範囲]

e-Stat 政府統計の総合窓口「学校基本調査 | 年次統計 | 高等教育機関《報告書掲載集計》

大学・大学院 | 出身高校の所在地県別 入学者数」（平成24年度～平成27年度）

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001066178&cycode=0>

4. [その他の説明]

各資料の年度がわかるよう、先頭に「平成〇〇年度 学校基本調査」を記入した。

また、資料番号を記入した。

芝浦工業大学建築学部（仮称）の設置に係る  
アンケート調査報告書

【高校生対象】

平成 28 年 2 月

一般財団法人 日本開発構想研究所



## 目 次

<アンケート調査概要> .....	1
<芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）進学意向> .....	2
<アンケート回収表> .....	7
<アンケート集計結果> .....	11
単純集計 .....	13
男女別クロス集計 .....	25
<アンケート調査票> .....	31



## ＜アンケート調査概要＞

### 1. アンケート実施の目的

本調査は、「芝浦工業大学建築学部（仮称）の設置に係るアンケート調査」としてアンケート調査票を作成し、高校生に対して芝浦工業大学が設置を検討している建築学部建築学科（仮称）への進学希望について尋ね、学生の確保の見通しを測ることを目的とする。

### 2. 調査対象

東京都から22校、埼玉県から16校、神奈川県から14校、群馬県から6校、千葉県から6校、茨城県から5校、栃木県から5校、宮城県から3校、長野県から3校、山梨県から2校、静岡県から2校、福岡県から2校、福島県から1校、島根県から1校、愛媛県から1校、合計89の高等学校を大学側が選定。平成27年度の高校2年生を対象に実施した。

### 3. 調査実施

平成27年12月～平成28年1月

### 4. 調査方法

各高等学校に郵送による配布・回収

### 5. 回収状況

有効回答票7,161票（85校回収）

回収率95.5%（回答高校数85校÷実施高校数89校）

※小数点第二位を四捨五入

## ＜芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）進学意向＞

高校生アンケートによる「芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）」への進学意向を問う問6の設問において、「1 進学を希望する」を選択した回答の実数は以下の通りである。

問6 あなたは芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）への進学を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。	実数
1 進学を希望する	370人

※問6の設問は、高校卒業後の進路を問う問3の設問において「1、2、3」の高等教育機関への進学を選択した回答者（6,704人）を集計の対象とする。

問6の設問の結果、「芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）」への進学希望者は、入学定員（240人）の約1.54倍と、入学定員を上回る結果となった。

## 〔調査高校ごとの結果〕

次に示すのは、「芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）」への進学希望を問う問6の設問にて、進学意向を示した学生の、高校ごとの内訳となる。

※ 「－」（ハイフン）は回答のなかった高校

（単位：人）

高校名	1 進学を希望する
<b>合計</b>	370
<b>宮城県</b>	
宮城県仙台第一高等学校	0
宮城県石巻高等学校	3
東北学院高等学校	14
<b>福島県</b>	
福島県立平工業高等学校	1
<b>茨城県</b>	
茨城県立土浦第二高等学校	3
茨城県立藤代高等学校	6
茨城県立下館第一高等学校	8
水城高等学校	5
常総学院高等学校	2
<b>栃木県</b>	
栃木県立宇都宮工業高等学校	2
栃木県立栃木高等学校	1
栃木県立足利高等学校	9
栃木県立真岡高等学校	－
宇都宮短期大学附属高等学校	3
<b>群馬県</b>	
群馬県立前橋高等学校	0
群馬県立前橋工業高等学校	0
群馬県立高崎女子高等学校	0
群馬県立高崎工業高等学校	0
高崎市立高崎経済大学附属高等学校	6
東京農業大学第二高等学校	2
<b>埼玉県</b>	
埼玉県立松山高等学校	8
埼玉県立大宮工業高等学校	1
埼玉県立与野高等学校	9
埼玉県立所沢高等学校	11
埼玉県立越谷南高等学校	1
埼玉県立熊谷西高等学校	4
埼玉県立春日部東高等学校	5
埼玉県立杉戸高等学校	6
埼玉県立浦和北高等学校	3

高校名	1 進学を希望する
本庄第一高等学校	3
本庄東高等学校	4
武蔵越生高等学校	1
武南高等学校	10
埼玉栄高等学校	4
獨協埼玉高等学校	—
西武学園文理高等学校	6
<b>千葉県</b>	
千葉県立千葉東高等学校	2
千葉県立船橋東高等学校	2
千葉県立鎌ヶ谷高等学校	0
千葉県立小金高等学校	0
千葉県立柏南高等学校	5
麗澤高等学校	7
<b>東京都</b>	
都立豊多摩高等学校	9
都立深川高等学校	2
山脇学園高等学校	7
京華高等学校	16
順天高等学校	6
成立学園高等学校	7
日本大学第一高等学校	9
足立学園高等学校	9
青稜高等学校	5
朋優学院高等学校	5
日本大学第二高等学校	4
淑徳巣鴨高等学校	5
豊島学院高等学校	9
城北高等学校	7
富士見高等学校	—
八王子学園八王子高等学校	3
拓殖大学第一高等学校	6
明治学院東村山高等学校	2
吉祥女子高等学校	2
昌平高等学校	5
日本大学三島高等学校	2
都立新宿高等学校	0
<b>神奈川県</b>	
神奈川県立鶴見高等学校	9
神奈川県立柏陽高等学校	0
神奈川県立新城高等学校	6
神奈川県立生田高等学校	2
神奈川県立横須賀高等学校	3

高校名	1 進学を希望する
神奈川県立追浜高等学校	0
神奈川県立鎌倉高等学校	2
神奈川県立麻溝台高等学校	5
横浜市立東高等学校	0
関東学院高等学校	8
平塚学園高等学校	6
藤嶺学園藤沢高等学校	13
横浜隼人高等学校	2
桐光学園高等学校	2
<b>山梨県</b>	
山梨県立甲府工業高等学校	5
駿台甲府高等学校	9
<b>長野県</b>	
長野県立須坂高等学校	—
長野県立長野工業高等学校	2
長野県立伊那北高等学校	4
<b>静岡県</b>	
静岡県立浜松西高等学校	4
静岡県立富士東高等学校	3
<b>島根県</b>	
島根県立出雲工業高等学校	0
<b>愛媛県</b>	
愛媛県立松山工業高等学校	2
<b>福岡県</b>	
福岡県立伝習館高等学校	1
福岡大学附属大濠高等学校	5



<アンケート回収表>



## 「芝浦工業大学建築学部（仮称）の設置に係る

## アンケート調査票」 回収表

都道府県	高校 NO	高校名	ナンバリング		回収数	回収日
宮城県	1	宮城県仙台第一高等学校	1,893	1,948	56	12.17
宮城県	2	宮城県石巻高等学校	1,026	1,097	72	12.16
宮城県	3	東北学院高等学校	1,949	2,083	135	12.17
福島県	4	福島県立平工業高等学校	1,098	1,172	75	12.16
茨城県	5	茨城県立土浦第二高等学校	622	700	79	12.15
茨城県	6	茨城県立藤代高等学校	1	63	63	12.14
茨城県	7	茨城県立下館第一高等学校	64	174	111	12.14
茨城県	8	水城高等学校	4,932	5,038	107	12.24
茨城県	9	常総学院高等学校	5,118	5,194	77	12.25
栃木県	10	栃木県立宇都宮工業高等学校	4,092	4,170	79	12.22
栃木県	11	栃木県立栃木高等学校	7,006	7,083	78	1.27
栃木県	12	栃木県立足利高等学校	175	291	117	12.14
栃木県	13	栃木県立真岡高等学校	—	—	—	—
栃木県	14	宇都宮短期大学附属高等学校	2,900	2,971	72	12.18
群馬県	15	群馬県立前橋高等学校	1,173	1,211	39	12.16
群馬県	16	群馬県立前橋工業高等学校	6,492	6,609	118	1.14
群馬県	17	群馬県立高崎女子高等学校	292	369	78	12.14
群馬県	18	群馬県立高崎工業高等学校	5,039	5,077	39	12.24
群馬県	19	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	370	470	101	12.14
群馬県	20	東京農業大学第二高等学校	4,171	4,238	68	12.22
埼玉県	21	埼玉県立松山高等学校	2,084	2,197	114	12.17
埼玉県	22	埼玉県立大宮工業高等学校	6,225	6,295	71	1.14
埼玉県	23	埼玉県立与野高等学校	1,212	1,293	82	12.16
埼玉県	24	埼玉県立所沢高等学校	5,195	5,292	98	12.25
埼玉県	25	埼玉県立越谷南高等学校	2,198	2,273	76	12.17
埼玉県	26	埼玉県立熊谷西高等学校	2,274	2,349	76	12.17
埼玉県	27	埼玉県立春日部東高等学校	1,294	1,419	126	12.16
埼玉県	28	埼玉県立杉戸高等学校	6,296	6,373	78	1.14
埼玉県	29	埼玉県立浦和北高等学校	5,553	5,590	38	1.4
埼玉県	30	本庄第一高等学校	6,160	6,224	65	1.13
埼玉県	31	本庄東高等学校	1,420	1,501	82	12.16
埼玉県	32	武蔵越生高等学校	6,667	6,725	59	1.18
埼玉県	33	武南高等学校	6,726	6,804	79	1.18
埼玉県	34	埼玉栄高等学校	4,604	4,673	70	12.21
埼玉県	35	獨協埼玉高等学校	—	—	—	—
埼玉県	36	西武学園文理高等学校	6,805	6,871	67	1.18
千葉県	37	千葉県立千葉東高等学校	1,502	1,541	40	12.16
千葉県	38	千葉県立船橋東高等学校	2,972	3,051	80	12.18
千葉県	39	千葉県立鎌ヶ谷高等学校	5,078	5,117	40	12.24
千葉県	40	千葉県立小金高等学校	4,239	4,317	79	12.22
千葉県	41	千葉県立柏南高等学校	4,318	4,391	74	12.22
千葉県	42	麗澤高等学校	3,052	3,150	99	12.18
東京都	43	都立豊多摩高等学校	5,293	5,368	76	12.25
東京都	44	都立深川高等学校	2,350	2,426	77	12.17
東京都	45	山脇学園高等学校	5,591	5,677	87	12.25

都道府県	高校 NO	高校名	ナンバリング		回収数	回収日
東京都	46	京華高等学校	5,369	5,454	86	12.25
東京都	47	順天高等学校	7,084	7,161	78	1.21
東京都	48	成立学園高等学校	5,678	5,715	38	1.4
東京都	49	日本大学第一高等学校	3,151	3,288	138	12.18
東京都	50	足立学園高等学校	6,610	6,666	57	1.15
東京都	51	青稜高等学校	2,427	2,497	71	12.17
東京都	52	朋優学院高等学校	5,716	5,778	63	1.4
東京都	53	日本大学第二高等学校	471	546	76	12.14
東京都	54	淑徳巣鴨高等学校	701	781	81	12.15
東京都	55	豊島学院高等学校	782	969	188	12.15
東京都	56	城北高等学校	4,392	4,603	212	12.22
東京都	57	富士見高等学校	—	—	—	—
東京都	58	八王子学園八王子高等学校	6,872	7,005	134	1.18
東京都	59	拓殖大学第一高等学校	6,076	6,159	84	1.12
東京都	60	明治学院東村山高等学校	3,289	3,326	38	12.18
東京都	61	吉祥女子高等学校	2,498	2,623	126	12.17
神奈川県	62	神奈川県立鶴見高等学校	3,794	4,091	298	12.22
神奈川県	63	神奈川県立柏陽高等学校	5,779	5,853	75	1.4
神奈川県	64	神奈川県立新城高等学校	2,624	2,690	67	12.17
神奈川県	65	神奈川県立生田高等学校	3,715	3,793	79	12.22
神奈川県	66	神奈川県立横須賀高等学校	1,542	1,620	79	12.16
神奈川県	67	神奈川県立追浜高等学校	3,327	3,357	31	12.18
神奈川県	68	神奈川県立鎌倉高等学校	5,998	6,075	78	1.5
神奈川県	69	神奈川県立麻溝台高等学校	4,674	4,742	69	12.21
神奈川県	70	横浜市立東高等学校	5,854	5,922	69	1.4
神奈川県	71	関東学院高等学校	3,622	3,714	93	12.22
神奈川県	72	平塚学園高等学校	4,743	4,828	86	12.21
神奈川県	73	藤嶺学園藤沢高等学校	1,621	1,797	177	12.16
神奈川県	74	横浜隼人高等学校	4,829	4,897	69	12.21
神奈川県	75	桐光学園高等学校	3,358	3,410	53	12.18
山梨県	76	山梨県立甲府工業高等学校	3,411	3,450	40	12.18
山梨県	77	駿台甲府高等学校	1,798	1,892	95	12.16
長野県	78	長野県立須坂高等学校	—	—	—	—
長野県	79	長野県立長野工業高等学校	4,898	4,931	34	12.21
長野県	80	長野県立伊那北高等学校	3,545	3,621	77	12.22
静岡県	81	静岡県立浜松西高等学校	6,374	6,491	118	1.14
静岡県	82	静岡県立富士東高等学校	2,691	2,813	123	12.17
島根県	83	島根県立出雲工業高等学校	5,923	5,958	36	1.4
愛媛県	84	愛媛県立松山工業高等学校	547	621	75	12.14
福岡県	85	福岡県立伝習館高等学校	2,814	2,899	86	12.17
福岡県	86	福岡大学附属大濠高等学校	3,451	3,544	94	12.18
東京都	87	昌平高等学校	5,455	5,552	98	12.25
東京都	88	日本大学三島高等学校	970	1,025	56	12.15
東京都	89	都立新宿高等学校	5,959	5,997	39	1.4
			合計		7,161 枚	85 校

※「—」(ハイフン)は回答のなかった高校

＜アンケート集計結果＞



「芝浦工業大学建築学部（仮称）の設置に係る

アンケート調査票」 単純集計

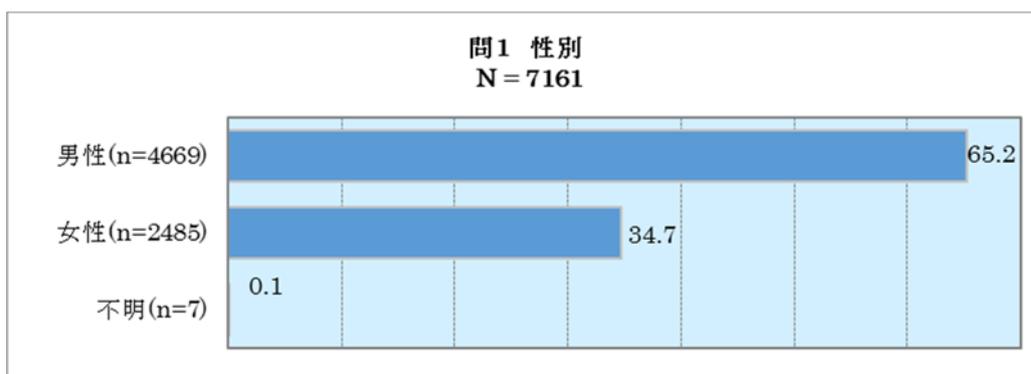
[有効回答票：7,161 票]

※「%」はいずれも小数点第二位を四捨五入

問1 あなたの性別をおたずねします。

回答者（7,161 人）の性別については、4,669 人（65.2%）が「男性」、2,485 人（34.7%）が「女性」である。

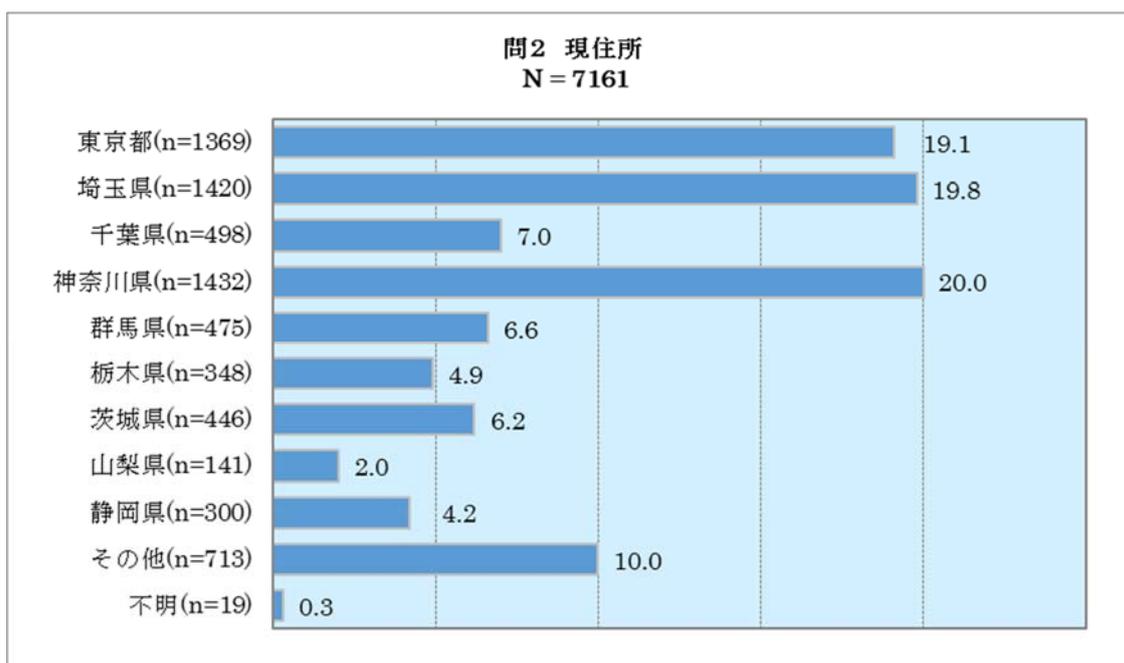
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男性	4,669	65.2
2	女性	2,485	34.7
	不明	7	0.1
	合計	7,161	100



問2 あなたの現住所についておたずねします。次の中から1つだけ選んでください。

回答者のうち、1,432人(20.0%)が神奈川県、1,420人(19.8%)が埼玉県、1,369人(19.1%)が東京都、713人(10.0%)がその他、498人(7.0%)が千葉県、475人(6.6%)が群馬県、446人(6.2%)が茨城県、348人(4.9%)が栃木県、300人(4.2%)が静岡県、141人(2.0%)が山梨県在住である。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	1,369	19.1
2	埼玉県	1,420	19.8
3	千葉県	498	7.0
4	神奈川県	1,432	20.0
5	群馬県	475	6.6
6	栃木県	348	4.9
7	茨城県	446	6.2
8	山梨県	141	2.0
9	静岡県	300	4.2
10	その他	713	10.0
	不明	19	0.3
	合計	7,161	100



## 「10 その他」の回答

その他	件数
宮城県	232
福岡県	172
長野県	102
福島県	71
愛媛県	71
島根県	35
沖縄県	2
北海道	1
石川県	1
香川県	1

問3 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

回答者の希望進路については、「大学進学」が6,509人(90.9%)と最も多く、次いで「就職」が401人(5.6%)、「専門学校進学」が164人(2.3%)、「短期大学進学」が31人(0.4%)の順に続いている。

No	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	6,509	90.9
2	短期大学進学	31	0.4
3	専門学校進学	164	2.3
4	就職	401	5.6
5	その他	47	0.7
	不明	9	0.1
	合計	7,161	100



「5 その他」の回答

その他	件数	その他	件数
未定	30	航空保安大学校進学	1
公務員	1	卒業できない	1
音楽	1	世界征服	1
芸人	1	YouTuber	1
ニート	1		

【問4以降は、問3の「1 大学進学」「2 短期大学進学」「3 専門学校進学」の回答者を対象とする。】

問4 あなたが。進学先で学びたいと考えている分野はどれですか。次の中から第2希望まで選んでください。

第1希望に関しては、「理学・工学関係（建築学を除く）」が2,065人（30.8%）と最も多く、次いで「医学・歯学・薬学関係」が806人（12.0%）、「建築学関係」が715人（10.7%）の順が続いている。

第2希望に関しては、「理学・工学関係（建築学を除く）」が1,215人（18.1%）と最も多く、次いで「情報関係」が724人（10.8%）、「建築学関係」が654人（9.8%）の順が続いている。

No.	カテゴリ	第1希望		第2希望	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	建築学関係	715	10.7	654	9.8
2	理学・工学関係（建築学を除く）	2,065	30.8	1,215	18.1
3	教育学・保育学関係	364	5.4	446	6.7
4	文学・史学・文化・外国語関係	180	2.7	205	3.1
5	哲学・宗教学・心理学関係	70	1.0	164	2.4
6	経済学・経営学・法律学・商学関係	372	5.5	293	4.4
7	社会学関係	37	0.6	137	2.0
8	社会福祉学関係	11	0.2	38	0.6
9	芸術学関係	99	1.5	163	2.4
10	家政学関係（被服・住居）	17	0.3	57	0.9
11	情報関係	440	6.6	724	10.8
12	農学・獣医学関係	430	6.4	374	5.6
13	医学・歯学・薬学関係	806	12.0	415	6.2
14	看護学関係	323	4.8	209	3.1
15	保健・医療関係	256	3.8	450	6.7
16	食物学・栄養学関係	184	2.7	251	3.7
17	リハビリテーション関係	71	1.1	123	1.8
18	健康・スポーツ・体育学関係	113	1.7	260	3.9
19	その他	128	1.9	59	0.9
	不明	23	0.3	467	7.0
	合計	6,704	100	6,704	100

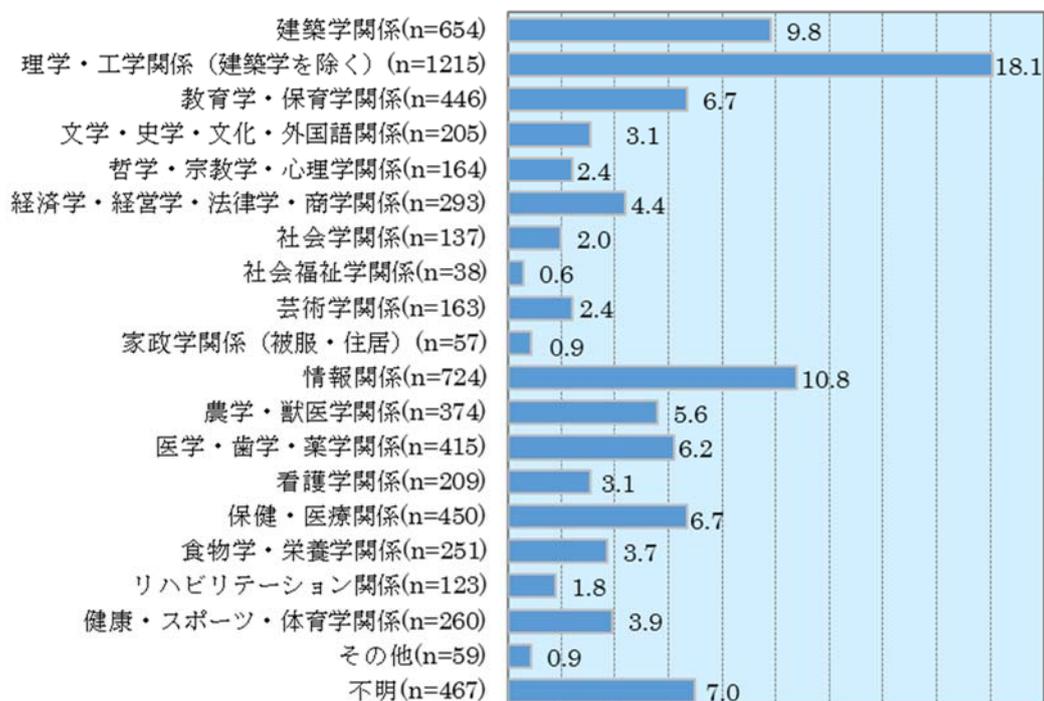
## 問4-1 進学先で学びたい分野 (第1希望)

N = 6704



## 問4-2 進学先で学びたい分野 (第2希望)

N = 6704



## 「19 その他」の回答（第1希望・第2希望）

## 「第1希望」

その他	件数	その他	件数	その他	件数
海洋学関係	13	海上保安大学校	1	食料経済学・ビジネス学	1
美容関係	12	環境	1	製菓・パン	1
未定	7	環境・資源・エネルギー関係	1	生物資源学部	1
観光	4	観光・宇宙	1	生命工学	1
水産系	4	機械化	1	総合科学	1
航空関係	3	空港関係	1	地域政策・まちづくり	1
生物学関係	3	ゲーム学科	1	地球生命	1
航空宇宙学	2	ゲームデザイン	1	天文学	1
公務員	2	ゲームプログラム・アニメグラフィック	1	トリマー	1
デザイン	2	言語学	1	文理融合学部	1
アニメーション・CG	1	建築	1	保育関係	1
宇宙	1	国際教養	1	防衛大	1
応用化学	1	サービス業	1	放射線関係	1
音楽	1	自動車	1	野球	1
海外留学	1	商船関係	1		

## 「第2希望」

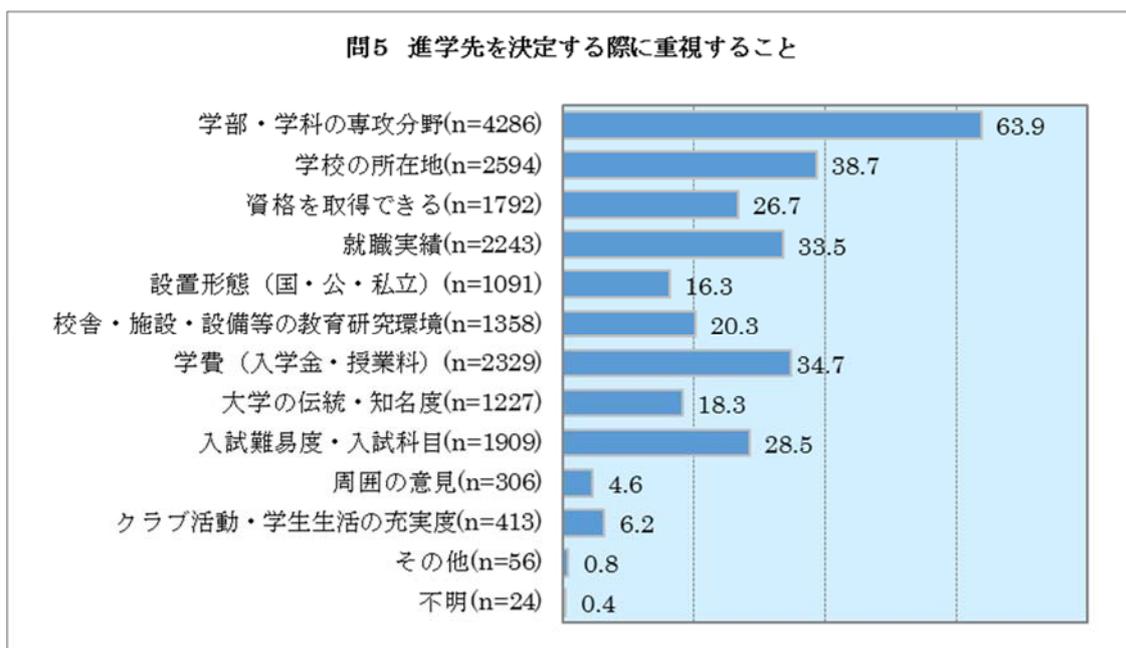
その他	件数	その他	件数	その他	件数
航空宇宙工学	2	女優	1	デザイン	1
未定	2	心理学	1	バイオテクノロジー	1
天文学	2	水産	1	物理学	1
Aviation	1	生産工学	1	防災	1
株	1	政治	1	流通	1
国際	1	生物	1		
国際教養学部	1	調理・製菓	1		

問5 あなたが進学先を決定する際に重視することは何ですか。次の中から 3 つまで選んでください。(複数回答)

回答者が進学先を決定する際に重視する事柄については、「学部・学科の専攻分野」が 4,286 人 (63.9%) と最も多く、次いで「学校の所在地」が 2,594 人 (38.7%)、「学費 (入学金・授業料)」が 2,329 人 (34.7%) の順が続いている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	学部・学科の専攻分野	4,286	63.9
2	学校の所在地	2,594	38.7
3	資格を取得できる	1,792	26.7
4	就職実績	2,243	33.5
5	設置形態 (国・公・私立)	1,091	16.3
6	校舎・施設・設備等の教育研究環境	1,358	20.3
7	学費 (入学金・授業料)	2,329	34.7
8	大学の伝統・知名度	1,227	18.3
9	入試難易度・入試科目	1,909	28.5
10	周囲の意見	306	4.6
11	クラブ活動・学生生活の充実度	413	6.2
12	その他	56	0.8
	不明	24	0.4

(複数回答のため合計=6,704、100%にならない)



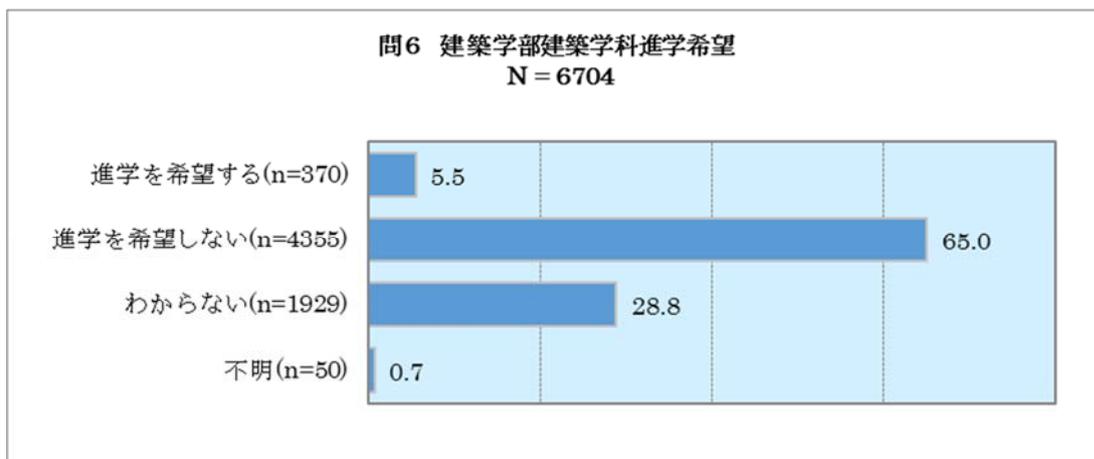
## 「12 その他」の回答

その他	件数	その他	件数
偏差値	3	授業内容	1
学食	2	出身人物	1
校風	2	生徒の雰囲気	1
自分のやりたい事ができるか	2	先生	1
留学制度	2	楽しさ	1
学部・学科理念	1	ふれ合い	1
カリキュラム	1	雰囲気	1
気分	1	他の大学との連携	1
教授	1	自らの意志	1
研究	1	目的の学科があるかどうか	1
国家試験合格率	1	野球部	1
これからに役に立つか	1	良い教授がいるかどうか	1
自分が本当に行きたいかどうか	1	寮	1
自分の夢が実現できるか	1		

問6 あなたは芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）への進学を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）への進学意向は、「進学を希望する」が370件（5.5%）、「進学を希望しない」が4,355件（65.0%）、「わからない」が1,929件（28.8%）となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	進学を希望する	370	5.5
2	進学を希望しない	4,355	65.0
3	わからない	1,929	28.8
	不明	50	0.7
	合計	6,704	100



【問7は、問6の「1 進学を希望する」の回答者を対象とする。】

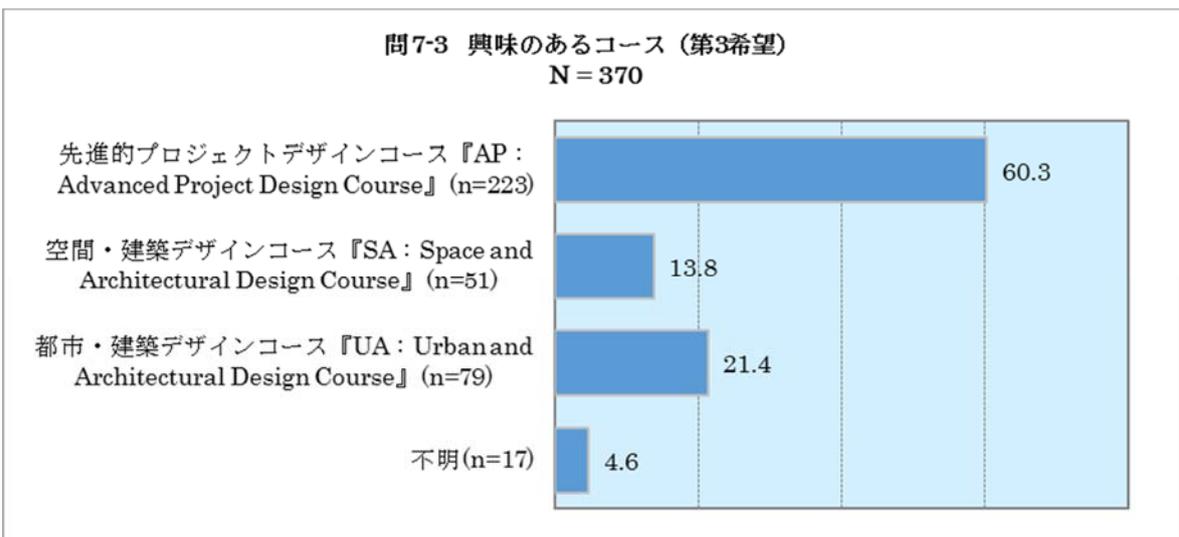
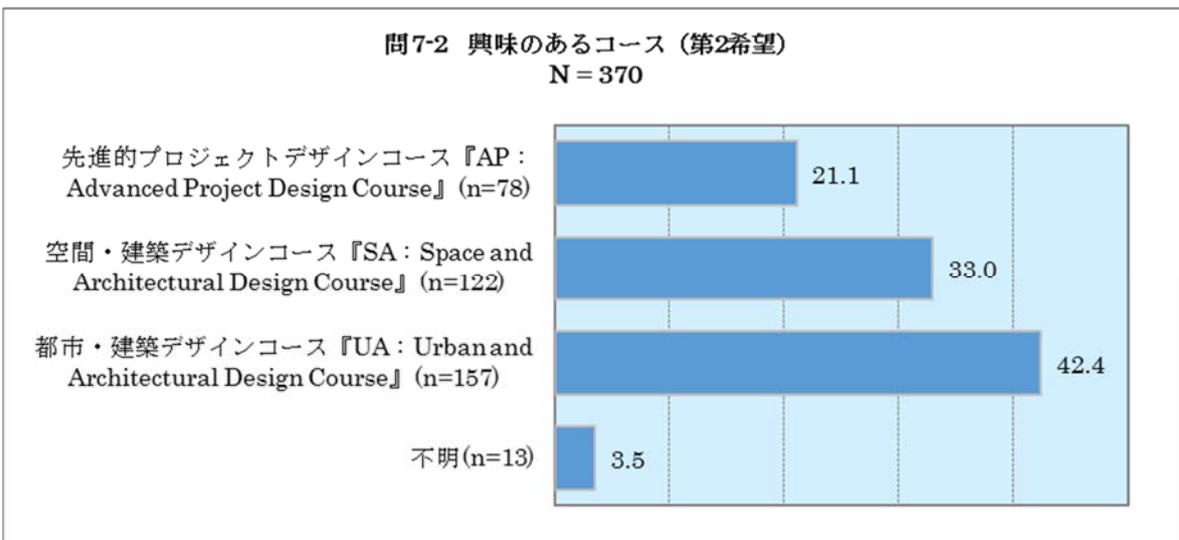
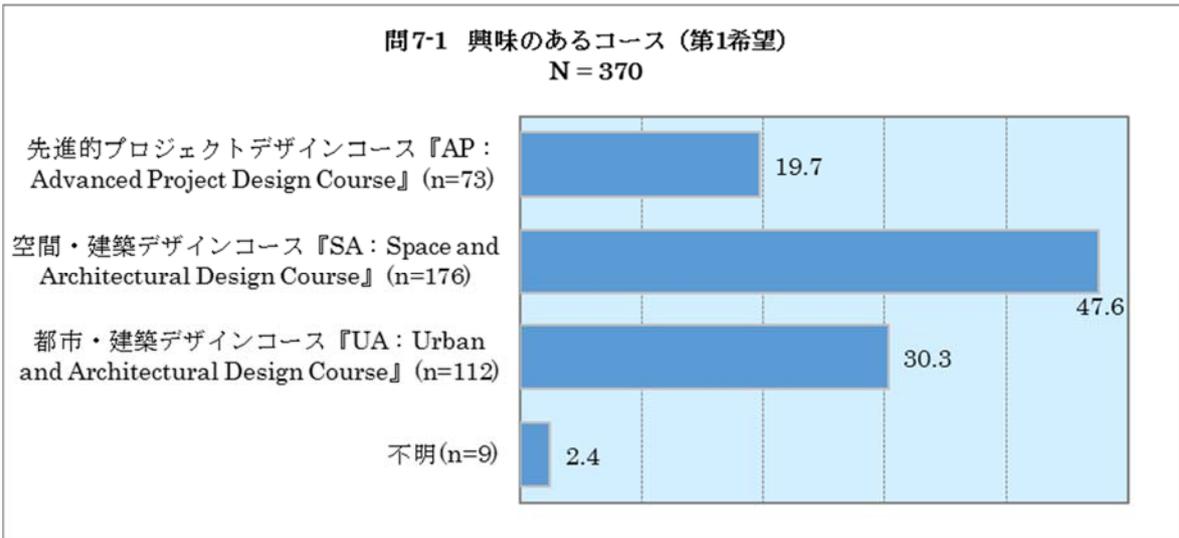
問7 芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）では、下記のコースの設置を予定しています。あなたはどのコースに興味がありますか。次の中から第3希望まで選んでください。

芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）への進学意向を示した回答者のうち、興味のあるコースの第1希望は「空間・建築デザインコース」が176件（47.6%）と最も多く、次いで「都市・建築デザインコース」が112件（30.3%）、「先進的プロジェクトデザインコース」が73件（19.7%）となっている。

第2希望は「都市・建築デザインコース」が157件（42.4%）と最も多く、次いで「空間・建築デザインコース」が122件（33.0%）、「先進的プロジェクトデザインコース」が78件（21.1%）となっている。

第3希望は「先進的プロジェクトデザインコース」が223件（60.3%）と最も多く、次いで「都市・建築デザインコース」が79件（21.4%）、「空間・建築デザインコース」が51件（13.8%）となっている。

No.	カテゴリ	第1希望		第2希望		第3希望	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	先進的プロジェクトデザインコース 『AP: Advanced Project Design Course』	73	19.7	78	21.1	223	60.3
2	空間・建築デザインコース 『SA: Space and Architectural Design Course』	176	47.6	122	33.0	51	13.8
3	都市・建築デザインコース 『UA: Urban and Architectural Design Course』	112	30.3	157	42.4	79	21.4
	不明	9	2.4	13	3.5	17	4.6
	合計	370	100	370	100	370	100



## ○男女別クロス集計

## 問1 性別 × 問2 現住所

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問2 現住所	全体	7,161	4,669	2,485	7
		100.0	100.0	100.0	100.0
	東京都	1,369	828	539	2
		19.1	17.7	21.7	28.6
	埼玉県	1,420	966	454	-
		19.8	20.7	18.3	-
	千葉県	498	280	218	-
		7.0	6.0	8.8	-
	神奈川県	1,432	935	497	-
		20.0	20.0	20.0	-
	群馬県	475	271	204	-
		6.6	5.8	8.2	-
	栃木県	348	306	41	1
		4.9	6.6	1.6	14.3
	茨城県	446	286	160	-
		6.2	6.1	6.4	-
山梨県	141	88	53	-	
	2.0	1.9	2.1	-	
静岡県	300	184	115	1	
	4.2	3.9	4.6	14.3	
その他	713	511	202	-	
	10.0	10.9	8.1	-	
不明	19	14	2	3	
	0.3	0.3	0.1	42.9	

## 問1 性別 × 問3 高校卒業後の進路

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問3 高校卒業後の進路	全体	7,161	4,669	2,485	7
		100.0	100.0	100.0	100.0
	大学進学	6,509	4,217	2,286	6
		90.9	90.3	92.0	85.7
	短期大学進学	31	11	20	-
		0.4	0.2	0.8	-
	専門学校進学	164	86	78	-
		2.3	1.8	3.1	-
	就職	401	316	84	1
		5.6	6.8	3.4	14.3
	その他	47	32	15	-
		0.7	0.7	0.6	-
	不明	9	7	2	-
		0.1	0.1	0.1	-

## 問1 性別 × 問4-1 進学先で学びたい分野（第1希望）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問4-1 進学先で学びたい分野（第1希望）	全体	6,704	4,314	2,384	6
		100.0	100.0	100.0	100.0
	建築学関係	715	536	178	1
		10.7	12.4	7.5	16.7
	理学・工学関係（建築学を除く）	2,065	1,703	358	4
		30.8	39.5	15.0	66.7
	教育学・保育学関係	364	231	133	-
		5.4	5.4	5.6	-
	文学・史学・文化・外国語関係	180	82	98	-
		2.7	1.9	4.1	-
	哲学・宗教学・心理学関係	70	29	41	-
		1.0	0.7	1.7	-
	経済学・経営学・法学・商学関係	372	267	105	-
		5.5	6.2	4.4	-
	社会学関係	37	23	14	-
		0.6	0.5	0.6	-
	社会福祉学関係	11	6	5	-
		0.2	0.1	0.2	-
	芸術学関係	99	44	55	-
		1.5	1.0	2.3	-
	家政学関係（被服・住居）	17	1	16	-
		0.3	-	0.7	-
	情報関係	440	373	67	-
		6.6	8.6	2.8	-
	農学・獣医学関係	430	238	191	1
		6.4	5.5	8.0	16.7
	医学・歯学・薬学関係	806	401	405	-
	12.0	9.3	17.0	-	
看護学関係	323	31	292	-	
	4.8	0.7	12.2	-	
保健・医療関係	256	93	163	-	
	3.8	2.2	6.8	-	
食物学・栄養学関係	184	32	152	-	
	2.7	0.7	6.4	-	
リハビリテーション関係	71	35	36	-	
	1.1	0.8	1.5	-	
健康・スポーツ・体育学関係	113	87	26	-	
	1.7	2.0	1.1	-	
その他	128	83	45	-	
	1.9	1.9	1.9	-	
不明	23	19	4	-	
	0.3	0.4	0.2	-	

## 問1 性別 × 問4-2 進学先で学びたい分野（第2希望）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問4-2 進学先で学びたい分野（第2希望）	全体	6,704	4,314	2,384	6
		100.0	100.0	100.0	100.0
	建築学関係	654	545	109	-
		9.8	12.6	4.6	-
	理学・工学関係（建築学を除く）	1,215	953	262	-
		18.1	22.1	11.0	-
	教育学・保育学関係	446	304	142	-
		6.7	7.0	6.0	-
	文学・史学・文化・外国語関係	205	129	76	-
		3.1	3.0	3.2	-
	哲学・宗教学・心理学関係	164	110	54	-
		2.4	2.5	2.3	-
	経済学・経営学・法学・商学関係	293	208	84	1
		4.4	4.8	3.5	16.7
	社会学関係	137	86	50	1
		2.0	2.0	2.1	16.7
	社会福祉学関係	38	20	18	-
		0.6	0.5	0.8	-
	芸術学関係	163	67	96	-
		2.4	1.6	4.0	-
	家政学関係（被服・住居）	57	9	48	-
		0.9	0.2	2.0	-
	情報関係	724	613	110	1
		10.8	14.2	4.6	16.7
	農学・獣医学関係	374	214	160	-
		5.6	5.0	6.7	-
	医学・歯学・薬学関係	415	215	199	1
	6.2	5.0	8.3	16.7	
看護学関係	209	42	167	-	
	3.1	1.0	7.0	-	
保健・医療関係	450	126	324	-	
	6.7	2.9	13.6	-	
食物学・栄養学関係	251	76	174	1	
	3.7	1.8	7.3	16.7	
リハビリテーション関係	123	67	56	-	
	1.8	1.6	2.3	-	
健康・スポーツ・体育学関係	260	194	66	-	
	3.9	4.5	2.8	-	
その他	59	37	22	-	
	0.9	0.9	0.9	-	
不明	467	299	167	1	
	7.0	6.9	7.0	16.7	

## 問1 性別 × 問5 進学先を決定する際に重視すること（複数回答）

		問1 性別			
上段:度数		合計	男性	女性	不明
下段:%					
問5 進学先を決定する際に重視すること	学部・学科の専攻分野	4,286	2,724	1,559	3
		63.9	63.1	65.4	50.0
	学校の所在地	2,594	1,639	952	3
		38.7	38.0	39.9	50.0
	資格を取得できる	1,792	961	828	3
		26.7	22.3	34.7	50.0
	就職実績	2,243	1,499	741	3
		33.5	34.7	31.1	50.0
	設置形態（国・公・私立）	1,091	719	372	-
		16.3	16.7	15.6	-
	校舎・施設・設備等の教育研究環境	1,358	856	500	2
		20.3	19.8	21.0	33.3
	学費（入学金・授業料）	2,329	1,492	836	1
		34.7	34.6	35.1	16.7
	大学の伝統・知名度	1,227	876	351	-
		18.3	20.3	14.7	-
入試難易度・入試科目	1,909	1,250	656	3	
	28.5	29.0	27.5	50.0	
周囲の意見	306	222	84	-	
	4.6	5.1	3.5	-	
クラブ活動・学生生活の充実度	413	284	129	-	
	6.2	6.6	5.4	-	
その他	56	42	14	-	
	0.8	1.0	0.6	-	
不明	24	20	4	-	
	0.4	0.5	0.2	-	

（複数回答のため合計=6,704、100%にならない）

## 問1 性別 × 問6 建築学部建築学科進学希望

		問1 性別			
上段:度数		合計	男性	女性	不明
下段:%					
問6 建築学部建築学科進学希望	全体	6,704	4,314	2,384	6
		100.0	100.0	100.0	100.0
	進学を希望する	370	296	74	-
		5.5	6.9	3.1	-
	進学を希望しない	4,355	2,523	1,827	5
		65.0	58.5	76.6	83.3
わからない	1,929	1,466	462	1	
	28.8	34.0	19.4	16.7	
不明	50	29	21	-	
	0.7	0.7	0.9	-	

問1 性別 × 問7-1 興味のあるコース（第1希望）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問7-1 興味のあるコース（第1希望）	全体	370	296	74	-
		100.0	100.0	100.0	-
	先進的プロジェクトデザインコース	73	63	10	-
		19.7	21.3	13.5	-
	空間・建築デザインコース	176	126	50	-
		47.6	42.6	67.6	-
都市・建築デザインコース	112	98	14	-	
	30.3	33.1	18.9	-	
不明	9	9	-	-	
	2.4	3.0	-	-	

問1 性別 × 問7-2 興味のあるコース（第2希望）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問7-2 興味のあるコース（第2希望）	全体	370	296	74	-
		100.0	100.0	100.0	-
	先進的プロジェクトデザインコース	78	64	14	-
		21.1	21.6	18.9	-
	空間・建築デザインコース	122	107	15	-
		33.0	36.1	20.3	-
都市・建築デザインコース	157	113	44	-	
	42.4	38.2	59.5	-	
不明	13	12	1	-	
	3.5	4.1	1.4	-	

問1 性別 × 問7-3 興味のあるコース（第3希望）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問7-3 興味のあるコース（第3希望）	全体	370	296	74	-
		100.0	100.0	100.0	-
	先進的プロジェクトデザインコース	223	174	49	-
		60.3	58.8	66.2	-
	空間・建築デザインコース	51	42	9	-
		13.8	14.2	12.2	-
都市・建築デザインコース	79	64	15	-	
	21.4	21.6	20.3	-	
不明	17	16	1	-	
	4.6	5.4	1.4	-	



＜アンケート調査票＞





【問4以降は、問3で「1 大学進学」「2 短期大学進学」「3 専門学校進学」を回答された方におたずねします。】

問4 あなたが進学先で学びたいと考えている分野はどれですか。次の中から**第2希望まで**選んでください。

- |                   |                  |                          |
|-------------------|------------------|--------------------------|
| 1 建築学関係           | 11 情報関係          | 第1希望                     |
| 2 理学・工学関係（建築学を除く） | 12 農学・獣医学関係      | <input type="checkbox"/> |
| 3 教育学・保育学関係       | 13 医学・歯学・薬学関係    |                          |
| 4 文学・史学・文化・外国語関係  | 14 看護学関係         | 第2希望                     |
| 5 哲学・宗教学・心理学関係    | 15 保健・医療関係       | <input type="checkbox"/> |
| 6 経済学・経営学・法学・商学関係 | 16 食物学・栄養学関係     |                          |
| 7 社会学関係           | 17 リハビリテーション関係   |                          |
| 8 社会福祉学関係         | 18 健康・スポーツ・体育学関係 |                          |
| 9 芸術学関係           | 19 その他（          |                          |
| 10 家政学関係（被服・住居）   |                  |                          |

問5 あなたが進学先を決定する際に重視することは何ですか。次の中から**3つまで**選んでください。

- |                    |                   |                          |
|--------------------|-------------------|--------------------------|
| 1 学部・学科の専攻分野       | 7 学費（入学金・授業料）     | <input type="checkbox"/> |
| 2 学校の所在地           | 8 大学の伝統・知名度       |                          |
| 3 資格を取得できる         | 9 入試難易度・入試科目      | <input type="checkbox"/> |
| 4 就職実績             | 10 周囲の意見          |                          |
| 5 設置形態（国・公・私立）     | 11 クラブ活動・学生生活の充実度 | <input type="checkbox"/> |
| 6 校舎・施設・設備等の教育研究環境 | 12 その他（           |                          |

次の設問からは、芝浦工業大学が設置を計画している建築学部建築学科（仮称）について伺います。リーフレットをご覧ください。回答してください。

問6 あなたは芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）への進学を希望しますか。次の中から**1つだけ**選んでください。

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| 1 進学を希望する  | <input type="checkbox"/> |
| 2 進学を希望しない |                          |
| 3 わからない    |                          |

【問7は、問6で「1 進学を希望する」を回答された方におたずねします。】

問7 芝浦工業大学建築学部建築学科（仮称）では、下記のコースの設置を予定しています。あなたはどのコースに興味がありますか。次の中から**第3希望まで**選んでください。

- |  |      |
|--|------|
| 1 先進的プロジェクトデザインコース『AP : Advanced Project Design Course』<br>[コース内容] 震災復興から環境問題や国際貢献まで、建築を通して社会に貢献する人材を育成する。<br>実践的なプロジェクト型授業や海外の提携大学との交換授業もあります。        | 第1希望 |
| 2 空間・建築デザインコース『SA : Space and Architectural Design Course』<br>[コース内容] 総合的な視点から豊かな生活環境を創造できる人材を育成する。<br>建築を中心にインテリアからまちづくりまで、建築教育の各分野を幅広く、深く学びます。       | 第2希望 |
| 3 都市・建築デザインコース『UA : Urban and Architectural Design Course』<br>[コース内容] 新しい時代の建築を支える哲学を確立し、建築を通して世界に貢献する人材を育成する。<br>単体の建築物から都市空間まで、居住の質を高めるためのデザインを学びます。 | 第3希望 |

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

ケン  
チ  
ク  
の  
ヒ  
ト  
に  
な  
る。

# SIT ARCH.

Shibaura Institute of Technology  
School of Architecture

大切なものは、何だろう。毎日の暮らし。そこに住んでいる人びとの視点。世界をケンチクで考える、自立した方法と姿勢を学びたい。

都心で学ぶ、充実の4年間。

学部の4年間に加えて修士の2年間も一貫して、  
東京ベイエリアにある豊洲キャンパスで学ぶことができます。

芝浦工業大学 | 建築学部 | 建築学科

2017年4月開設予定 [設置構想中]

学部学科の概要は予定であり、変更になる場合があります



SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

# 2017年、「建築学部」が誕生!

あの「シバウラのケンチュク」が生まれ変わります。

## 学科から「建築学部」へ

2017年春、芝浦工業大学の「工学部建築学科」「工学部建築工学科」「デザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)」の2学科1領域が統合・再編成され、「建築学部」が新たに誕生します。

## 新ジャンルを含んだカリキュラム

「建築学部」として1学部、1学科、3コースを設置します。空間系・都市系などに重心を置いた複数のコースを設置し、人材育成の方向性に基づいた特色ある少人数制教育カリキュラムを用意しています。

- [1] 家具やインテリア、住宅など、身の回りにもっとも近い空間の建築・デザイン
- [2] 地域や都市計画、地球環境へとつながる構造的な都市の建築・デザイン
- [3] 地域づくりや災害・海外支援、再開発や古民家再生など、現代社会の課題を題材に、これまで無かった新たな視点で取り組む先進的な建築・デザイン

という、3つの視点を柱とします。



## 「シバウラのケンチュク」の伝統と実績

「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に掲げた、芝浦工業大学の伝統的な建築教育には定評があります。少人数制、早い時期からの専門教育により、4年次には高度な研究が可能になります。卒業生は、大手ゼネコン、組織設計事務所、ハウスメーカー、官庁、地方自治体などに就職するほか、起業やNPO設立など、独立して仕事に携わる人も少なくありません。約10,000人の卒業生が日本や世界の建築を支えてきています。2014年度一級建築士の学校別合格者数ランキングは全国5位(75名合格)でした。

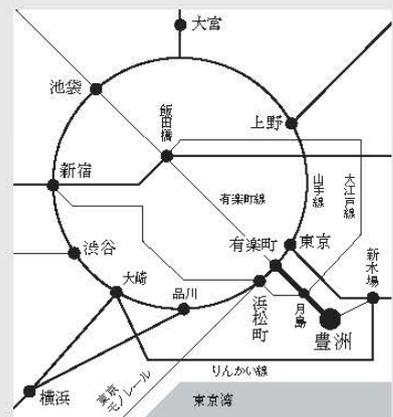
## 都心で4年間学べる唯一の建築学部

学部の4年間に加えて修士の2年間も一貫して、東京ベイエリアにある豊洲キャンパスで学ぶことができます。キャンパスのある豊洲は、いままさに街が新たに生まれつつある場所。水辺に囲まれ、水都を象徴する運河を越えれば、門前仲町や清澄白河、月島など、懐かしい面影を残す街並みが広がります。本学も地域に開かれた教育を目指しており、フィールドは無限大。新しいものと古いものが交差する街で、多くの建築的テーマが見つかるに違いありません。



## 芝浦工業大学 建築学部 | 建築学科

2017年4月開設予定 [設置構想中]  
 学部学科の概要は予定であり、変更になる場合があります  
**修業年限** 4年  
**取得学位** 学士(建築学) Bachelor of Architecture  
**募集定員** 240名[予定]  
**開設時期** 2017年4月[予定]  
**開設場所** 豊洲キャンパス[1-4年次/都心一貫教育]  
 〒133-8548 東京都江東区豊洲3-7-5  
 東京メトロ豊洲駅より徒歩10分、JR 越中島駅より徒歩13分  
**建築学部開設準備室** 電話 = 03-5859-7890  
 メールアドレス = coa-jyunbi@ow.shibaura-it.ac.jp



## 芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY  
 Established 1927



1. [書類等の題名]

【資料7】株式会社リクルートホールディングスリクルートワークス研究所  
「第32回ワークス大卒求人倍率調査（2016年卒）」

2. [出典]

リクルートワークス研究所

3. [引用範囲]

リクルートワークス研究所「調査結果 | 大卒求人倍率調査（2016年卒）」

<http://www.works-i.com/surveys/graduate.html>

4. [その他の説明]

資料番号を記入した。

1. [書類等の題名]

【資料8】株式会社リクルートホールディングスリクルートワークス研究所  
「ワークス採用見通し調査（新卒：2017年卒）」

2. [出典]

リクルートワークス研究所

3. [引用範囲]

リクルートワークス研究所「調査結果 | 採用見通し調査（新卒：2017年卒）」

<http://www.works-i.com/surveys/forecast.html>

4. [その他の説明]

資料番号を記入した。